

玉名市文化財調査報告 第20集

YANAGI MATI

柳町遺跡

一般国道208号玉名バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財調査

平成21年(2009)3月

玉名市教育委員会



柳町遺跡全景（調査Ⅲ-2区調査時）北西から



調査Ⅲ-1区SK-12内木製匣甲出土状況



母沢郷長村五反丁赤区丁目録



銅釜Ⅲ-1区築高地掘部 (K-12) 青銅鏡出土状況



朝孟Ⅲ-1区検出地層部 (K-12) 出土青銅鏡

序 文

玉名市教育委員会では、建設省九州地方建設局熊本工事事務所（現国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所）の計画した一般国道208号玉名バイパス建設事業に伴い、玉名市大字河崎に所在する柳町遺跡の発掘調査を実施しました。

本報告書は、平成7年度から平成11年度の5ヵ年の調査成果として刊行するものです。

発掘調査の結果、当地において縄文時代から現代にいたるまで連続と続く人類の営みの痕跡が確認されました。特に弥生時代末から古墳時代初頭及び古代期の多くの遺構や遺物は、これまではっきりしなかった当時の玉名平野の様子を解明する貴重な資料となるものと思われます。

この報告書が、埋蔵文化財保護の推進並びに学術研究の一助となればまことに喜びに堪えません。

最後に本発掘調査及び報告書作成を実施するにあたり、ご指導、ご協力を賜りました皆様方に対しまして厚くお礼申し上げます。

平成21年3月31日

玉名市教育委員会

教育長 菊川 茂男

例 言

1. 本書は、玉名市教育委員会が建設省九州地方建設局熊本工事事務所（現国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所）の委託を受けて実施した、玉名市河崎に所在する柳町遺跡の調査報告書である。
2. 調査は、平成7年度から平成11年度にかけて、現地において熊本県教育庁文化課と旧玉名市教育委員会社会教育課の合同調査として実施した。
3. 調査に伴う遺構の実測ならびに現地の写真撮影は、調査Ⅲ-1区を江原浩二・田中康雄が、調査Ⅲ-2区を末永崇・中尾健照が、調査Ⅴ区を田中が、調査Ⅵ区を田中・中尾が、調査Ⅸ区を田中・末永・中尾が行った。地形測量は株式会社埋蔵文化財サポートシステム熊本支店に委託した。
4. 調査区全体の4級基準点測量、グリッド杭の設置、取り上げ遺物データ化作業は株式会社埋蔵文化財サポートシステム熊本支店に委託した。
5. 調査Ⅲ-2区及び調査Ⅸ区の空中写真撮影は、株式会社埋蔵文化財サポートシステム熊本支店に委託し、調査Ⅱ・Ⅲ-1区、調査Ⅳ・Ⅴ区、調査Ⅵ・Ⅶ区の空中写真については、熊本県教育庁文化課より資料の提供をいただいた。
6. 出土遺物の整理作業は、田中・末永が担当し、玉名市文化財整理室で行った。
7. 遺物の実測は、田中・末永・中尾・古閑敬士・大倉千寿・権藤 功が行い、一部を株式会社埋蔵文化財サポートシステム熊本支店に委託した。製図は、田中・早川イツエ・権藤が行った。
8. 遺物の写真撮影は、田中・末永・荒木隆宏・古閑が行った。
9. 挿図に使用している座標値は、世界測地系の第2座標系に基づいており、方位は特に記載がない限り座標北を示す。
10. 出土遺物は、玉名市文化財整理室で保管している。
11. 本書の執筆は、第Ⅳ章自然科学分析を除き、田中が行った。
12. 本書の編集は、中山富雄の指示に基づき、田中が行った。

凡 例

1. 柳町遺跡の全調査区位置図は3,000分の1とした。
2. 現地での測量作業では、遺構配置図・地形測量図とも100分の1、200分の1で行い、本書への掲載については、各図中に縮尺を示した。
3. 現地での各遺構の実測は、20分の1、10分の1で行った。本書への掲載は、基本的に40分の1、20分の1で行い、図中に縮尺を示した。
4. 出土遺物は全て通し番号とした。縮尺については、土器は3分の1及び2分の1、木製品は4分の1及び6分の1、その他の遺物は1分の1及び2分の1とし、各図中に縮尺を示した。
5. 遺構名称は、「調査区名+略記号+番号」で表示した。略記号は以下のとおりである。
土坑跡 (SK)・井戸跡 (SE)・溝跡 (SD)・竪穴住居跡 (SI)・杭列 (SM)・不明遺構及び「～状遺構」(SX)

本文目次

第I章	はじめに	
第1節	調査にいたる経緯と組織	1
1.	調査経緯	1
2.	調査組織	1
第2節	地理的環境・歴史的環境	3
I.	地理的環境	3
II.	玉名平野	6
III.	歴史的環境	6
第II章	調査概要	17
第1節	調査区の設定	19
第III章	調査成果	21
第1節	調査Ⅲ-1区(平成7年度調査)	23
1.	層位	24
2.	遺構及び出土遺物	27
(1)	縄文時代晩期の遺構・遺物	28
(2)	弥生時代末～古墳時代初頭の遺構・遺物	32
(3)	その他の遺構・遺物	34
第2節	調査Ⅲ-2区(平成11年度調査)	88
1.	層位	89
2.	遺構及び出土遺物	90
第3節	調査Ⅴ区(平成8年度調査)	107
1.	層位	108
2.	遺構及び出土遺物	114
第4節	調査Ⅵ区(平成9年度調査)	117
1.	層位	118

第5節 調査IX区（平成10年度調査）	123
1. 層位	124
2. 遺構及び出土遺物	125
第IV章 自然科学分析	127
第1節 自然科学分析の概要	129
第2節 土壌分析	129
I. 柳町遺跡におけるプラント・オパール分析	129
II. 柳町遺跡における花粉分析	143
III. 柳町遺跡における寄生虫卵分析	147
第3節 木製品樹種同定	149
1. 柳町遺跡出土木製短甲の樹種	149
2. 柳町遺跡から出土した木製品の樹種	151
3. 玉名市柳町遺跡出土木製品の樹種調査結果	152
第V章 出土遺物観察表	155-186

插图目次

第1图	周边遺跡分布图	9
第2图	全調査区位置图(調査I~X-II区)	19
第3图	調査II・III-1区全体图	23
第4图	調査III-1区基本土層图	24
第5图	調査III-1区土層断面图1	25
第6图	調査III-1区土層断面图2	26
第7图	調査III-1区遺構配置图	27
第8图	III-1SK-01・02実測图	28
第9图	III-1SK-02出土遺物実測图	29
第10图	III-1縄文時代晚期土器実測图1	30
第11图	III-1縄文時代晚期土器実測图2	31
第12图	調査II・III-1区自然流路全体图(弥生時代末~古墳時代初頭)	32
第13图	調査II・III-1区地形測量图(弥生時代末~古墳時代初頭)	33
第14图	III-1SK-03実測图	34
第15图	III-1SK-03出土遺物実測图	35
第16图	III-1SK-04実測图	36
第17图	III-1SK-04出土遺物実測图	36
第18图	III-1SK-05実測图	37
第19图	III-1SK-05出土遺物実測图	38
第20图	III-1SK-06実測图	39
第21图	III-1SK-07実測图	39
第22图	III-1SK-08実測图	39
第23图	III-1SK-08出土遺物実測图	40
第24图	III-1SK-09・10・11実測图	41
第25图	III-1SK-10出土遺物実測图	42
第26图	III-1SK-12・13実測图	43
第27图	III-1SK-12出土遺物実測图	44
第28图	III-1SK-14・15・SE-01実測图	45
第29图	III-1SE-01出土遺物実測图	46
第30图	III-1SK-16実測图	47
第31图	III-1SE-02・SK-17実測图	48
第32图	III-1SE-02・SK-17出土遺物実測图	49
第33图	III-1SK-18実測图	50
第34图	III-1SK-18出土遺物実測图	51

第35图	III-1SK-19实测图	52
第36图	III-1SK-19出土遺物实测图	52
第37图	III-1SK-20·21实测图	52
第38图	III-1SK-22实测图	53
第39图	III-1SK-23·24、III-1SP-01·02·03实测图	53
第40图	III-1SK-25·26实测图	54
第41图	III-1SK-27·28实测图	55
第42图	III-1SK-28出土遺物实测图	55
第43图	III-1SK-29实测图	56
第44图	III-1SX-01实测图	56
第45图	III-1SX-01出土遺物实测图	57
第46图	III-1SM-01实测图	58
第47图	III-1SM-01木杭实测图 1	59
第48图	III-1SM-01木杭实测图 2	60
第49图	III-1SM-01木杭实测图 3	61
第50图	III-1SM-01木杭实测图 4	62
第51图	III-1包含層内出土遺物平面分布图	63
第52图	III-1包含層内出土遺物实测图 1	64
第53图	III-1包含層内出土遺物实测图 2	65
第54图	III-1包含層内出土遺物实测图 3	66
第55图	III-1包含層内出土遺物实测图 4	67
第56图	III-1包含層内出土遺物实测图 5	68
第57图	III-1包含層内出土遺物实测图 6	69
第58图	III-1包含層内出土遺物实测图 7	70
第59图	III-1包含層内出土遺物实测图 8	71
第60图	III-1包含層内出土遺物实测图 9	72
第61图	III-1包含層内出土遺物实测图 10	73
第62图	III-1包含層内出土遺物实测图 11	74
第63图	III-1包含層内出土遺物实测图 12	75
第64图	III-1包含層内出土遺物实测图 13	76
第65图	III-1包含層内出土遺物实测图 14	77
第66图	III-1包含層内木製品平面分布图	78
第67图	III-1自然流路内遺物集中域实测图	79
第68图	III-1包含層内出土木製品实测图 1	80

第69图	Ⅲ-1包含層内出土木製品実測図 2	81
第70图	Ⅲ-1包含層内出土木製品実測図 3	82
第71图	Ⅲ-1包含層内出土木製品実測図 4	83
第72图	Ⅲ-1包含層内出土木製品実測図 5	84
第73图	Ⅲ-1包含層内出土木製品実測図 6	85
第74图	Ⅲ-1包含層内出土木製品実測図 7	86
第75图	Ⅲ-1SK-30実測図	87
第76图	Ⅲ-1古代期出土遺物実測図	87
第77图	調査Ⅲ-2区全体図	88
第78图	調査Ⅲ-2区基本土層図	89
第79图	調査Ⅲ-2区遺構配置図	90
第80图	調査Ⅲ-2区地形測量図	91
第81图	Ⅲ-2SP-01・02実測図	92
第82图	Ⅲ-2SK-01実測図	92
第83图	Ⅲ-2SK-02実測図	92
第84图	Ⅲ-2SK-03実測図	92
第85图	Ⅲ-2SK-04実測図	92
第86图	Ⅲ-2SK-05・07実測図	93
第87图	Ⅲ-2SK-05出土遺物実測図	93
第88图	Ⅲ-2SK-07出土遺物実測図	93
第89图	Ⅲ-2SK-06実測図	94
第90图	Ⅲ-2SK-08実測図	94
第91图	Ⅲ-2SK-09実測図	94
第92图	Ⅲ-2SK-10実測図	94
第93图	Ⅲ-2SK-11・12実測図	95
第94图	Ⅲ-2SK-11出土遺物実測図 1	96
第95图	Ⅲ-2SK-11出土遺物実測図 2	97
第96图	Ⅲ-2SK-11出土木製品実測図	97
第97图	Ⅲ-2SK-12出土遺物実測図 1	98
第98图	Ⅲ-2SK-12出土遺物実測図 2	99
第99图	Ⅲ-2SK-13実測図	99
第100图	Ⅲ-2SK-13出土遺物実測図	100
第101图	Ⅲ-2SK-14実測図	101
第102图	Ⅲ-2SK-14出土遺物実測図	101

第103図	III-2SK-15実測図	101
第104図	III-2SE-01実測図	102
第105図	III-2SE-01出土遺物実測図 1	103
第106図	III-2SE-01出土遺物実測図 2	104
第107図	III-2SE-02実測図	105
第108図	III-2SE-02出土遺物実測図	105
第109図	III-2SD-01出土遺物実測図	106
第110図	III-2包含層内出土遺物実測図	106
第111図	調査IV・V区全体図	107
第112図	調査V区土層断面図 1	108
第113図	調査V区土層断面図 2	109
第114図	調査V区土層断面図 3	110
第115図	調査V区土層断面図 4	111
第116図	調査V区遺構配置図	112
第117図	調査V区地形測量図	113
第118図	VSD-01実測図	114
第119図	VSD-01出土遺物実測図	115
第120図	VSK-01実測図	115
第121図	VSP-01・02・03実測図	115
第122図	VSM-01実測図	115
第123図	VSM-02実測図	116
第124図	V包含層内出土遺物実測図	116
第125図	調査VI・VII区全体図	117
第126図	調査VI区基本土層図	118
第127図	調査VI区遺構配置図 (弥生時代末～古墳時代初頭)	119
第128図	調査VI区地形測量図 (弥生時代末～古墳時代初頭)	120
第129図	調査VI・VII区遺構配置図 (古代)	121
第130図	調査VI区遺構配置図 (古代)	122
第131図	調査IX区遺構配置図 (弥生時代末～古墳時代初頭)	123
第132図	調査IX区基本土層図	124
第133図	調査IX区遺構配置図 (古代以降)	125

表 目 次

第 1 表	出土土器觀察表(調査Ⅲ-1・Ⅲ-2・Ⅴ区)	157
第 2 表	出土石器觀察表	182
第 3 表	出土青銅器觀察表	182
第 4 表	出土木製品觀察表	183

写真図版目次

- 写真1 調査Ⅱ・Ⅲ-1区全景
写真2 Ⅲ-1SK-02遺物出土状況（北から）
写真3 Ⅲ-1SK-02完掘状況（北から）
写真4 Ⅲ-1SK-03遺物出土状況（南から）
写真5 Ⅲ-1SK-03完掘状況（南から）
写真6 Ⅲ-1SK-05遺物出土状況（北から）
写真7 Ⅲ-1SK-04完掘状況（北から）
写真8 Ⅲ-1SK-05遺物出土状況（西から）
写真9 Ⅲ-1SK-05完掘状況（東から）
写真10 Ⅲ-1SK-06完掘状況（東から）
写真11 Ⅲ-1SK-07完掘状況（西から）
写真12 Ⅲ-1SK-08遺物出土状況（東から）
写真13 Ⅲ-1SK-08完掘状況（東から）
写真14 Ⅲ-1SK-10完掘状況（北から）
写真15 Ⅲ-1SK-11完掘状況（南から）
写真16 Ⅲ-1SK-12遺物出土状況（東から）
写真17 Ⅲ-1SK-12完掘状況（東から）
写真18 Ⅲ-1SK-14遺物出土状況（西から）
写真19 Ⅲ-1SK-15完掘状況（北から）
写真20 Ⅲ-1SE-01遺物出土状況1（東から）
写真21 Ⅲ-1SE-01遺物出土状況2（北から）
写真22 Ⅲ-1SE-01完掘状況（北から）
写真23 Ⅲ-1SK-16完掘状況（西から）
写真24 Ⅲ-1SE-02遺物出土状況（北から）
写真25 Ⅲ-1SE-02完掘状況（東から）
写真26 Ⅲ-1SK-17遺物出土状況（北から）
写真27 Ⅲ-1SK-17完掘状況（西から）
写真28 Ⅲ-1SK-18遺物出土状況（北から）
写真29 Ⅲ-1SK-18完掘状況（北から）
写真30 Ⅲ-1SK-19完掘状況（南から）
写真31 Ⅲ-1SK-21完掘状況（北から）
写真32 Ⅲ-1SK-22完掘状況（北から）
写真33 Ⅲ-1SK-23完掘状況（東から）
写真34 Ⅲ-1SK-24、SP-01・02・03完掘状況（東から）

- 写真35 III-1SK-25完掘状況 (南から)
- 写真36 III-1SK-26完掘状況 (南から)
- 写真37 III-1SK-28完掘状況 (東から)
- 写真38 III-1SK-30完掘状況 (南から)
- 写真39 III-1SX-01遺物出土状況 (西から)
- 写真40 III-1SX-01完掘状況 (北から)
- 写真41 III-1SM-01検出状況 (南から)
- 写真42 III-1区 (L-11) 微高地裾部遺物出土状況 (北から)
- 写真43 III-1区 (K-11・12) 微高地裾部遺物出土状況 (北から)
- 写真44 III-1区 (K-12) 微高地裾部有孔円板出土状況 (西から)
- 写真45 III-1区 (K-09・10) 自然流路内遺物出土状況全景 (東から)
- 写真46 III-1区 (K-09・10) 自然流路内遺物出土状況全景 (北から)
- 写真47 III-1区 (K-09・10) 自然流路内遺物出土状況近影1 (西から)
- 写真48 III-1区 (K-09・10) 自然流路内遺物出土状況近影2 (東から)
- 写真49 III-1区 (K-09・10) 自然流路内遺物出土状況近影3 (西から)
- 写真50 III-1区 (K-09・10) 自然流路内遺物出土状況近影4
- 写真51 III-1区 (K-10) 木製品出土状況1 (北から)
- 写真52 III-1区 (K-10) 木製品出土状況2 (東から)
- 写真53 III-1区 (J-11) 木製品出土状況1 (東から)
- 写真54 III-1区 (J-11) 木製品出土状況2 (南から)
- 写真55 III-1区 (J-11) 木製品出土状況3 (東から)
- 写真56 III-1区 (L-10) 自然流路内遺物出土状況 (東から)
- 写真57 III-1区 (L-11) 木製品出土状況 (南から)
- 写真58 調査III-2区全景
- 写真59 III-2SP-01・02完掘状況 (北から)
- 写真60 III-2SK-01完掘状況 (北から)
- 写真61 III-2SK-02遺物出土状況 (西から)
- 写真62 III-2SK-02完掘状況 (西から)
- 写真63 III-2SK-03完掘状況 (北から)
- 写真64 III-2SK-04完掘状況 (南から)
- 写真65 III-2SK-05・07完掘状況 (北西から)
- 写真66 III-2SK-06完掘状況及び焼土・炭化物集中部検出状況 (南東から)
- 写真67 III-2SK-08土層断面 (北西から)
- 写真68 III-2SK-09完掘状況 (南西から)

- 写真69 III-2SK-10完掘状況（北西から）
写真70 III-2SK-11遺物出土状況（西から）
写真71 III-2SK-11遺物出土状況近影（西から）
写真72 III-2SK-11下層遺物出土状況（西から）
写真73 III-2SK-11下層遺物出土状況近影（西から）
写真74 III-2SK-12上層遺物出土状況（南東から）
写真75 III-2SK-12下層遺物出土状況（南東から）
写真76 III-2SK-11・12完掘状況（東から）
写真77 III-2SK-13上層遺物出土状況（北から）
写真78 III-2SK-13下層遺物出土状況（東から）
写真79 III-2SK-13下層遺物出土状況近影（東から）
写真80 III-2SK-14完掘状況（南西から）
写真81 III-2SK-15完掘状況（南から）
写真82 III-2SE-01遺物出土状況（東から）
写真83 III-2SE-01遺物出土状況近影1（北から）
写真84 III-2SE-01遺物出土状況近影2（西から）
写真85 III-2SE-01遺物出土状況近影3（西から）
写真86 III-2SE-01遺物出土状況近影4（西から）
写真87 III-2SE-01完掘状況（北から）
写真88 III-2SE-02遺物出土状況（南から）
写真89 III-2SE-02完掘状況（北から）
写真90 III-2区（Z-12）微高地掘部遺物出土状況（南から）
写真91 調査IV・V区全景
写真92 VSD-01遺物出土状況（南東から）
写真93 VSD-01遺物出土状況近影1（北東から）
写真94 VSD-01遺物出土状況近影2（北東から）
写真95 VSD-01遺物出土状況近影3（北東から）
写真96 VSD-01完掘状況（南東から）
写真97 VSD-01完掘状況（西から）
写真98 VSK-01完掘状況（東から）
写真99 VSP-01・02・03完掘状況（東から）
写真100 VSM-01検出状況1（西から）
写真101 VSM-01検出状況2（東から）
写真102 VSM-02検出状況1（南から）

- 写真103 VSM-02検出状況2 (南から)
- 写真104 V区(S-22)遺物出土状況(南から)
- 写真105 調査VI・VII区全景
- 写真106 VISI-01遺物出土状況1(南から)
- 写真107 VISI-01遺物出土状況2(南から)
- 写真108 VISI-01遺物出土状況近影1(南から)
- 写真109 VISI-01遺物出土状況近影2(南から)
- 写真110 VISI-01遺物出土状況近影3(西から)
- 写真111 VISI-01遺物出土状況3(南から)
- 写真112 VISI-01遺物出土状況近影4(西から)
- 写真113 VISI-01遺物出土状況近影5(北から)
- 写真114 VISI-01遺物出土状況近影6(西から)
- 写真115 VISI-01焼土・炭化物検出状況(南から)
- 写真116 VISI-01完掘状況(南から)
- 写真117 VISX-01遺物出土状況(南西から)
- 写真118 VISX-01完掘状況(南西から)
- 写真119 VISE-01遺物出土状況(北から)
- 写真120 VISE-01遺物出土状況(南から)
- 写真121 VISE-01最下層遺物出土状況(東から)
- 写真122 VISE-01最下層遺物出土状況近影(東から)
- 写真123 VISE-01完掘状況(北から)
- 写真124 VISE-02遺物出土状況(南から)
- 写真125 VISE-02遺物出土状況近影(南から)
- 写真126 VISE-02完掘状況(北から)
- 写真127 VISK-01完掘状況(北から)
- 写真128 VISK-02遺物出土状況(北から)
- 写真129 VISK-02完掘状況(北から)
- 写真130 VI区低地域(U-24、V-23・24、W-24)遺構検出状況(西から)
- 写真131 VI区低地域(U-24)畔状遺構検出状況(西から)
- 写真132 VI区低地域(調査区外法面)畔状遺構土層断面(東から)
- 写真133 VISD-01(U-23、V-23・24)遺物出土状況
- 写真134 VISD-01(V-24)有孔円板出土状況(西から)
- 写真135 VISD-01(W-24)遺物出土状況(西から)
- 写真136 VI区低地域(W-25)畔溝状遺構検出状況(西から)

- 写真137 VI区 (W-24) 微高地裾部遺物出土状況 (北から)
- 写真138 VI区 (W-24) 微高地裾部遺物出土状況 (南から)
- 写真139 VI区 (X-25) 石包丁出土状況 (東から)
- 写真140 VISB-01・02・03完掘状況 (東から)
- 写真141 VISB-01P-1・2断面 (西から)
- 写真142 VISB-01P-3断面 (南から)
- 写真143 VISB-01P-10断面 (東から)
- 写真144 VISB-01完掘状況 (西から)
- 写真145 VISB-02P6断面 (南から)
- 写真146 VISB-02P9断面 (南から)
- 写真147 VISB-02完掘状況 (北から)
- 写真148 VISB-03P1柱検出状況 (南から)
- 写真149 VISB-03P3柱検出状況 (南から)
- 写真150 VISB-03P4柱検出状況 (南から)
- 写真151 VISB-03P6柱検出状況 (南から)
- 写真152 VISB-03P7柱検出状況 (南から)
- 写真153 VISB-03完掘状況 (西から)
- 写真154 VISK-03遺物出土状況 (南から)
- 写真155 VISK-03遺物出土状況近影1 (南から)
- 写真156 VISK-03遺物出土状況近影2 (北から)
- 写真157 VISK-03遺物出土状況近影3 (南から)
- 写真158 VISK-03完掘状況 (南から)
- 写真159 VISK-04完掘状況 (北から)
- 写真160 VISK-05完掘状況 (西から)
- 写真161 調査Ⅷ・Ⅸ区全景
- 写真162 IXSI-01完掘状況 (東から)
- 写真163 IXSI-02遺物出土状況全景1 (北から)
- 写真164 IXSI-02遺物出土状況全景2 (東から)
- 写真165 IXSI-02遺物出土状況近影1
- 写真166 IXSI-02遺物出土状況近影2
- 写真167 IXSI-02遺物出土状況近影3
- 写真168 IXSI-02遺物出土状況近影4
- 写真169 IXSI-02遺物出土状況近影5
- 写真170 IXSI-02遺物・焼土出土状況全景 (西から)

- 写真171 IXSI-02遺物・焼土出土状況近影（南から）
写真172 IXSI-02完掘状況（東から）
写真173 IXSI-03遺物出土状況（北から）
写真174 IXSI-03完掘状況（北から）
写真175 IXSK-01遺物出土状況（東から）
写真176 IXSI-04遺物出土状況（東から）
写真177 IXSX-03完掘状況（北から）
写真178 IXSK-02遺物出土状況全景（南から）
写真179 IXSK-02遺物出土状況近影（南から）
写真180 IXSK-02最下層遺物出土状況（北から）
写真181 IXSK-02完掘状況（北から）
写真182 IXSK-03遺物出土状況（南から）
写真183 IXSK-04遺物出土状況（西から）
写真184 IXSK-04遺物出土状況近影1（西から）
写真185 IXSK-04遺物出土状況近影2（東から）
写真186 IXSK-04遺物出土状況近影3（東から）
写真187 IXSK-05遺物出土状況（西から）
写真188 IXSK-05完掘状況（北から）
写真189 IXSK-06遺物出土状況（西から）
写真190 IXSK-06完掘状況（西から）
写真191 IXSD-01 (c-39・40、d-40・41) 遺物出土状況1（北から）
写真192 IXSD-01 (c-39・40、d-40・41) 遺物出土状況2（北から）
写真193 IXSD-01 (c-39・40、d-40・41) 遺物出土状況3（西から）
写真194 IXSD-01 (c-39・40、d-40・41) 遺物出土状況4（西から）
写真195 IXSD-01 (c-39・40、d-40・41) 遺物出土状況近影1（南から）
写真196 IXSD-01 (c-39・40、d-40・41) 遺物出土状況近影2（南から）
写真197 IXSD-01 (c-39・40、d-40・41) 遺物出土状況近影3
写真198 IXSD-01 (c-39・40、d-40・41) 遺物出土状況近影4
写真199 IXSD-01 (c-39・40、d-40・41) 遺物出土状況近影5
写真200 IXSD-01 (c-39・40、d-40・41) 遺物出土状況近影6
写真201 IXSD-01 (c-39・40、d-40・41) 遺物出土状況近影7
写真202 IXSD-01 (d-37・38、e-37・38) 遺物出土状況1（南から）
写真203 IXSD-01 (d-37・38、e-37・38) 遺物出土状況2（西から）
写真204 IXSD-01 (d-37・38、e-37・38) 遺物出土状況近影1（西から）

- 写真205 IXSD-01 (d-37・38、e-37・38) 遺物出土状況3 (西から)
- 写真206 IXSD-01 (d-37・38、e-37・38) 遺物出土状況4 (西から)
- 写真207 IXSD-01 (d-37・38、e-37・38) 遺物出土状況近影2 (西から)
- 写真208 IXSD-01 (d-37・38、e-37・38) 遺物出土状況近影3 (西から)
- 写真209 IXSD-01 (d-36、e-36) 遺物出土状況1 (南から)
- 写真210 IXSD-01 (d-36、e-36) 遺物出土状況2 (西から)
- 写真211 IXSD-01 (d-36、e-36) 遺物出土状況近影1 (西から)
- 写真212 IXSD-01 (d-36、e-36) 遺物出土状況近影2 (西から)
- 写真213 IXSD-01 (d-36、e-36) 遺物出土状況近影3 (西から)
- 写真214 IXSD-02水口部土層断面 (C-C')
- 写真215 IXSD-03土層断面 (A-A')
- 写真216 IXSD-03土層断面 (B-B')
- 写真217 IXSD-03土層断面 (C-C')
- 写真218 IXSD-03土層断面 (D-D')
- 写真219 IXSD-03土層断面 (E-E')
- 写真220 IX区包含層中 (c-37Ⅶ層) 遺物出土状況1 (北から)
- 写真221 写真219近影1 (北から)
- 写真222 写真219近影2 (北から)
- 写真223 IX区包含層中 (c-37Ⅶ層) 遺物出土状況2 00
- 写真224 IX区包含層中 (c-37Ⅶ層) 遺物出土状況3 00
- 写真225 IX区包含層中 (b-36Ⅶ層) 遺物出土状況 00
- 写真226 IX区包含層中 (c-36Ⅶ層) 遺物出土状況 00
- 写真227 IXSD-05完掘状況 (南西から)
- 写真228 IXSX-04完掘状況 (北西から)
- 写真229 IX区包含層中 (b-36、c-36Ⅴ・Ⅵ層) 遺物出土状況 (西から)
- 写真230 IX区包含層中 (b-35、c-35Ⅴ・Ⅵ層) 遺物出土状況 (西から)
- 写真231 IX区包含層中 (b-34、c-34Ⅴ・Ⅵ層) 遺物出土状況 (西から)
- 写真232 IX区包含層中 (b-34Ⅴ・Ⅵ層) 遺物出土状況近影1
- 写真233 IX区包含層中 (b-34Ⅴ・Ⅵ層) 遺物出土状況近影2
- 写真234 IX区包含層中 (b-34Ⅴ・Ⅵ層) 遺物出土状況近影3
- 写真235 IX区包含層中 (b-34Ⅴ・Ⅵ層) 遺物出土状況近影4
- 写真236 IX区包含層中 (Z-36、a-36Ⅴ・Ⅵ層) 遺物出土状況 (南から)
- 写真237 IX区包含層中 (Z-35、a-35Ⅴ・Ⅵ層) 遺物出土状況 (南から)
- 写真238 IX区包含層中 (a-35Ⅵ層) 遺物出土状況近影1

- 写真239 IX区包含層中 (a-35VI層) 遺物出土状況近影 2
- 写真240 IX区包含層中 (a-35VI層) 遺物出土状況近影 3
- 写真241 IX区包含層中 (a-35VI層) 遺物出土状況近影 4
- 写真242 IX区包含層中 (b-36、c-36V・VII上層) 遺物出土状況 (東から)
- 写真243 IX区包含層中 (b-37、c-37V・VII上層) 遺物出土状況 (南から)
- 写真244 IX区包含層中 (b-38VII上層) 遺物出土状況 (北から)
- 写真245 IX区包含層中 (b-38VII上層) 遺物出土状況近影
- 写真246 IX区包含層中 (Z-35・36、a-35 ~ 38VII上層) 遺物出土状況 (北から)
- 写真247 III-1SK-04出土木製品 (第17図30)
- 写真248 III-1区包含層内出土木製品 (第68図278)
- 写真249 III-1区包含層内出土木製品 (第68図279)
- 写真250 III-1区包含層内出土木製品 (第68図280)
- 写真251 III-1区包含層内出土木製品 (第68図281)
- 写真252 III-1区包含層内出土木製品 (第68図282)
- 写真253 III-1区包含層内出土木製品 (第68図283)
- 写真254 III-1区包含層内出土木製品 (第69図284)
- 写真255 III-1区包含層内出土木製品 (第69図285)
- 写真256 III-1区包含層内出土木製品 (第70図286)
- 写真257 III-1区包含層内出土木製品 (第70図287)
- 写真258 III-1区包含層内出土木製品 (第70図288)
- 写真259 III-1区包含層内出土木製品 (第70図289)
- 写真260 III-1区包含層内出土木製品 (第71図290)
- 写真261 III-1区包含層内出土木製品 (第71図291)
- 写真262 III-1区包含層内出土木製品 (第71図292)
- 写真263 III-1区包含層内出土木製品 (第71図293)
- 写真264 III-1区包含層内出土木製品 (第72図294)
- 写真265 III-1区包含層内出土木製品 (第72図295)
- 写真266 III-1区包含層内出土木製品 (第72図296)
- 写真267 III-1区包含層内出土木製品 (第73図297)
- 写真268 III-1区包含層内出土木製品 (第73図298)
- 写真269 III-1区包含層内出土木製品 (第73図299)
- 写真270 III-1区包含層内出土木製品 (第73図300)
- 写真271 III-1区包含層内出土木製品 (第74図301)
- 写真272 III-1区包含層内出土木製品 (第74図302)

- 写真273 Ⅲ-1区包含層内出土木製品 (第74図303)
写真274 Ⅲ-1区包含層内出土木製品 (第74図304)
写真275 Ⅲ-2SK-11出土木製品 (第96図315)
写真276 Ⅲ-2SE-01出土木製品 (第106図334)
写真277 Ⅲ-1SK-02出土土器 (第9図1)
写真278 Ⅲ-1SK-02出土土器 (第9図2~5)
写真279 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第10・11図) 00
写真280 Ⅲ-1SK-03出土土器 (第15図26)
写真281 Ⅲ-1SK-03出土土器 (第15図27)
写真282 Ⅲ-1SK-03出土土器 (第15図28)
写真283 Ⅲ-1SK-05出土土器 (第19図31)
写真284 Ⅲ-1SK-05出土土器 (第19図32)
写真285 Ⅲ-1SK-08出土土器 (第23図35)
写真286 Ⅲ-1SK-10出土土器 (第25図36)
写真287 Ⅲ-1SE-01出土土器 (第29図38)
写真288 Ⅲ-1SE-01出土土器 (第29図39)
写真289 Ⅲ-1SE-01出土土器 (第29図41)
写真290 Ⅲ-1SE-01出土土器 (第29図42)
写真291 Ⅲ-1SE-01出土土器 (第29図43)
写真292 Ⅲ-1SE-01出土土器 (第29図44)
写真293 Ⅲ-1SE-02出土土器 (第32図47)
写真294 Ⅲ-1SE-02出土土器 (第32図48)
写真295 Ⅲ-1SE-02出土土器 (第32図49)
写真296 Ⅲ-1SE-02出土土器 (第32図50)
写真297 Ⅲ-1SK-17出土土器 (第32図54)
写真298 Ⅲ-1SK-18出土土器 (第34図55)
写真299 Ⅲ-1SK-18出土土器 (第34図56)
写真300 Ⅲ-1SK-18出土土器 (第34図57)
写真301 Ⅲ-1SK-28出土土器 (第42図59)
写真302 Ⅲ-1SX-01出土土器 (第45図60)
写真303 Ⅲ-1SX-01出土土器 (第45図61)
写真304 Ⅲ-1SX-01出土土器 (第45図62)
写真305 Ⅲ-1区包含層内出土石製品 (第52図76)
写真306 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第53図85)

- 写真307 III-1区包含層内出土土器 (第53図86)
- 写真308 III-1区包含層内出土土器 (第53図87)
- 写真309 III-1区包含層内出土土器 (第53図88)
- 写真310 III-1区包含層内出土土器 (第53図89)
- 写真311 III-1区包含層内出土土器 (第53図90)
- 写真312 III-1区包含層内出土土器 (第54図91)
- 写真313 III-1区包含層内出土土器 (第54図92)
- 写真314 III-1区包含層内出土土器 (第54図93)
- 写真315 III-1区包含層内出土土器 (第54図94)
- 写真316 III-1区包含層内出土土器 (第54図95)
- 写真317 III-1区包含層内出土土器 (第54図96)
- 写真318 III-1区包含層内出土土器 (第54図97)
- 写真319 III-1区包含層内出土土器 (第55図98)
- 写真320 III-1区包含層内出土土器 (第55図99)
- 写真321 III-1区包含層内出土土器 (第55図100)
- 写真322 III-1区包含層内出土土器 (第55図101)
- 写真323 III-1区包含層内出土土器 (第55図102)
- 写真324 III-1区包含層内出土土器 (第55図103)
- 写真325 III-1区包含層内出土土器 (第55図104)
- 写真326 III-1区包含層内出土土器 (第55図105)
- 写真327 III-1区包含層内出土土器 (第55図106)
- 写真328 III-1区包含層内出土土器 (第55図107)
- 写真329 III-1区包含層内出土土器 (第55図108)
- 写真330 III-1区包含層内出土土器 (第56図109)
- 写真331 III-1区包含層内出土土器 (第56図110)
- 写真332 III-1区包含層内出土土器 (第56図111)
- 写真333 III-1区包含層内出土土器 (第56図112)
- 写真334 III-1区包含層内出土土器 (第57図113)
- 写真335 III-1区包含層内出土土器 (第57図114)
- 写真336 III-1区包含層内出土土器 (第57図115)
- 写真337 III-1区包含層内出土土器 (第58図116)
- 写真338 III-1区包含層内出土土器 (第58図117)
- 写真339 III-1区包含層内出土土器 (第58図121)
- 写真340 III-1区包含層内出土土器 (第59図122)

- 写真341 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図123)
- 写真342 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図124)
- 写真343 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図125)
- 写真344 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図126)
- 写真345 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図127)
- 写真346 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図128)
- 写真347 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図129)
- 写真348 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図130)
- 写真349 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図131)
- 写真350 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図132)
- 写真351 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図133)
- 写真352 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図134)
- 写真353 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図135)
- 写真354 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図136)
- 写真355 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図137)
- 写真356 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図138)
- 写真357 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図139)
- 写真358 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図140)
- 写真359 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図141)
- 写真360 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第59図142)
- 写真361 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第60図145)
- 写真362 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第60図146)
- 写真363 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第60図147)
- 写真364 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第60図148)
- 写真365 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第60図149)
- 写真366 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第60図150)
- 写真367 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第60図151)
- 写真368 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第60図152)
- 写真369 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第60図153)
- 写真370 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第60図154)
- 写真371 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第60図155)
- 写真372 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第61図156)
- 写真373 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第61図157)
- 写真374 Ⅲ-1区包含層内出土土器 (第61図158)

- 写真375 III-1区包含層内出土土器 (第61図160)
- 写真376 III-1区包含層内出土土器 (第61図161)
- 写真377 III-1区包含層内出土土器 (第61図162)
- 写真378 III-1区包含層内出土土器 (第61図163)
- 写真379 III-1区包含層内出土土器 (第61図164)
- 写真380 III-1区包含層内出土土器 (第61図165)
- 写真381 III-1区包含層内出土土器 (第61図166)
- 写真382 III-1区包含層内出土土器 (第61図167)
- 写真383 III-1区包含層内出土土器 (第61図168)
- 写真384 III-1区包含層内出土土器 (第61図169)
- 写真385 III-1区包含層内出土土器 (第61図171)
- 写真386 III-1区包含層内出土土器 (第61図172)
- 写真387 III-1区包含層内出土土器 (第61図173)
- 写真388 III-1区包含層内出土土器 (第61図174)
- 写真389 III-1区包含層内出土土器 (第62図175)
- 写真390 III-1区包含層内出土土器 (第62図176)
- 写真391 III-1区包含層内出土土器 (第62図177)
- 写真392 III-1区包含層内出土土器 (第62図178)
- 写真393 III-1区包含層内出土土器 (第62図179)
- 写真394 III-1区包含層内出土土器 (第62図180)
- 写真395 III-1区包含層内出土土器 (第62図181)
- 写真396 III-1区包含層内出土土器 (第63図182)
- 写真397 III-1区包含層内出土土器 (第63図185)
- 写真398 III-1区包含層内出土土器 (第63図186)
- 写真399 III-1区包含層内出土土器 (第63図189・190)
- 写真400 III-1区包含層内出土土器 (第63・64図)
- 写真401 III-1区包含層内出土土器 (第64・65図)
- 写真402 III-1区包含層内出土土器 (第76図)
- 写真403 III-1区包含層内出土土器 (第52図)
- 写真404 III-1区包含層内出土土器
- 写真405 III-2SK-05出土土器 (第87図308)
- 写真406 III-2SK-07出土土器 (第88図309)
- 写真407 III-2SK-11出土土器 (第94図310)
- 写真408 III-2SK-11出土土器 (第94図311)

- 写真409 III-2SK-11出土土器 (第94图312)
- 写真410 III-2SK-11出土土器 (第94图313)
- 写真411 III-2SK-11出土土器 (第95图314)
- 写真412 III-2SK-12出土土器 (第97图316)
- 写真413 III-2SK-11出土土器 (第97图317)
- 写真414 III-2SK-11出土土器 (第97图318)
- 写真415 III-2SK-12出土土器 (第98图319)
- 写真416 III-2SK-13出土土器 (第100图320)
- 写真417 III-2SK-13出土土器 (第100图321)
- 写真418 III-2SK-13出土土器 (第100图322)
- 写真419 III-2SK-13出土土器 (第100图323)
- 写真420 III-2SK-14出土土器 (第102图324)
- 写真421 III-2SE-01出土土器 (第105图325)
- 写真422 III-2SE-01出土土器 (第105图326)
- 写真423 III-2SE-01出土土器 (第105图327)
- 写真424 III-2SE-01出土土器 (第105图328)
- 写真425 III-2SE-01出土土器 (第105图329)
- 写真426 III-2SE-01出土土器 (第105图330)
- 写真427 III-2SE-01出土土器 (第105图331)
- 写真428 III-2SE-01出土土器 (第106图332)
- 写真429 III-2SE-01出土土器 (第106图333)
- 写真430 III-2SE-02出土土器 (第108图335)
- 写真431 III-2SE-02出土土器 (第108图336)
- 写真432 III-2SD-01出土土器 (第109图337)
- 写真433 III-2SD-01出土土器 (第109图338)
- 写真434 III-2SD-01出土土器 (第109图339)
- 写真435 III-2SD-01出土土器 (第109图340)
- 写真436 III-2SD-01出土土器 (第109图341)
- 写真437 III-2包含層内出土土器 (第110图342)
- 写真438 III-2包含層内出土土器 (第110图343)
- 写真439 III-2包含層内出土土器 (第110图344)
- 写真440 III-2包含層内出土土器 (第110图345)
- 写真441 VSD-01出土土器 (第119图)
- 写真442 V区包含層内出土土器 (第124图)

第 1 章 はじめに

一般国道 208 号玉名バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財調査

第 I 章 はじめに

第1節 調査にいたる経緯と組織

1. 調査経緯

昭和47年に、建設省九州地方建設局熊本工事事務所（現在の国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所）では、玉名市街地中心部を東西に走る一般国道208号線の交通混雑解消等を目的とし、総延長8.5kmに及ぶ玉名バイパスの建設構想をとりまとめた。

それをうけ、昭和54年3月に熊本県教育庁文化課により、遺跡台帳との照合及び現地踏査が実施され、計画路線箇所については確認調査及び試掘調査を実施し、その結果必要に応じて記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

当遺跡箇所に関しては、熊本県教育庁文化課により、平成3年度及び平成5年度に確認調査が実施され、結果弥生時代から古墳時代及び奈良時代末から平安時代にかけての集落等大規模な遺跡の所在が確認されたため、その範囲を柳町遺跡とし、27,800㎡を調査対象面積とした記録保存のための発掘調査が必要であることが判明した。

その後、平成6年度より熊本県教育庁文化課により発掘調査が開始され、調査の迅速化を図るため平成7年度より玉名市教育委員会も参加し、県市合同での発掘調査を実施した。このこともあり、平成11年度末をもって、柳町遺跡の現場での調査は完了した。また、平成8年度より現地での発掘調査と併行して遺物の水洗い・注記作業を行い、平成12年度より本格的な整理・報告書作成作業を開始した。しかし、平成13年8月、急遽同じく玉名バイパス路線内に所在する、吉丸前遺跡の発掘調査を玉名市教育委員会により実施することが決定され、当時の体制上柳町遺跡の整理・報告書作成作業を併行して行うことが不可能であったため、吉丸前遺跡の現場での調査及び整理・報告書作成作業が完了するまでの間、作業を中断することとなった。その後平成18年度に作業を再開し、平成20年度にかけて作業を実施した。

2. 調査組織

平成7年度から平成11年度までの発掘調査体制及び平成12年度から平成20年度までの整理・報告書作成作業に関わる組織は次のとおりである。

（発掘調査 平成7～11年度）

事業主体	建設省九州地方建設局熊本工事事務所 （現国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所）
調査主体	玉名市教育委員会
調査責任者	教育長 生森基哉（平成7年度） 〃 三次昭也（平成8年度～平成11年度）
調査総括	社会教育課長 隈部了裕（平成7年度～平成9年度） 〃 西川待義（平成10・11年度） 〃 牧野和明（平成11年度）
調査担当	主事 江原浩二（平成7年度） 技師 田中康雄（平成7年度嘱託 平成8～11年度） 技師 末永 崇（平成10・11年度） 嘱託 中尾健照（平成8～11年度）

第1節 調査にいたる経緯と組織

(整理・報告書作成 平成12～13年度 平成18～20年度)

事業主体 国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任者 教育長 三次昭也(平成12・13年度)

教育長 菊川茂男(平成18～20年度)

調査総括 社会教育課長 牧野和明(平成12～13年度)

文化課長 西田道世(平成18～19年度)

＃ 中山富雄(平成20年度)

調査担当 技師 田中康雄(平成12～13年度)

主任技師 田中康雄(平成18～20年度)

技師 末永 崇(平成12～13年度)

主任技師 末永 崇(平成18・19年度)

主任技師 荒木隆宏(平成20年度)

嘱託 古閑敬士(平成18・19年度)

嘱託 大倉千寿(平成18・19年度)

発掘調査現場作業員(敬称略)

荒木繁子、荒木富士子、池田冬子、伊子和来子、石川政代、石本寿美子、石本ヒサ子、井上チヨ子、井上祐司、今村東亜子、岩崎 将、植田富代、植田夏代、上村トシエ、大西光子、大森ツヤ子、岡田キヨ子、岡田トモエ、岡田道子、岡本敦子、小山ナツミ、小山奈美、甲斐しきみ、金子愛子、城戸季次、木野義光、木村邦宏、木村謙太、木村セイ子、木村 剛、木本マズ子、草野貴美代、桑本誠也、古賀武子、小坂勝己、小林直子、境エミ子、坂崎和仁、坂崎クニエ、坂崎征子、坂本孝司、坂本政春、作本吟子、坂田ツル子、鮫島一幸、品川四番男、品川タカ子、品川タケノ、柴尾寿子、志水ルリ子、末永 崇、杉野アキヨ、高島美紀子、高田 哲、財部久美子、多久マチヨ、多久 都、竹川ヤス子、竹下博子、田中晶子、田中良一、田上 賢、田上鶴子、田上房子、鎌父隆志、寺田哲也、寺田トミ子、寺田智子、寺田弥市、寺田八千代、寺田要子、徳永和子、徳永カズ子、徳永幸子、友江 實、虎本玲子、豊田哲彰、中尾顕哉、西川澄子、西川美智子、西川美代子、西川義光、西嶋ヨシエ、西村テルヨ、西村ミヨ子、西村幸雄、西 春子、西由希子、西依元三郎、野口康雄、野田カシ子、野中キク子、橋口ミエ子、畠田アヤ子、畠田社仁、畠田トメノ、畠田トヨミ、早木スマコ、樋口 薫、平嶋チサ子、平島千代子、平野孝志、福田ツヨ子、福永廣紀、古川博子、外本 昇、星子富子、星子一美、前川八重子、前田幸子、前田妙子、前田房子、前田ミチ、真木久美子、松村喜代子、松本君子、三川一成、水口マツ、三島邦子、源 民代、宗村正孝、村上広美、村上美恵子、森川絹代、森山節子、山崎末子、山本純子、雪野弘行、吉永公代、吉永キヨ子、吉本妙子、吉本玉枝、米岡小雪

整理・報告書作成作業員

新居みどり、荒木麻衣、井上明美、近江左衣、尾崎延枝、黒田良子、古賀武子、五野富美子、権藤 功、坂崎郷子、嶋村ひとみ、田中晶子、寺本 要、徳田晴華、徳永久美、中川 藍、西川さゆり、早川イツエ、平野輝代、平本静子、福田まき、堀内貴久子、前田幸子、山口聡絵

専門調査員 (50音順 敬称略)

白木原和美 (熊本大学名誉教授) 日野尚志 (佐賀大学教授)

平岡勝昭 (第6代肥後考古学会会長) 三島 格 (第5代肥後考古学会会長)

三井宜之 (熊本大学教授) 山崎純男 (福岡市教育委員会)

調査指導・協力者 (50音順 所属・職名及び敬称略)

網田龍生、池木利直、石橋新次、出田久斉、岡本真也、蒲原宏行、工業普通、藏富士寛、黒田祐司、甲元眞之、坂田和弘、三木ますみ、下村 智、勢田廣行、高木恭二、高木正文、高谷和生、中村幸史郎、永嶋正春、野口康雄、濱田教靖、帆足俊文、前川真由美、松本健郎、松本博幸、美濃口雅郎、三好伴典、山口譲治

第2節 地理的環境・歴史的環境

1. 地理的環境

玉名市は、熊本県の北部に位置する面積約152平方キロメートル、人口約7万2千人の地方都市である。市域は、阿蘇外輪山の深業山地 (阿蘇市) に発し、熊本県北部を有明海に向かって流れる菊池川下流域を占めている。その菊池川が市中央部を南に向かって貫流し、その周辺部には、菊池川とその支流である繁根木川による沖積世の堆積層で形成された谷底平野である玉名平野が広がっている。玉名平野の現在の標高は4.8～6m程度で、大部分が水田等の耕作地として利用されている。玉名平野は、その北西部で筒ヶ岳 (標高501m) を主峰とする小代山地・丘陵地及びこれに続く台地・段丘と接し、北部では繁根木川を挟んで小代山地に面した白間山地と接している。また平野東部では、木葉川を境として北側で国見山 (標高383m 山鹿市鹿央町) を主峰とする国見山地の丘陵及びその南端部に位置する木葉山 (標高286m) と接し、南部で金峰火山群の熊野岳 (二ノ岳 標高685m)、三ノ岳 (標高681m) を主峰とする金峰山地とこれに続く丘陵性台地に接している。このように、平野の三方を山地・丘陵地等に囲まれており、平野と接する丘陵末端部の多くに集落が形成されているが、現在の中心市街地は、玉名平野の西部に接する玉名台地上に営まれている。平野前縁部は、江戸時代以降から現代にいたる広大な干拓地が広がり、有明海と接している。

玉名地域では有明海沿岸の標高6m付近に海進時に形成された浜堤とみられる沖積面があり、縄文海進時には三角洲の大部分を占める標高5m以下の区域が海面下にあり、平野の縁に当たる台地・丘陵の末端近くまで海岸線が入り込んだ所謂「玉杵名湾」を形成していたとみられる。このことは標高6～10m前後に立地する多くの縄文・弥生時代貝塚遺跡の分布からもうかがわれる。その後海面が低下するに従って沖積作用が進み、小田牟田、大野牟田などの三角洲平野が形成された。三角洲の前縁には北流する海流によって砂丘が形成され、ラグーン的景観が広がっていたとみられる。9～11世紀頃、奈良時代から平安時代にかけては海面の上昇期があり三角洲の堆積作用も沈滞したが、11世紀頃から再び下降期に入ったとみられている。この海退現象は遠浅の海である有明海沿岸の自然陸化を促進し、この頃には干潟の開発が進んだとみられる。

加藤清正は1588年肥後入国後、菊池川下流の流路を変更する治水事業を行ったと伝わる。それは流路を固定し氾濫を少なくすることを目的に、外平山と久島山の間を通り海へ出ている流路 (現唐人川) を塞ぎ、大浜と小浜の間を流れるように変えるものであった。このため中世には丹倍津と呼ばれた国際港湾都市伊倉は港町としての機能を失い、そのかわり小田牟田を耕地として利用することが可能となった。大野牟田および小田牟田は、中世に自然陸化し、近世初頭の加藤清正の水利事

業によって耕地化が進んだ区域である。

II. 玉名平野

調査地である柳町遺跡・玉名平野糸里跡がある菊池川右岸は通称「玉名牟田」と呼ばれる菊池川の本支流によって運ばれた河川堆積物によって埋積された谷底平野である。現況での標高は4.8～6mほどで、大部分が水田を主とする耕地として利用されており、菊池川沿いに広がる標高6～7mほどの自然堤防上、また北側の白間台地縁辺と玉名平野の境の標高9～14mほどに集落が営まれている。菊池川の流路は、有史時代においても数度の移動を経ていると考えられるが、耕地整理および圃場整備の結果現在ではその痕跡は認めがたい。なお、菊池川の干潮区間は、玉名平野北端の上小田周辺まで及んでおり、満潮時には下流から上流へと流れる川の様子をみることができる。高地下水位地帯であって地下地質の構成は、最下部に玉名花崗岩、その上位が阿蘇火砕流堆積物、さらに上位に菊池川の氾濫堆積物であり、これは砂礫層・砂層・シルト層からなる。平野の北端は小代山と同様に花崗岩からなる白間台地があるが、標高が低く、丘陵地に近い地形を呈している。なお菊池川と繁根木川に接する箇所部分的に阿蘇火砕流堆積物が分布し、古墳時代の横穴墓が築かれている。玉名地方でも菊池川の本・支流などの谷沿いにASO-4火砕流堆積物が分布する。菊池川両岸地域、繁根木川上流域の石貫～三ツ川地域には鉛直に近い崖面がみられ、和水町では現在でも石材が採掘され加工に用いられている。また平野の西側は繁根木川をはさんで玉名台地に接している。

現在繁根木川は玉名台地の縁辺を通り繁根木と高瀬の間を通り菊池川に注いでいるが、以前は高瀬の手前で大きく東へ蛇行し、河崎で菊池川に注いだとも想定されている。玉名平野は菊池川と繁根木川に挟まれ、頻繁に堤防の決壊、氾濫等の水害常襲地帯であった。

III. 歴史的環境

1. 玉名の歴史的環境

玉名市はその中央を貫くようにして流れる菊池川下流域にあたり、菊池川をはじめ大小の河川両岸の低地や自然堤防上、小代山から続く低台地上および金峰山系の台地上に多くの遺跡が存在し県内でも有数の遺跡密集地帯である。

〔旧石器時代〕

旧石器時代の遺跡については発掘調査による出土がないため詳らかでないが、今泉遺跡や年の神遺跡、備中遺跡でナイフ形石器等が表採され、小代山南麓の山田や築地、岱明町宇西照寺で、また玉名平野北部の箱谷で旧石器が表採されており、糠峯遺跡からは三稜尖頭器が出土している（河北1985、末永2004）。また寺田の吉丸前遺跡でも三稜尖頭器が出土しており、周辺の伊倉丘陵性台地上にも旧石器時代の遺跡が眠っているとみられる（荒木2007）。

〔縄文時代〕

縄文時代には当時の海岸線及び河川沿いに縄文前期から後期の貝塚遺跡が多く分布する。金峰山南裾部の内湾に尾田貝塚、竹崎貝塚、久鳥貝塚などが、また小代山から南に伸びる低丘陵裾に古閑原貝塚、庄司貝塚、尾崎貝塚が、さらに菊池川旧河口付近にはマガキを主体とする繁根木貝塚、保田木貝塚、桃田貝塚が所在する。いずれも前期から後期前半を主体とする貝塚であり、時期を下るにしたがって分布は内陸にあり縄文海進の側面を示す。繁根木貝塚などの10km上流の菊水町若園貝塚は中期末～後期初頭を中心とする貝塚遺跡であるが、出土した結合式釣針は西北九州型結合式



高橋俊正 1993 「地形分類図」『玉名市史 資料篇 3 自然・民俗』を基に作成



地形区分図

釣針と呼ばれるものであり、他の石器組成も朝鮮半島南部を含んだネットワークを構成する地域の中に入っていたことを物語っている。後期後半から晩期の遺跡についても、近年の調査により伊倉や山田の低丘陵上で確認、調査されている。吉丸前遺跡では住居址のほか土坑などが検出された。また小田宮の前遺跡では自然流路から晩期に属する多量の堅果類に加えて、炭化した堅果類が付着した深鉢、弓の一部が出土しており、当該期の植物利用および生業形態を考える上で興味深い。柳町遺跡、玉名平野条里跡など河川沿いの低湿地遺跡では晩期の刻目突帯文土器が出土しており、今後の調査の進展が待たれる（後藤2005ほか）。

〔弥生時代〕

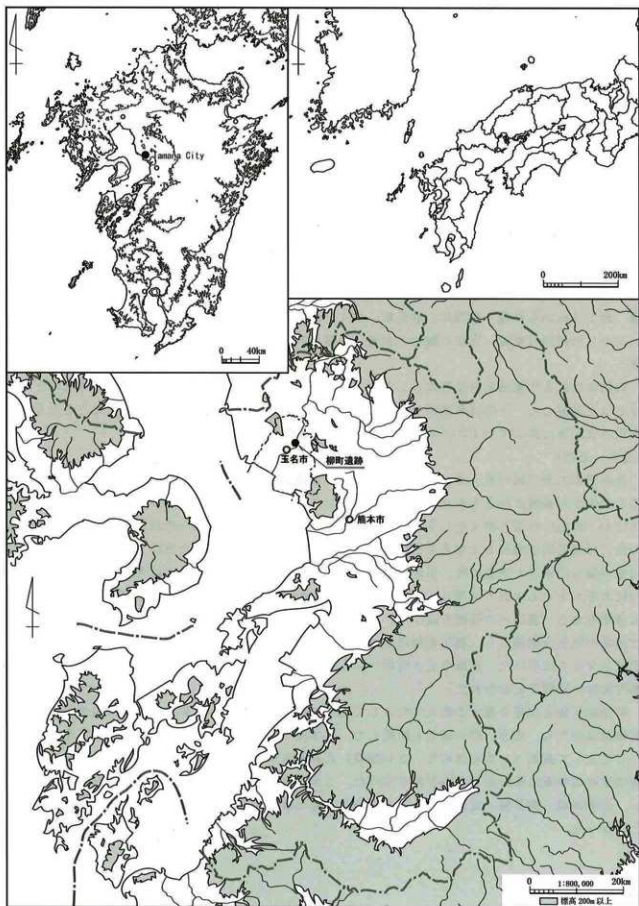
弥生時代に入っても金峰山南部裾から岱明町までの旧海岸線に近い低丘陵裾には城ヶ崎貝塚、片諏訪貝塚などの貝塚が営まれ、なかでも斉藤山貝塚では板付式と袋状鋳造鉄斧が伴出したとされ、北部九州を經由した交流の様相が窺われる（乙益1961）。また中期になると各所に甕棺墓が営まれており、境川右岸に広がる東南大門遺跡では方形周溝墓の他数十の甕棺墓が広がり、付近の大原遺跡では箱式石棺墓群があり、付近に大規模な集落の存在が窺われる（田中2000）。年の神支石墓では南海産のゴホウラ製貝輪が出土している。左岸では伊倉丘陵性台地上に中北遺跡があり、黒髪式の甕棺墓群が調査されている。中後期以降には大小の河川を見下ろす丘陵上に高岡原遺跡などの集落遺跡があり、菊池川沿いに前田遺跡や柳町遺跡などがある。前田遺跡では中期から後期の集落址であり、丹塗りの特殊器台や銅鏡の出土は、北部九州の弥生社会との緊密さを物語るものである（岡本2005）。また玉名平野に位置する両迫間日渡遺跡では杭列を伴う水田跡が発見され、熊本県における水田稲作の受容を考える上で重要である。

〔古墳時代〕

古墳時代には4世紀後半の山下古墳を嚆矢として5世紀代の天水大塚古墳、院塚古墳、稲荷山古墳、6世紀半ばの大坊古墳まで前方後円墳が築かれている。また菊池川下流域産と推定される舟形石棺が九州外の首長墓に用いられていることが確認されており、菊池川と有明海を基盤とした古墳時代の玉名地域が大和政権にとっても重要な地であったと考えられる。菊池川左岸の城ヶ辻古墳群は1～7号墳までの7基の円墳からなる古墳群であるが、発掘調査された6号墳は石材が抜き取られていたものの石屋形および石障を有する横穴式石室とみられ、菊池川下流域で最古のものである可能性がある。また7号墳は北部九州の影響を受けた県内初の堅穴系横穴式石室であることが判明し、注目される（亀田2007）。6世期になると菊池川下流域でも装飾古墳が登場し、玉名平野北端の丘陵裾に集中する。6世紀前半の大坊古墳、馬出古墳、6世紀後半の永安寺東・西古墳である。また6世紀末からは横穴墓群も数多く営まれ、特に阿蘇溶結凝灰岩の崖面が露出する繁根木川右岸に集中する。石貫ナギノ横穴群は飾縁に彩色の装飾文様を持つものも多く、また石貫穴観音横穴は奥壁にその名の由来となった観音像が浮き彫りにされている。古墳時代の集落遺跡としては玉名平野の菊池川縁辺に柳町遺跡があり、豊富な木製品が出土し、なかでも木製短甲とその留め具に書かれた漢字は注目される資料である（高谷2003、坂田2005）。また岱明町山下遺跡では古式土師器を伴う住居址、蓮華遺跡ではカマドを受容する前後の5世紀末から6世紀代の住居址16棟が調査されている（末永1999）。

〔古代〕

律令制下の玉名は玉名郡に属し、菊池川兩岸の玉名平野を中心として複数の地区に条里遺跡が広がっている。小代山南麓の立願寺周辺には白鳳期から奈良時代の瓦を出土する立願寺廃寺のほか、



柳町遺跡の位置

玉名郡倉推定地、玉名郡家跡が存在したことが発掘によって確認されており、玉名郡の中心地として郡衙を構成していたとみられる。

玉名郡の郡司は菊水町瀬川篤原出土の銅板墓誌にも名前の見える日置氏であり、延喜式神名帳に阿蘇の3社とともに記載されている足野神社は日置氏の氏神と考えられている。玉名郡の中央にそびえる小代山麓一帯には製鉄跡・須恵器窯跡が群落しており、穀倉地帯である玉名平野の稲作に加え、鉄生産を経済的な基盤としていたのだろう。また菊池川口の高瀬に湊を置き海上交通の拠点として、海外の文物が流入していた。その日置氏も11世紀後半律令体制の崩壊により衰退の度合いはややめ、菊池氏の進出にもなって所領を手放さざるを得なくなる。

[中世]

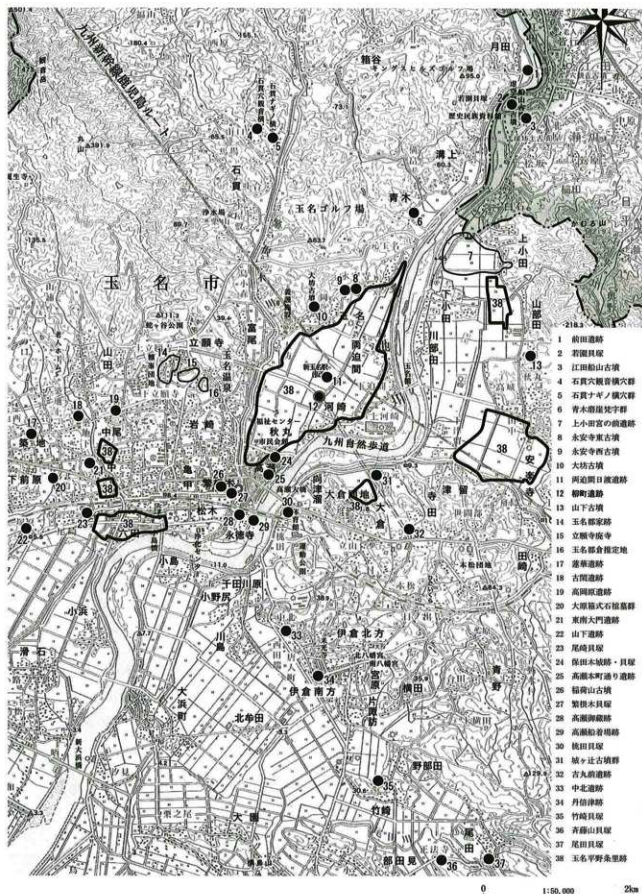
11世紀頃玉名荘に勢力を伸ばし始めた菊池氏は、南北朝期には大野別府の地頭大野氏と協力関係を保ちつつ、高瀬港を軍事、貿易の根拠地とした。菊池武光の弟である筑前守武尚は大野国隆の法名清源にちなむ清源寺に敷地を寄進し、その子肥後守護代武国は高瀬氏を名乗った。高瀬武楯は高瀬に保田木城を築いたと伝えられている。高瀬本町通り遺跡では、昭和30年代の下水道敷設工事の際、地下3mから貝類、磁器片、獣骨類、木片、鉄釘や宋銭、漆器などが出土した。高瀬の川底から元から明初頭の青磁、青花の陶片が大量に採集され、その貿易港についての地位を偲ぶことができる。

戦国時代に入り菊池氏が没落すると大友、島津、龍造寺氏の進入を受け高瀬の町も寺社などが焼けるなど荒廃した。一時は菊池川を境として北を龍造寺氏、南を島津氏が支配することとなり、大友氏の支配下にあるにはイエズス会宣教師が訪れ伊倉にはキシリタン墓も残る。

[近世・近代]

豊臣秀吉の天下統一後、佐々成政が入国するが失政により改易、加藤清正が入国した。清正は入国の翌年から高瀬に港とあわせ米俵の集積庫としての高瀬御蔵を設置、御茶屋と御蔵の建設を行ったほか、菊池川の掘り換えを行うなど、多くの事業を行っている。細川氏は清正時代の大倉庫4棟の他に付属建物を増設して事業を広げ、常時藩内最高の25万俵を扱ったという。江戸時代になって商業が盛んに成ると商業の町、川港の町として繁盛に赴いた。商人の中には多くの利益を得、事業の拡大をすすめる大商人が現れ、川に面した目抜き通りには大きな店舗を構え、裏手に石垣を築き、大倉庫をならべ裏川への通路を設けた。そして永徳寺の川港を本拠に、大坂、堺、関門方面の商人と商品の取引を密接にし、裏川を利用して商品を自家へ上げおろしそれに用いる自家用船舶を持つ商家も少なくなかった。高瀬は五カ町のひとつとして町奉行所がおかれ、玉名郡代からは分離して高瀬町奉行の管理下におかれた。

明治維新後も川港を要する商人の町として順調に発展を続けたが、明治10年西南戦争の戦火で高瀬御蔵は焼失し、米倉、港の経営も断絶した。熊本城を包囲した薩摩軍は政府軍の南下を阻止すべく北上して高瀬へと兵を進めた。3日間続いた高瀬付近の戦闘では多くの戦死者を出し、その後薩摩軍は田原坂に陣を張り激戦を繰り広げた。この西南戦争の災禍で高瀬の半分は火災により焼失し、高瀬御蔵、御茶屋、宝成就寺などを含めた主要な施設が失われ、高瀬の機能は大幅に減ずることになった。



第1図 周辺主要遺跡分布図

2. 玉名平野周辺の弥生時代・古墳時代遺跡

(1) 弥生時代遺跡

玉名平野では近年国道・県道及び新幹線建設工事に係る埋蔵文化財調査が継続して行われており今後報告書刊行が待たれる。柳町遺跡では弥生時代後期から古墳時代にかけての遺物・遺構が多数出土しており、平野部の自然堤防、微高地上に立地する。また玉名平野北端にある低丘陵裾部では永安寺遺跡で弥生時代中期の甕棺墓(田中2006)が、岡では箱式石棺墓が複数検出されており(田辺1963)、当該期の集落は現在と同様の立地であったようだ。

(2) 古墳時代遺跡

玉名市内では約70基の古墳が確認されているが、そのうち約30基が菊池川の兩岸、玉名平野縁辺に広がる丘陵、台地上に存在し、本遺跡周辺は古墳の集中域にあたる。また平野北東に位置する和水町清原台地上には銀象嵌銘太刀で著名な江田船山古墳を含む古墳群が存在する。玉名平野条里跡の範囲でも数カ所で古墳時代の遺物出土が確認されている(田中2008)。本項ではそれらの中で本遺跡と時期的、地理的に近い位置にある主要古墳を概観する。

【玉名平野北端低丘陵裾の古墳】

〔大坊古墳〕

大坊古墳は玉名平野北限、低丘陵南裾に位置する全長約54mの前方後円墳である。主体部は複室構造の横穴式石室で、安山岩の割石小口積みで築かれる。玄室奥壁に接して、凝灰岩切石を組み合わせた石屋形が存在する。羨門・玄門の閉塞石、玄門の両袖石、および石屋形内面・前面には赤色顔料、青色(灰色)顔料による三角文・円文の装飾文様を有する。1963年田添夏喜・田辺哲夫らにより発掘調査が行われ、多数の副葬品が出土した(田添1967)。出土品は装身具、馬具、武具、工具、土器に大別され、装身具は水晶製勾玉1、碧玉製管玉12、水晶製算盤玉2、瑪瑙製環玉1、切子玉1、ガラス小玉100等があり、耳飾には垂飾付耳飾2、金環5、金銅環5が、武具には直刀1、鉄剣1、鉄鉾1、刀子1、鉄鏃22がある。馬具はTK43型式期に位置づけられる杏葉1、輪鏝1、止金具2があり、その他鉄斧1、TK10型式の須恵器提瓶2、高坏2、坏身2、土師器の脚台付壺1がある。垂飾付耳飾りは2種有り金製が百済系、銀製は大加耶系と指摘されている(高田2003)。古墳は国指定史跡、出土遺物は玉名市指定文化財として玉名市立歴史博物館に収蔵されている。

〔永安寺東古墳〕

永安寺東古墳は低丘陵末端に位置し、中世に改変を受け直径13mを計る円墳である。装飾古墳として有名であるが古くから開口し出土遺物は知られていない。主体部は複室構造の横穴式石室で、装飾は線刻の上に朱彩され石屋形蓋石全面と玄門左右袖石に連続三角文、前室の左右壁に円文、三角文、舟、馬が描かれている。国指定史跡。

〔永安寺西古墳〕

永安寺西古墳は永安寺東古墳の西20mに位置し、現況で直径16mを計る円墳である。東古墳と同じく古くから開口し装飾古墳として知られていたが、近年の整備事業に伴う発掘調査により複室構造の横穴式石室であることが判明し、前室及び羨道部から心葉形十字文透鏡板付轡等の馬具、刀装具、鉄鏃、金環等が出土した(田中2006)。玄室奥壁に石屋形の痕跡がある。装飾は玄室奥壁及び左右壁に3段ずつの円文が線刻され一部が残る。国指定史跡。

〔馬出古墳〕

馬出古墳は低丘陵南東裾に位置する、直径約20m、高さ5mの後期の円墳である。1964年、土木工事にかかり他1基の古墳及び3基の舟形・箱式石棺と共に発見されたが、工事中豪雨に見舞われ保存の手立てなく、翌年発掘調査が行われた(田添1966)。主体部は横穴式石室で、安山岩の低い腰石の上に厚手の割石を小口積みする。天井部は全面失われ、玄室より前方は破壊されていたがもとは複室構造であったとみられる。玄室奥壁に接して、凝灰岩切石を組み合わせた石屋形が存在する。石屋形奥壁・側壁前面および袖石前面には赤色顔料による三角文・円文の装飾文様を有する。出土遺物は装身具、武具、馬具に大別され、装身具は勾玉3(メノウ2、水晶1)、ガラス小玉103、算盤玉13、囊玉1、切子玉3、金環1、銀環2、金銅環2がある。武具は鉄鏃6、刀子5、馬具は轡1、飾金具1組がある。副葬品は通路左奥付近に集中し、石屋形内及び両屍床上は後年荒らされた形跡が濃厚で少数が点在する程度であったというが、羨道左隅に轡1組が完全に遺存していた。また石屋形外から馬頭骨が出土している。出土遺物は玉名市指定重要有形文化財に指定され、玉名市立歴史博物館に収蔵されている。

〔小路古墳〕

小路古墳は、低丘陵東南裾に位置する、直径約11m、高さ1.5m程の墳丘をもつ後期の円墳である。もとは標高27mの山頂に存在したが土木工事にかかり解体され、数百メートル離れた現在地に移転復元されている。主体部は南に開口する単室の横穴式石室で、安山岩板石の小口積みで築かれる。天井部及び玄室壁体の上半部を失っていたが、壁体下半部及び床面ならびに羨道石組みが原形を留め遺存していた。玄室奥側に舟形石棺を置き、その手前、左右両側に屍床を配置するいわゆるコの字形屍床の形態をとる。なお、石棺周辺には拳大の円礫が、床面には玉砂利が敷かれていた。1966年の発掘調査の際に出土した遺物の多くは玄室内中央の通路部、両屍床の北半部と石棺周辺から発見され、装身具、武具、馬具、土器に大別される(田添1966)。装身具は勾玉6(翡翠)、丸玉、ガラス小玉80、メノウ小玉4、管玉1、金銅環3があり、武具には鉄鏃6、刀子2、馬具に鞍橋機飾金具8、鉸具3、雲珠1、辻金具2、轡15、四鉸菱形止金具2がある。その他須恵器提瓶1、台付壺口縁部2、台付壺脚台2、坏蓋1、土師器坏身1がある。古墳および出土品は「小路古墳附出土品一括」として玉名市指定重要有形文化財に指定され、玉名市立歴史博物館こころピアに収蔵されている。

〔菊池川左岸の古墳〕

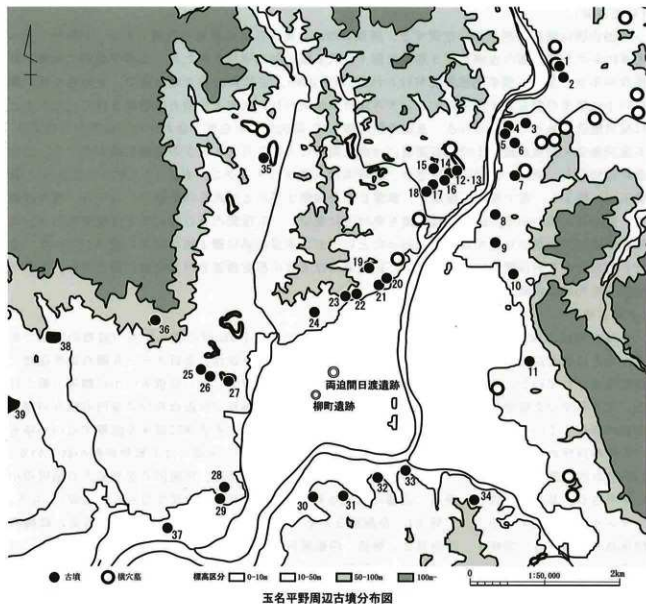
菊池川左岸には全長59mの前方後円墳で4世紀後半に位置づけられる山古墳があり、前方部及び後円部上に舟形石棺1基ずつ後円部に壺棺2の複数主体部を有する。その1km北に位置する徳丸古墳(滅失)がこれに後続し舟形石棺を主体部とする前方後円墳とされる。玉名平野南方の伊倉丘陵性台地から菊池川へ向けて延びる尾根末端上には寺田古墳群、城ヶ辻古墳群、上津留古墳、飯塚古墳がある。

〔城ヶ辻古墳群7号墳〕

城ヶ辻古墳群は菊池川、玉名平野を見渡せる丘陵端部上に立地しており、前期から後期にかけての7基の古墳が確認されている。7号墳は主体部を壑穴系横穴式石室とする直径9mの円墳である。石室内から長頸鏃、馬具が、墳丘上からはTK47型式の須恵器、土師器が出土している。

〔繁根木川右岸 玉名台地上の古墳〕

玉名平野南西に位置する玉名台地東端は南は有明海から宇土半島、東は玉名平野や菊池川を見渡



せる眺望地で、方格矩鏡が出土した箱式石棺の他5世紀後半の2基の古墳が知られる。
〔伝左山古墳（繁根木古墳）〕

伝左山古墳は、稲荷山古墳の北70mに位置する直径35m、高さ5mの円墳である。明治年間の発見後2形式の埋葬施設を有する珍しい古墳として注目され、かつては繁根木古墳と称されていたが現在は伝左山古墳と呼称されている。墳丘南側では円筒埴輪が出土している。主体部は板石小口積み
の石障系横穴式石室で、墳頂には別に舟形石棺が直葬されている。横穴式石室の玄室はやや縦長の
方形を呈し、各壁前面に石障がある。本古墳に特徴的な施設として玄室の奥壁及び左右壁の3ヶ所
に突起を有し、発見当初は石棚があったと伝わるが現存しない。

舟形石棺は阿蘇溶結凝灰岩製の剝拔式で棺身両小口部に円柱状縄掛突起を有する。

副葬品は出土の時期が4期に亘り、1869年の第1期、1885年の第2期の出土品は熊本市立熊本博物館に收藏され、1965年玉名高校による実測調査に際する第3期出土品は東京国立博物館に收藏されている(田添1966)。また平成初年の玉名市史編纂事業による調査出土品は玉名市立博物館に收藏

玉名平野周辺の古墳

番号	古墳名	墳丘	主体部	備考
1	若宮古墳	前方後円墳	家形石棺	須恵器破片、円筒埴輪、朝顔形埴輪
2	江田穴藏菅古墳	円墳	横穴式石室	須恵器、金環、ガラス勾玉、馬具
3	江田船山古墳	前方後円墳	横穴式家形石棺	銅鏡、装身具、武器、馬具、須恵器、埴輪
4	京塚古墳	円墳	舟形石棺	円筒埴輪、須恵器、土師器
5	虚空藏塚古墳	前方後円墳		埴輪
6	塚坊主古墳	前方後円墳	横穴式石室	装飾古墳、家形石棺、
7	松坂古墳	円墳	舟形石棺1・箱式石棺1	土師器、管玉、小玉
8	榑山古墳	円墳		
9	部田古墳	円墳?	舟形石棺	
10	徳丸古墳群	前方後円墳	舟形石棺	前方後円墳3基?、舟形石棺1
11	山下古墳・山下古墳碑	前方後円墳	舟形石棺2、壘棺2	鉄器
12	真福寺古墳	円墳	舟形石棺	滑石小玉、鉄剣、鉄斧出土
13	真福寺東古墳		舟形石棺	舟形石棺遺発見
14	前田古墳		舟形石棺	土師器片
15	宮の後古墳		舟形石棺	滑石小玉、鉄剣、刀子
16	赤売古墳		箱式石棺	人骨・鉄剣出土
17	田代阿弥陀塚古墳	円墳	舟形石棺	舟形系の壘石
18	田代中の塚古墳	円墳	箱式石棺	土師器片
19	松下経塚古墳	円墳		墳丘・周溝あり
20	小幡古墳	円墳	横穴式石室・舟形石棺	石室内に舟形石棺、須恵器、土師器、馬具、装身具。
21	馬出古墳・1～2号石棺	円墳	横穴式石室	装飾古墳。石室から馬具、装身具。舟形石棺1、箱式石棺1
22	永安寺東古墳	円墳	横穴式石室	装飾古墳。円・三角・馬を描く
23	永安寺西古墳	円墳	横穴式石室	装飾古墳。円文縁刷
24	大坊古墳	前方後円墳	横穴式石室	装飾古墳。石屋形に円文・連続三角文。
25	大塚古墳	円墳		大円墳、保存良好
26	小塚古墳	円墳		大円墳、保存良好
27	冷水塚古墳	前方後円墳	舟形石棺	現在消滅
28	伝左山古墳	円墳	横穴式石室・舟形石棺	円筒埴輪、武器、武器、装身具
29	稲荷山古墳(他4石碑)	前方後円墳		朝顔形、円筒埴輪
30	松林寺山古墳	円墳	舟形石棺	舟形石棺露出、棺蓋不明
31	飯塚古墳	円墳		
32	城が辻古墳群(1～7号墳)	円墳	箱式石棺・横穴式石室	1号箱式石棺・2号円墳、6号墳横穴式石室
33	寺田古墳群(1～4号墳)	円墳	箱式石棺・舟形石棺	1号台地北端、2号舟形、3号箱式石棺、4号地外墳
34	上津留古墳	円墳		円墳径25m
35	後田舟形石棺		舟形石棺	
36	蛇ヶ谷舟形石棺		舟形石棺	
37	台の島古墳		箱式石棺	現在消滅。1964年玉名高校考古学部調査。
38	保多地古墳群(1～5号墳)	円墳	横穴式石室	2号墳 複室構造横穴式石室 須恵器、装身具出土。
39	西の山古墳群			1号壘穴石室か、2号横穴巨石墳木棺埋葬

されている。横穴式石室内からは小札飯留眉庇付冑、小札飯留衝角付冑、横切板飯留短甲、環頭大刀、長頭鎌、脇当、馬具、金製垂飾付耳飾、金環、勾玉、管玉、ガラス小玉が出土している。舟形石棺からは大刀、貝剣、鉄器、金銅片等が出土し、他棺外には槍があったとされる。埴輪はタテハケ調整で円形スカシ孔を有する円筒埴輪が玉名市立歴史博物館に收藏されている。なお埴輪には家形埴輪の存在が指摘されている¹⁾。玉名市指定史跡。

〔稲荷山古墳〕

稲荷山古墳は台地上の標高15mほどの小丘陵頂部に位置する推定全長110mの前方後円墳である。県内でも有数の大型前方後円墳であるが奈良時代には墳丘上を削平されており主体部は不明である。1959年都市開発を受け発掘調査が行われ、段築の拡がり部に径30cm前後の葺石が並び、2重の埴輪列の存在することが確認された(田辺1980)。埴輪は1959年出土分は玉名市立歴史博物館に、2002年採集品(末永2004)は玉名市文化財資料室に收藏されており、朝顔形、円筒埴輪のほか家形、人物埴輪の可能性のある破片が含まれている¹⁾。円筒埴輪はタテハケ調整が中心で、突帯や器壁等

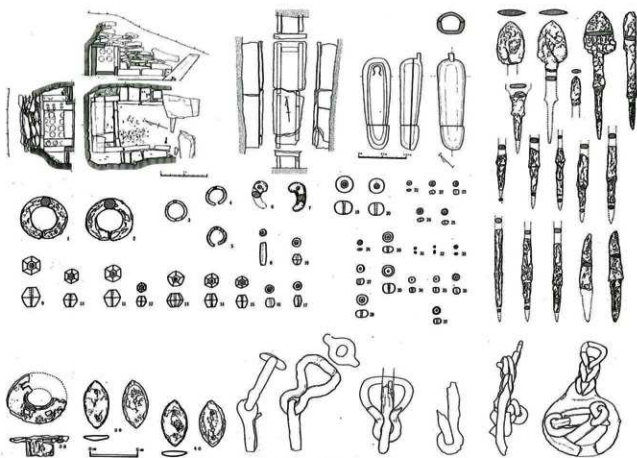
の特徴から伝左山古墳より新しく位置づけられる。

【菊池川下流域の舟形石棺】

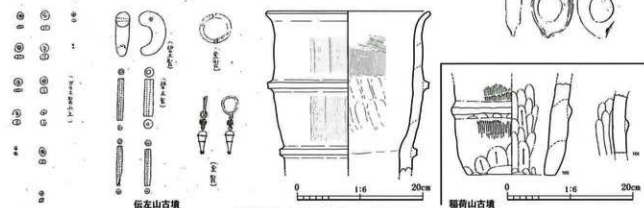
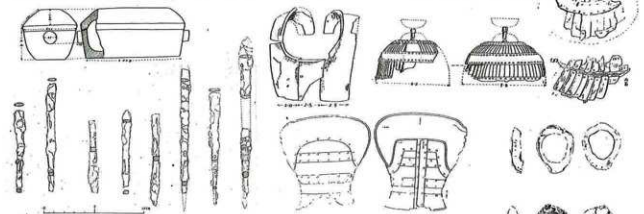
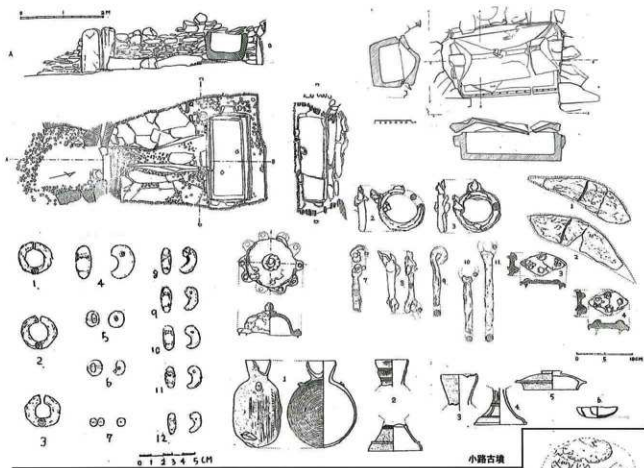
菊池川流域では4世紀後半から5世紀代にかけて舟形石棺が多く古墳の埋葬主体採用されている。本遺跡の北3kmの菊池川右岸の青木・溝の上付付近には阿蘇溶結凝灰岩の崖面があり宮ノ後古墳や真福寺古墳など7基の古墳・石棺が集中し、下流域を中心に分布する北肥後Ⅰ型舟形石棺の製作地と想定されている(高木1987)。また菊池川下流域で製作された石棺は福岡県南部や佐賀県の一部、さらに5世紀中頃から末頃にかけては四国北部地域や瀬戸内沿岸、近畿地方まで長距離輸送されたことが明らかにされている(高木1983)。

註

- (1) 花園大学高橋克壽氏、熊本県教育委員会前田真由子氏の御教示による。
 参考文献・採図出典
 荒木隆宏 2007『古丸前遺跡』玉名市文化財調査報告第16集 玉名市教育委員会
 梅原末治ほか 1925『玉名郡繁根木の古墳』『熊本県史蹟名勝天然記念物調査報告』第2冊 熊本県教育委員会
 岡本真也 2005『前田遺跡』熊本県文化財調査報告第225集 熊本県教育委員会
 乙益重隆 1961『熊本県青藤山遺跡』『日本農耕文化の生成』東京堂
 亀田学編 2007『城ヶ辻古墳群』熊本県文化財調査報告第240集 熊本県教育委員会
 河北毅 1985『今泉遺跡』『肥後考古』第5号 肥後考古学会
 後藤貴美子 2005『玉名平野系里跡』熊本県文化財調査報告第226集 熊本県教育委員会
 末永崇福 2002『今見堂遺跡・平町遺跡・蓮華遺跡』玉名市文化財調査報告第10集 玉名市教育委員会
 末永崇福 2004『玉名市内遺跡調査報告書Ⅱ』玉名市文化財調査報告第13集 玉名市教育委員会
 高木恭二 1987『石棺を運ぶ』『東アジアの古代文化』第50号 大和書房
 高木恭二 1983『石棺輸送論』『九州考古学』第58号 九州考古学会
 高田貫太 2003『垂飾付耳飾りをめぐる地域間交渉』『熊本古墳研究』創刊号 熊本古墳研究会
 田詔夏喜 1966『小路古墳調査報告』玉名市教育委員会
 田詔夏喜 1966『伝左山古墳概要』『玉名高校考古学部報』第17号 熊本県立玉名高校考古学部
 田詔夏喜 1967『熊本県玉名郡大坊古墳調査報告』『熊本史学』32号 熊本史学会 1967
 田詔夏喜 1992『熊本県玉名市玉名 馬出古墳調査報告』『歴史玉名』第9号 玉名歴史研究会
 田中康雄 2000『東南大門遺跡』玉名市文化財調査報告第8集 玉名市教育委員会
 田中康雄 2006『史跡 永安寺東古墳・永安寺西古墳保存整備事業報告書』玉名市教育委員会
 田中康雄 2008『玉名市内遺跡Ⅳ』玉名市文化財調査報告第17集 玉名市教育委員会
 田辺哲夫 1963『玉名市岡の箱式石棺』『玉名高校考古学部報』第2号 玉名高校考古学部
 田辺哲夫 1980『輪背山古墳』『熊本の上代遺跡』熊本日日新聞社

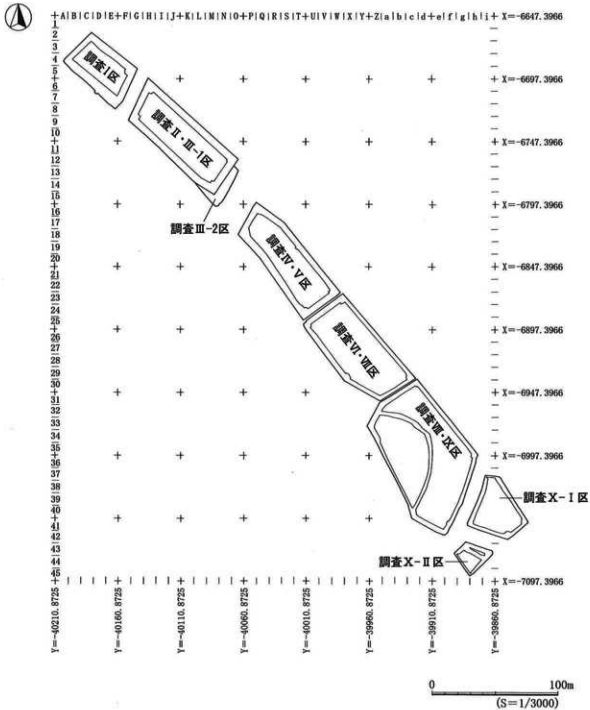


馬出古墳



第 Ⅱ 章 調 査 概 要

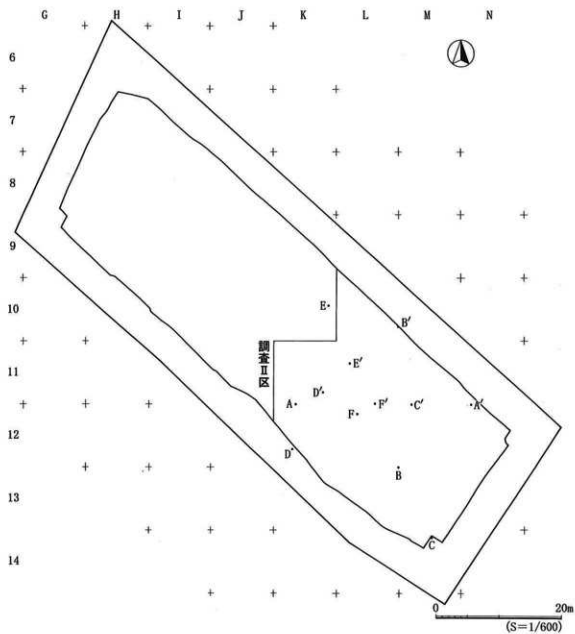
一般国道 208 号玉名バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財調査



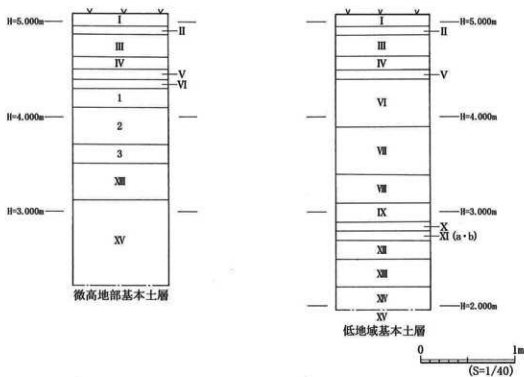
第2図 全調査区位置図(調査I~Ⅹ-II区)

第 III 章 調査成果

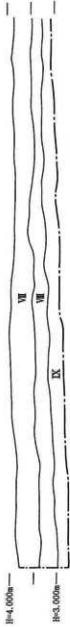
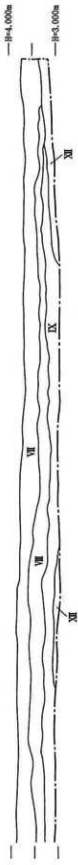
一般国道 208 号玉名バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財調査



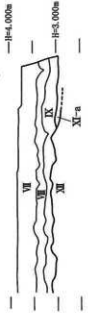
第3図 調査Ⅱ・Ⅲ-1区全体図



第4図 調査III-1区基本土層図



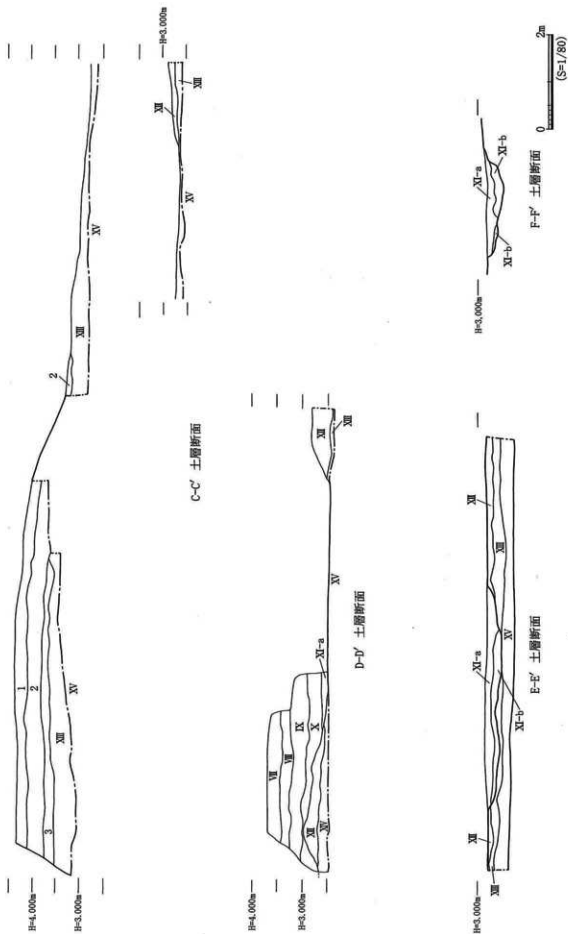
A-A' 土層断面



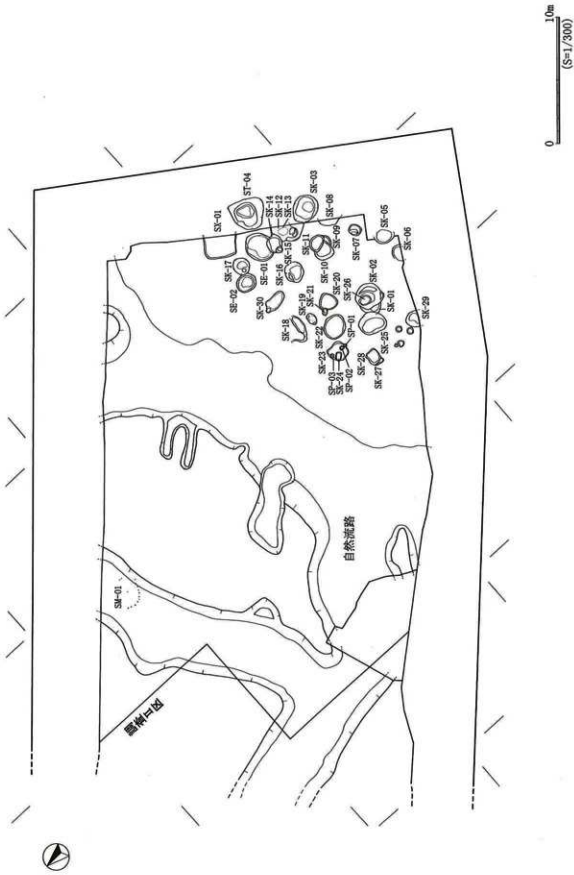
B-B' 土層断面



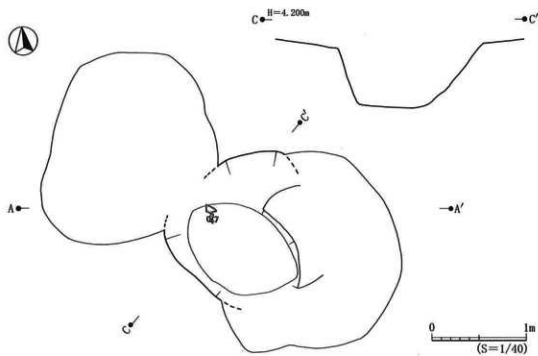
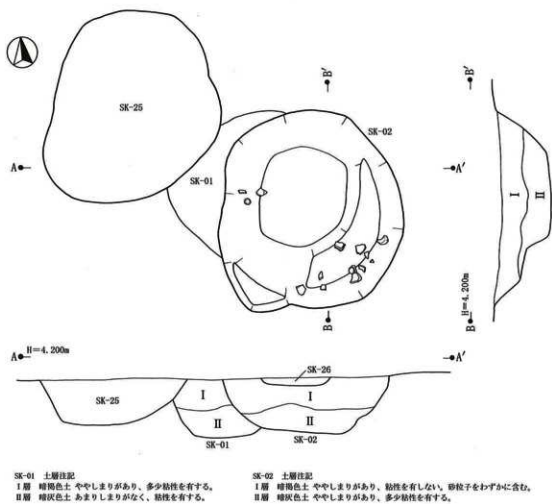
第5圖 調査區I区土層断面圖I



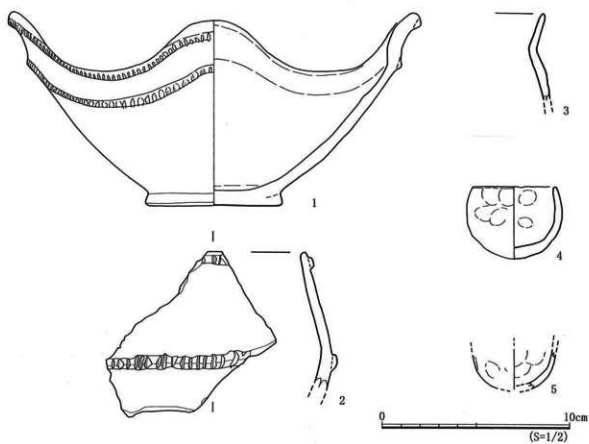
第6図 調査III-1区土層断面図2



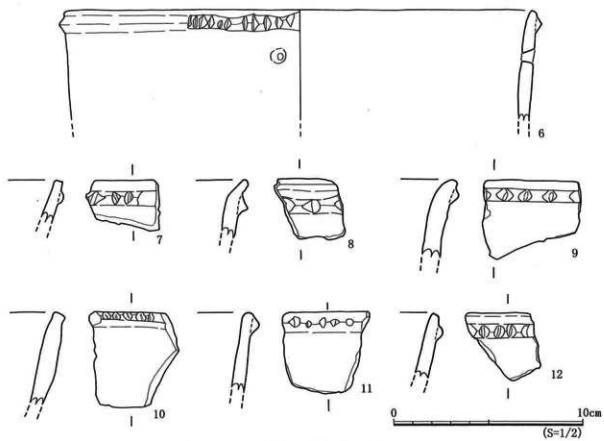
第7図 調査区Ⅰ区道構配置図



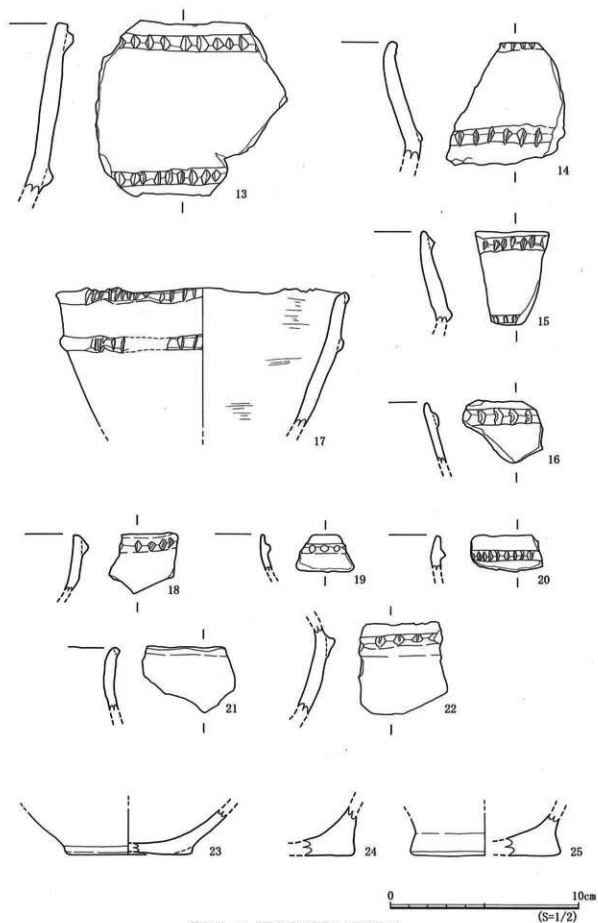
第8図 III-1SK-01・02実測図



第9図 III-1SK-02出土遺物実測図

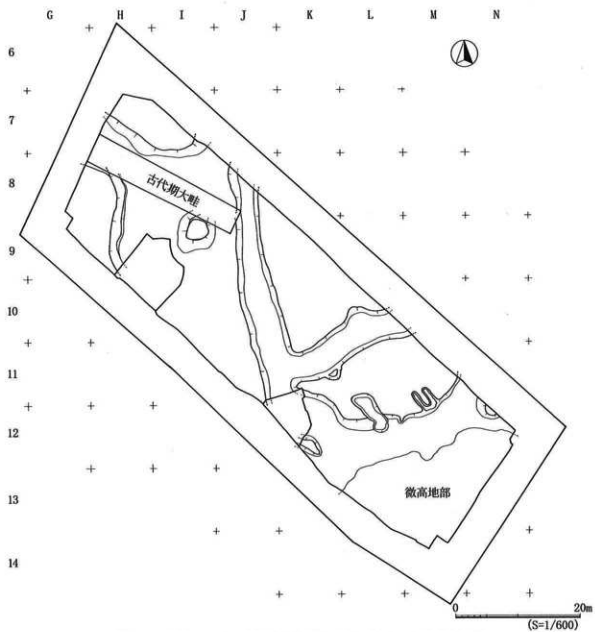


第10図 Ⅲ-1縄文時代晚期土器実測図1

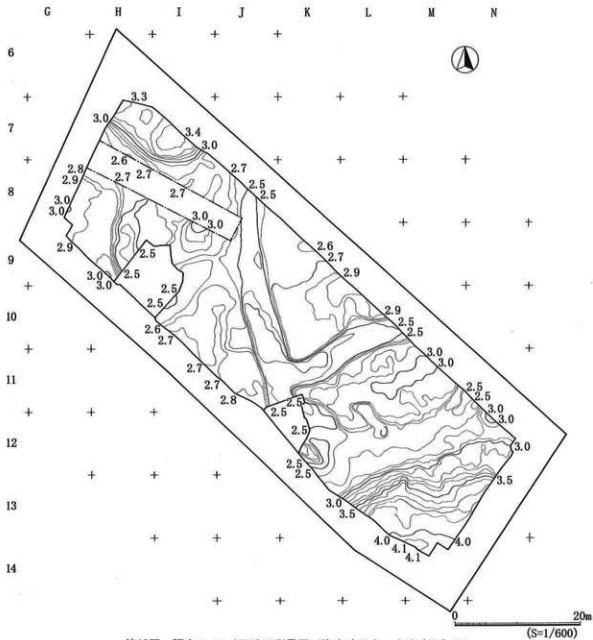


第11圖 III-1繩文時代晚期土器実測圖2

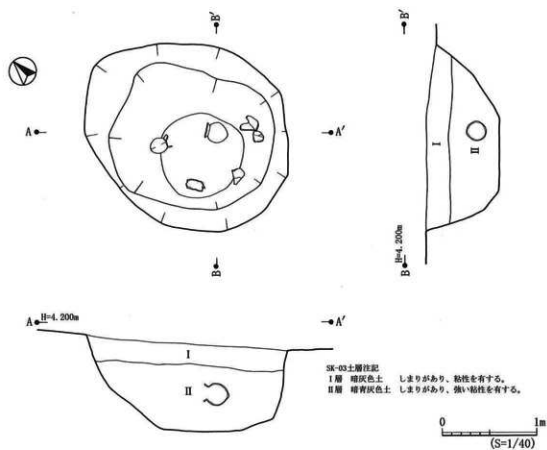
第1節 調査Ⅲ-1区（平成7年度調査）



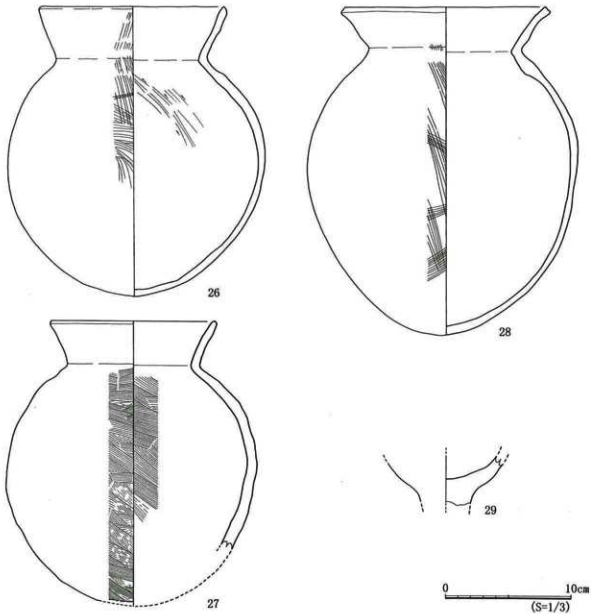
第12図 調査Ⅱ・Ⅲ-1区自然流路全体図（弥生時代末～古墳時代初頭）



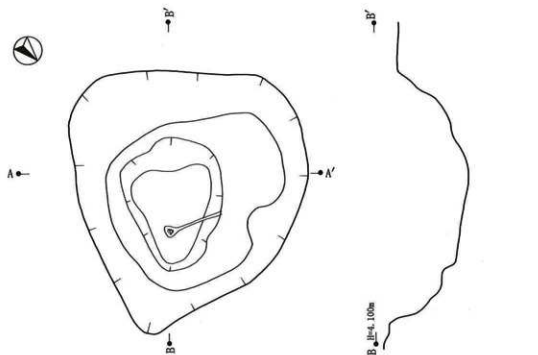
第13図 調査Ⅱ・Ⅲ-1区地形測量図 (弥生時代末~古墳時代初頭)



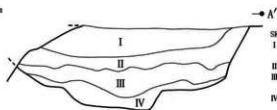
第14図 Ⅲ-1SK-03実測図



第15図 III-1SK-03出土遺物実測図



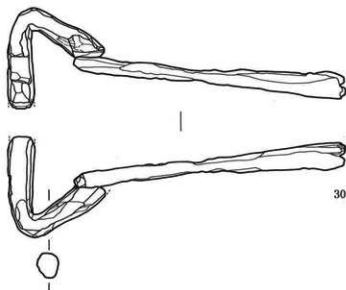
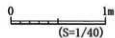
A-B=4.100m



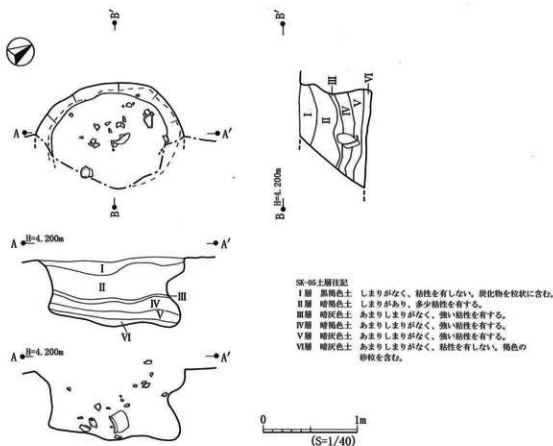
SK-04土層注記

- I層 暗灰色土 ややしまりがあり、強い粘性を有する。炭化物の粒を少量含む。
- II層 黒灰色土 しまりがあり、粘性を有する。
- III層 暗灰色土 しまりがあり、強い粘性を有する。青灰色土をブロック状に含む。
- IV層 暗灰色土 しまりがあり、強い粘性を有する。青灰色土、砂粒子をブロック状に多く含む。

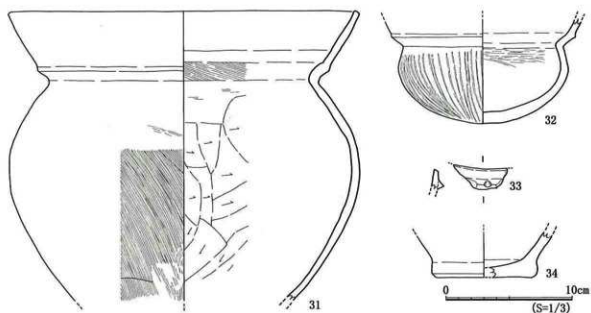
第16図 Ⅲ-1SK-04実測図



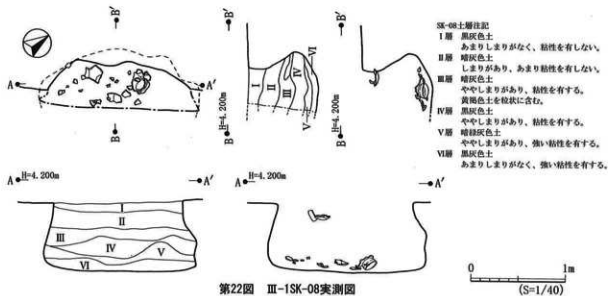
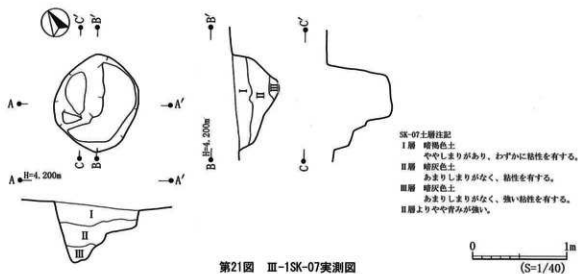
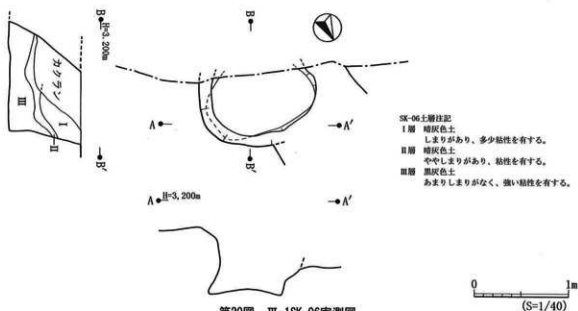
第17図 Ⅲ-1SK-04出土遺物実測図

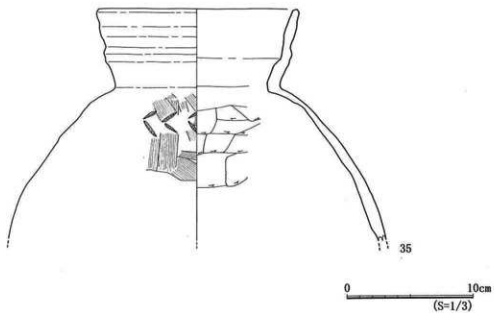


第18図 III-1SK-05実測図

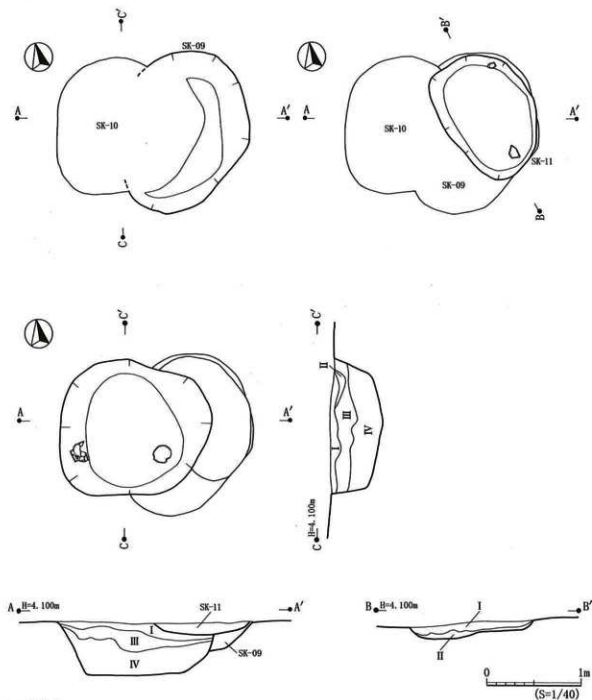


第19図 Ⅲ-1SK-05出土遺物実測図





第23図 Ⅲ-1SK-08出土遺物実測図



SK-09土層注記

I層 暗灰色土 ややしまりがあり、粘性を有する。

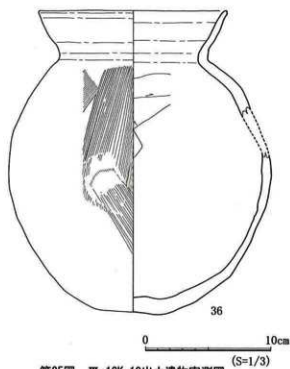
SK-10土層注記

- I層 暗灰色土 しまりがあり、多少粘性を有する。炭化物、焼土を少量含む。
- II層 暗灰色土 しまりがあり、多少粘性を有する。砂粒子を少量含む。
- III層 暗灰色土 しまりがあり、多少粘性を有する。炭化物、焼土を少量含む。1層よりやや細かい。
- IV層 黒灰色土 しまりがあり、あまり粘性を有しない。炭化物、焼土を少量含む。

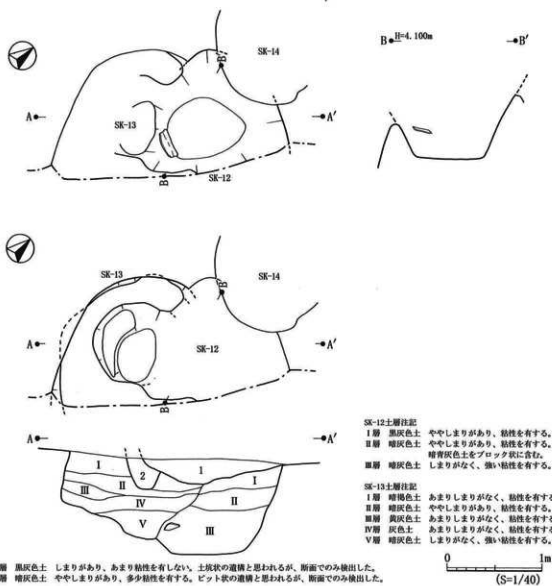
SK-11土層注記

- I層 暗灰色土 しまりがあり、多少粘性を有する。炭化物を含む。
- II層 暗灰色土 しまりがあり、粘性を有する。炭化物を含み、灰色土をブロック状に多く含む。

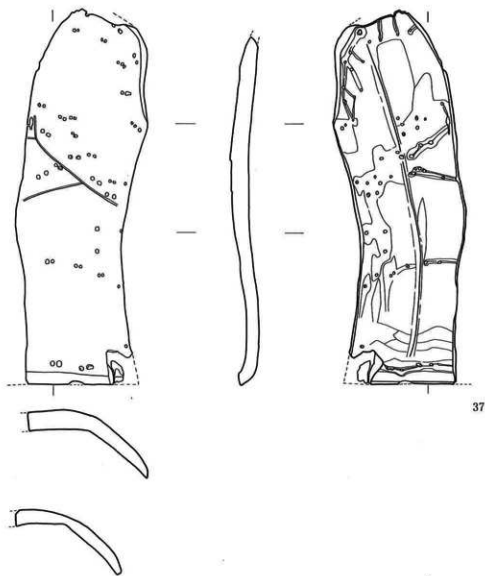
第24図 III-SK-09・10・11実測図



第25図 Ⅲ-1SK-10出土遺物実測図 (S=1/3)

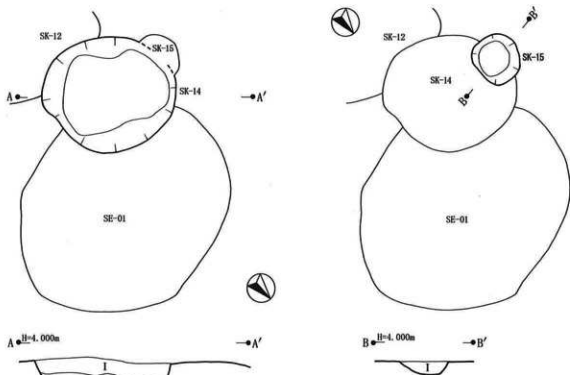


第26図 III-1SK-12・13実測図



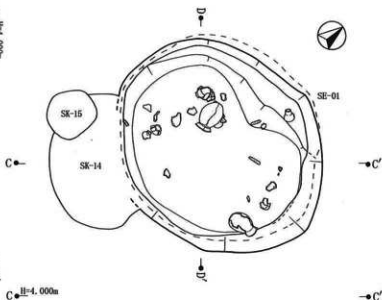
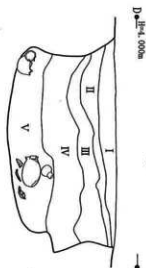
0 10cm
(S=1/4)

第27図 Ⅲ-15K-12出土遺物実測図



SK-14土層注記
 I層 暗褐色土 ややしまりがあり、多少粘性を有する。
 II層 暗灰色土 あまりしまりがなく、粘性を有する。黄褐色土を粒状に多く含む。

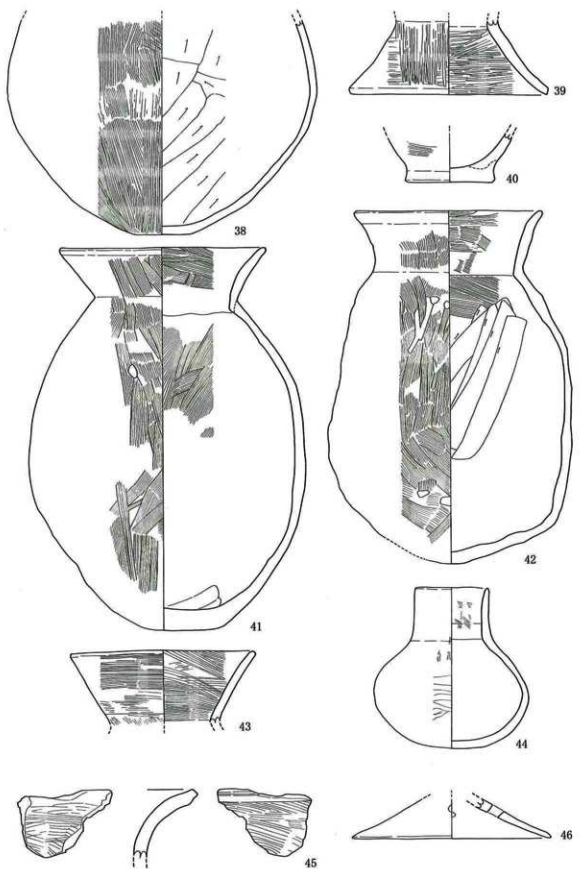
SK-15土層注記
 I層 暗褐色土 あまりしまりがなく、粘性を有する。



SE-01土層注記
 I層 暗褐色土 ややしまりがあり、粘性を有しない。微細砂粒子をわずかに含む。
 II層 暗灰色土 あまりしまりがなく、粘性を有する。砂粒子をわずかに含む。
 III層 暗黄褐色土 あまりしまりがなく、粘性を有する。青灰色土、黄褐色土をブロック状に含む。
 IV層 暗灰色土 しまりがなく、強い粘性を有する。
 V層 黒灰色土 しまりがなく、強い粘性を有する。

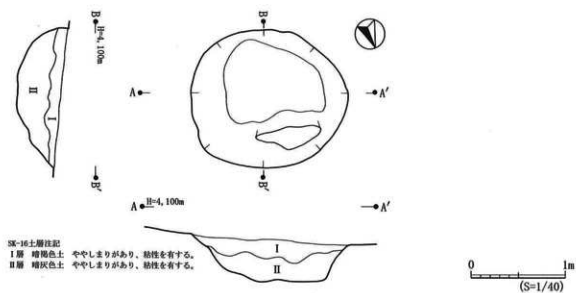
0 1m
 (S=1/40)

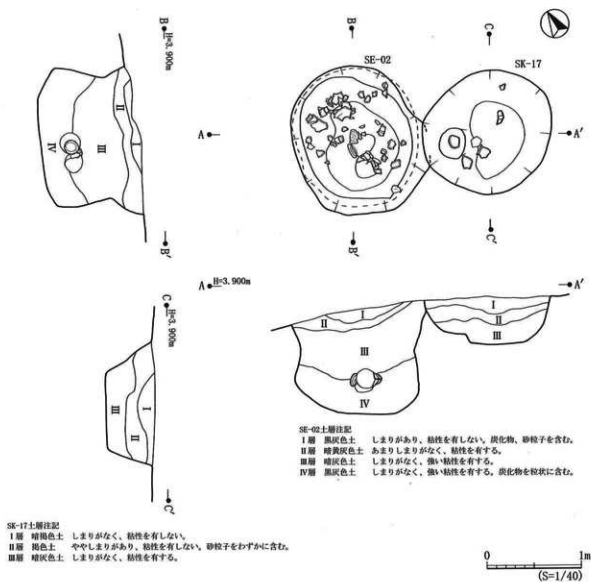
第28図 Ⅲ-ISK-14・15・SE-01実測図



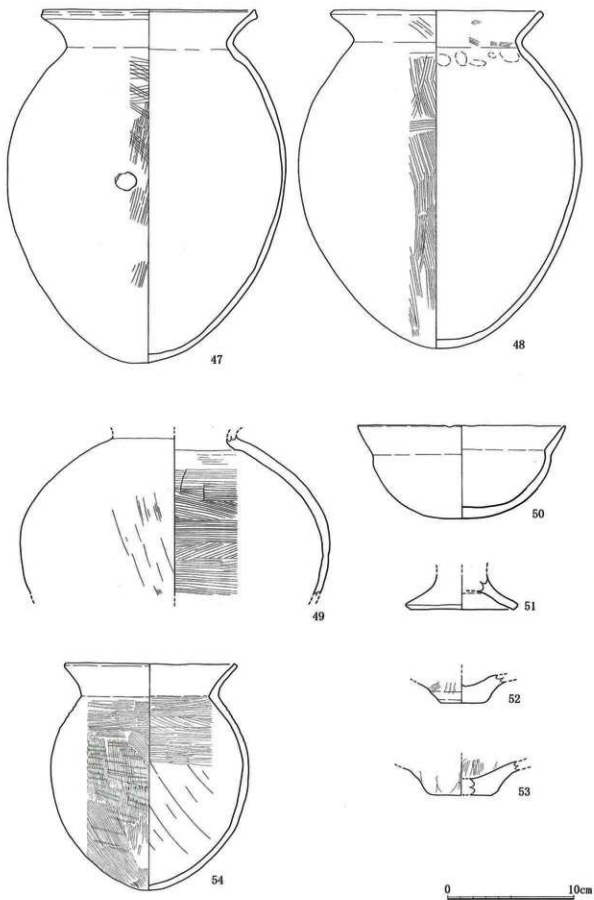
0 10cm
(S=1/3)

第29図 Ⅲ-1SE-01出土遺物実測図



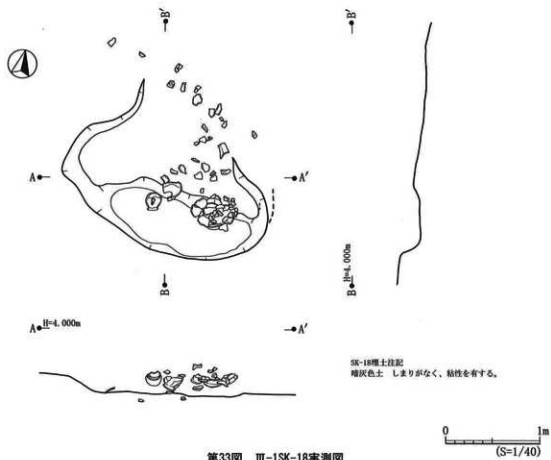


第31図 III-1SE-02・SK-17実測図

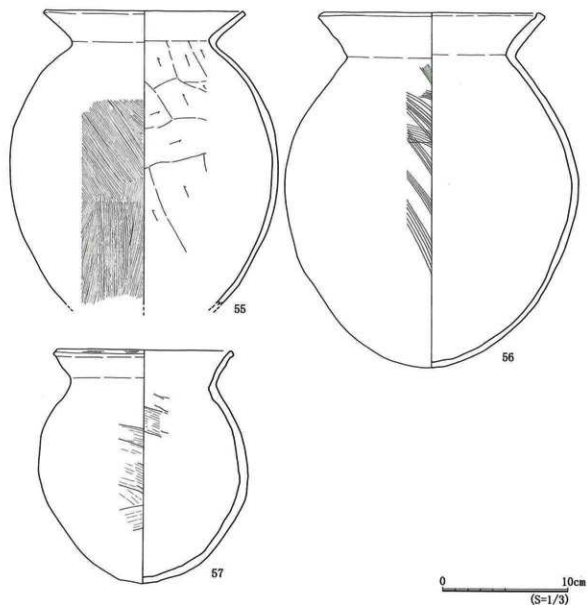


第32図 III-15E-02・SK-17出土遺物実測図

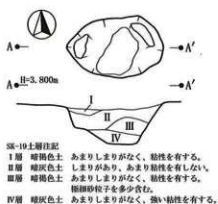
0 10cm
(S-1/3)



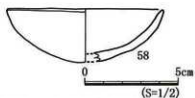
第33図 III-1SK-18実測図



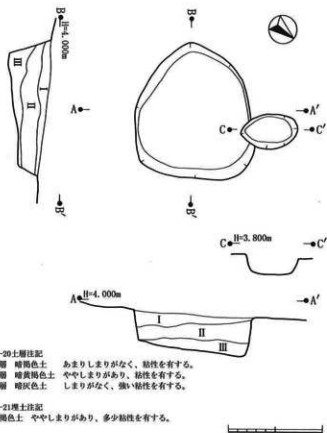
第34図 III-1SK-18出土遺物実測図



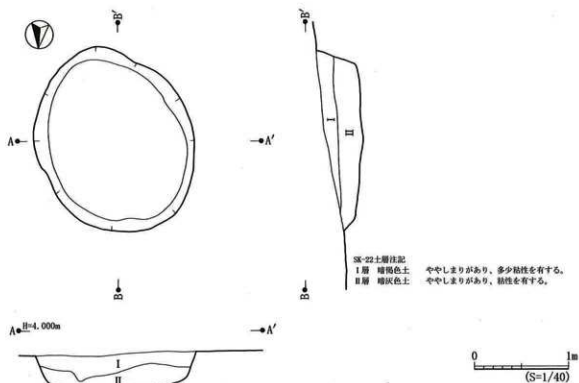
第35図 Ⅲ-ISK-19実測図
 0 1m
 (S=1/40)



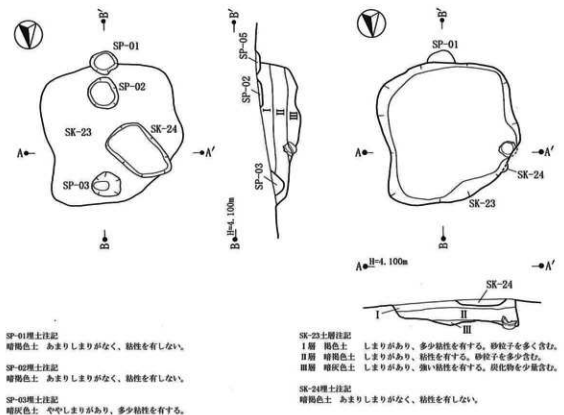
第36図 Ⅲ-ISK-19出土遺物実測図



第37図 Ⅲ-ISK-20・21実測図

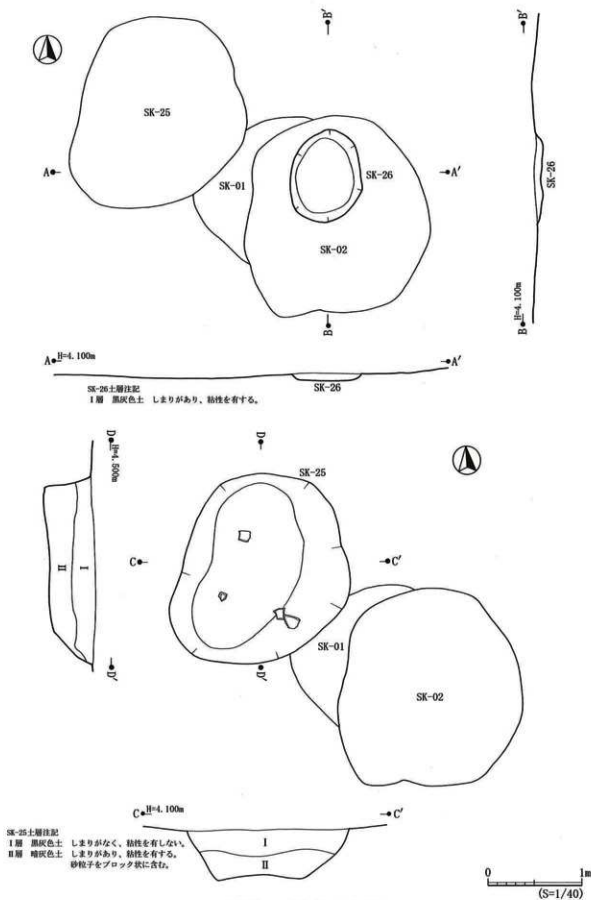


第38図 III-1SK-22実測図

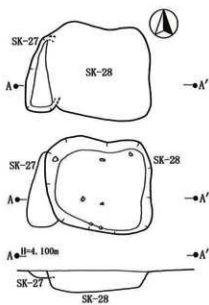


第39図 III-1SK-23・24、SP-01・02・03実測図

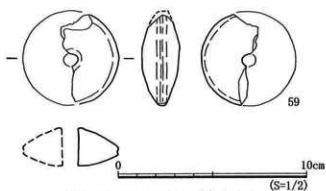
第1節 調査Ⅲ-1区 (平成7年度調査)



第40図 Ⅲ-1SK-25・26実測図



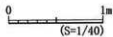
第41図 III-1SK-27・28実測図

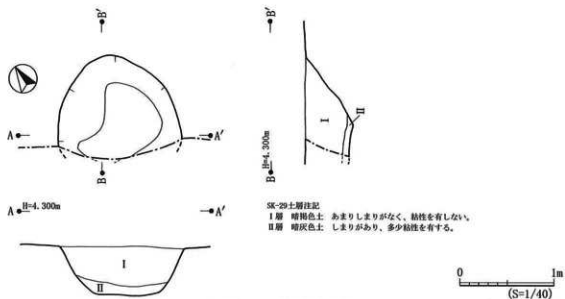


第42図 III-1SK-28出土遺物実測図

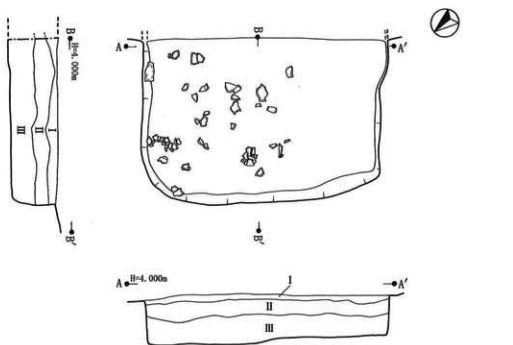
SK-27埋土注記
暗褐色土 ややしまりがあり、多少粘性を有する。

SK-28埋土注記
暗灰色土 ややしまりがあり、多少粘性を有する。

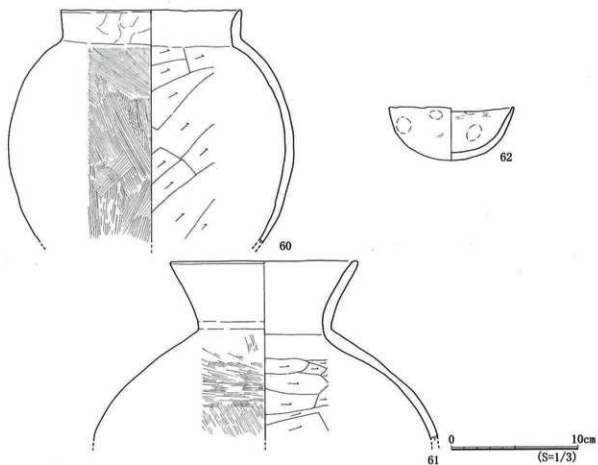




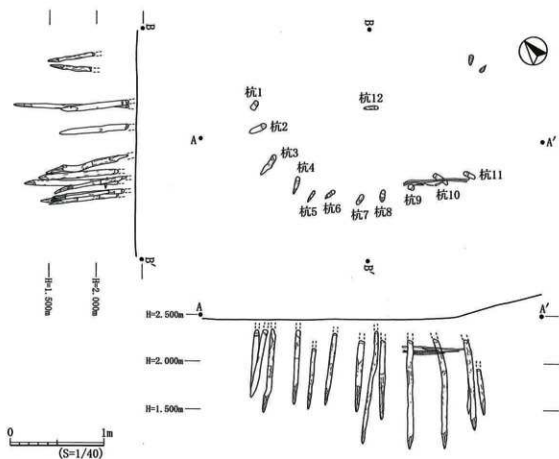
第43図 III-1SK-29実測図



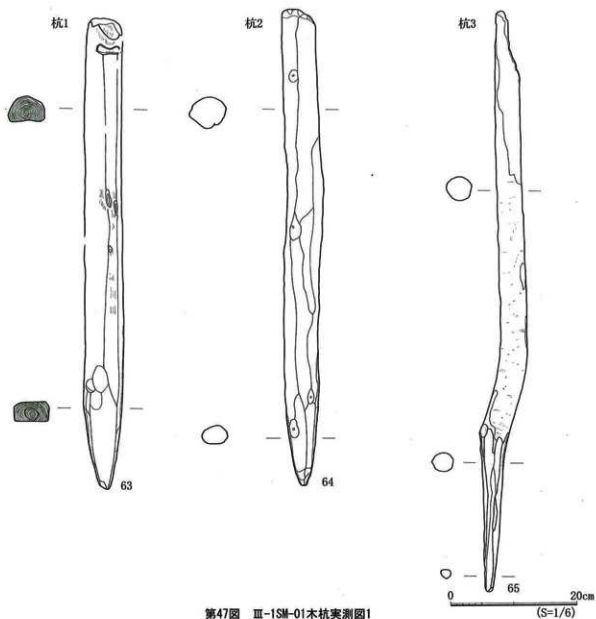
第44図 III-1SX-01実測図



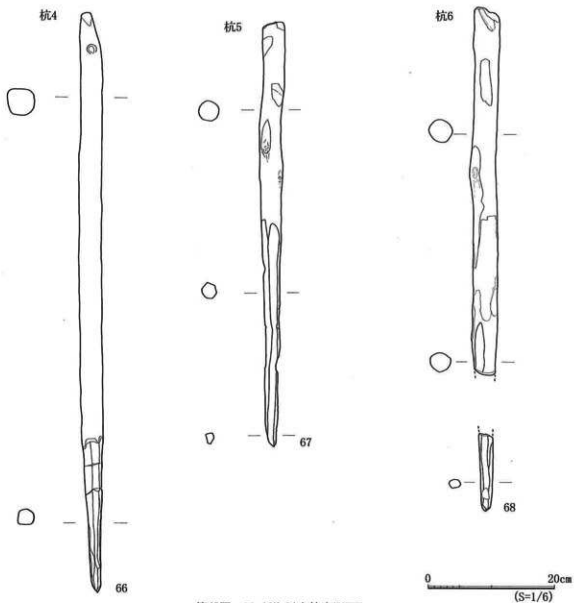
第45図 III-1SX-01出土遺物実測図



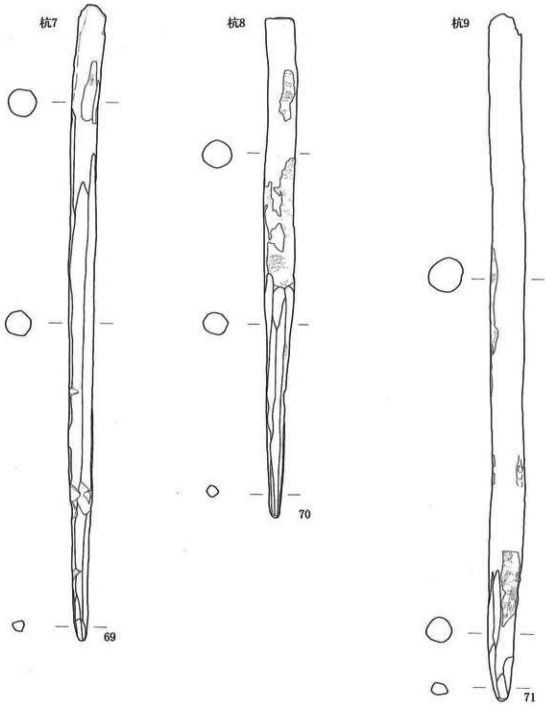
第46図 III-ISM-01実測図



第47図 Ⅲ-1SM-01木杭実測図1

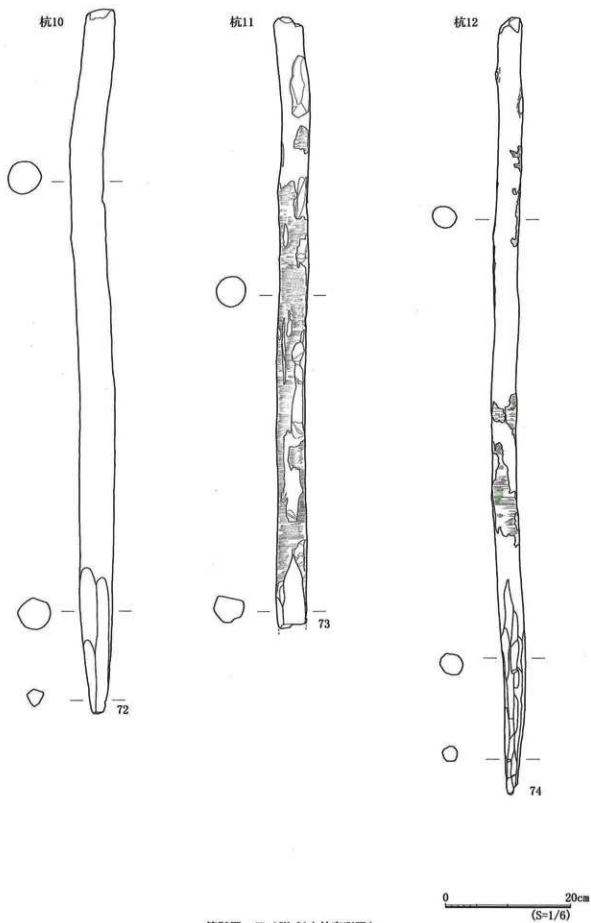


第48図 III-1SM-01木杭実測図2



第49圖 Ⅲ-1SM-01木杭突測圖3

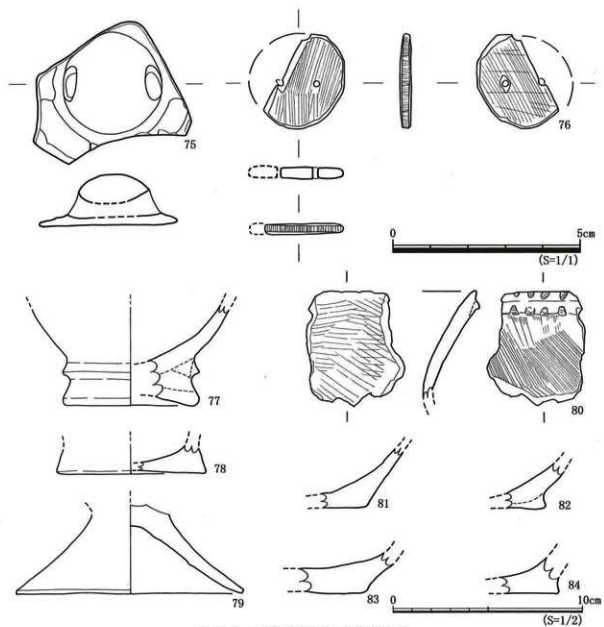
0 20cm
(S=1/6)



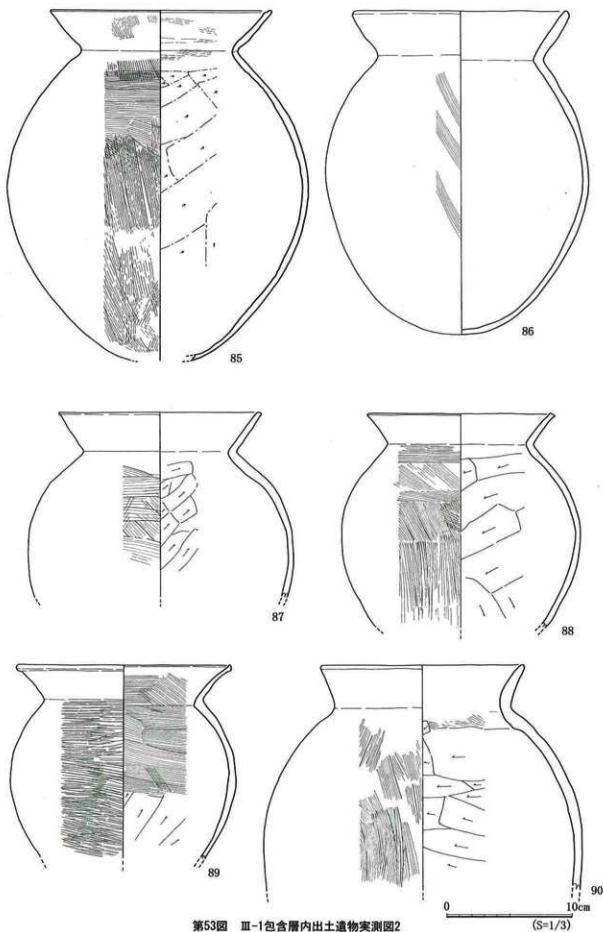
第50图 Ⅲ-1SM-01木杭実測图4



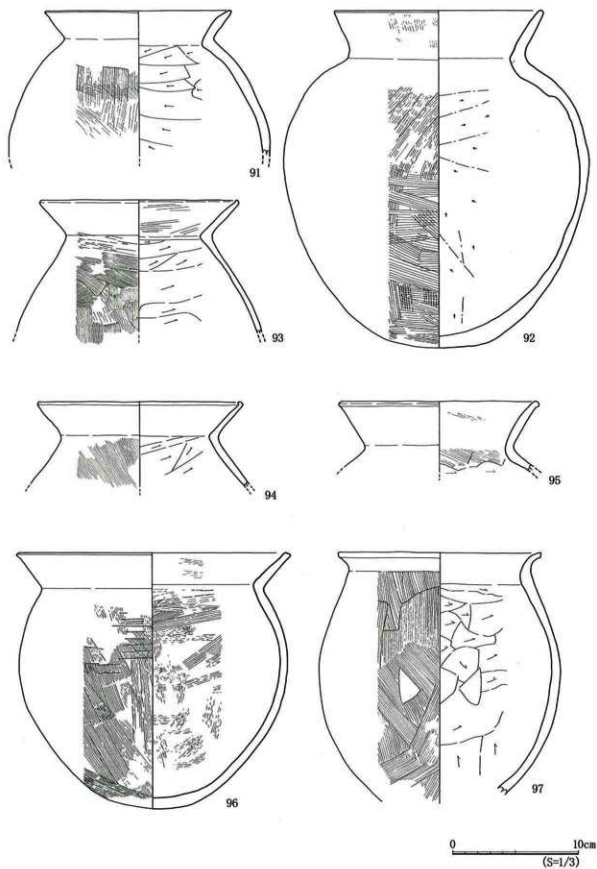
第51図 III-1包舎層内出土物平面分布図



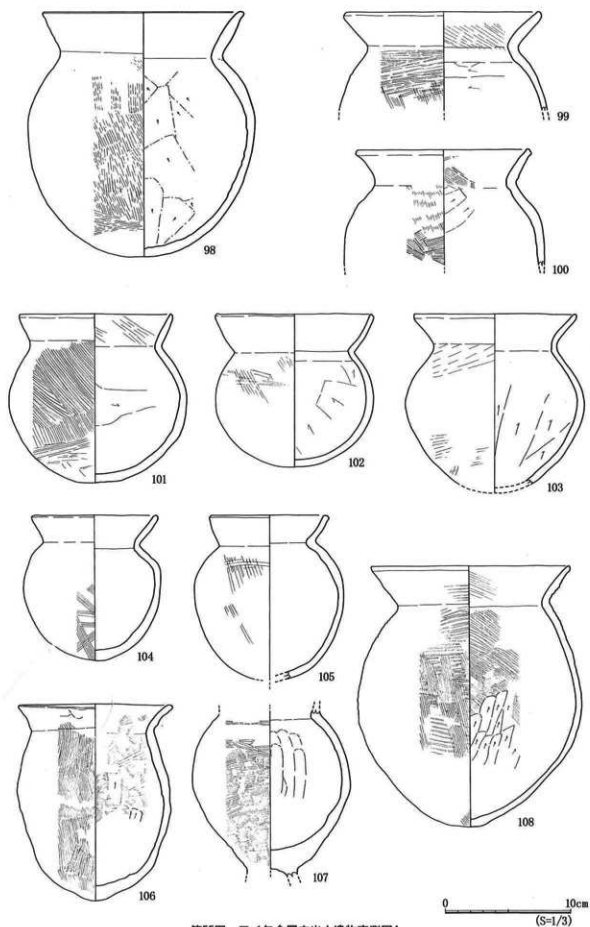
第52図 Ⅲ-1包含層内出土遺物実測図1



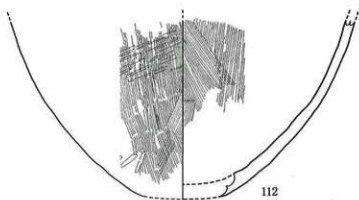
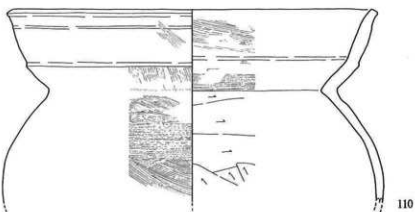
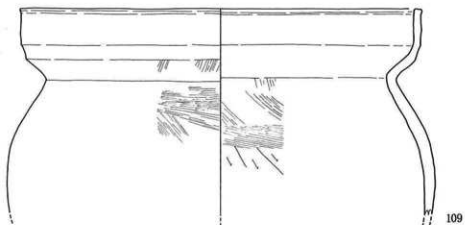
第53圖 III-1包含層内出土遺物実測図2



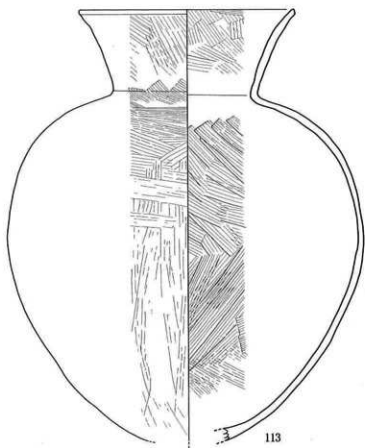
第54図 Ⅲ-1包含層内出土物実測図3



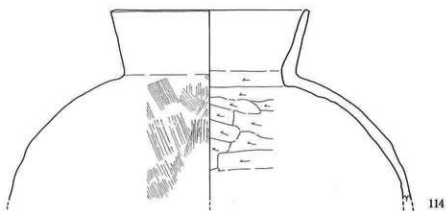
第55図 III-1包含層内出土遺物実測図4



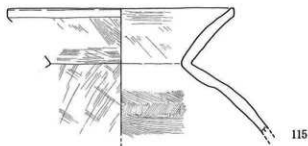
第56図 Ⅲ-1包含層内出土遺物実測図5



113



114

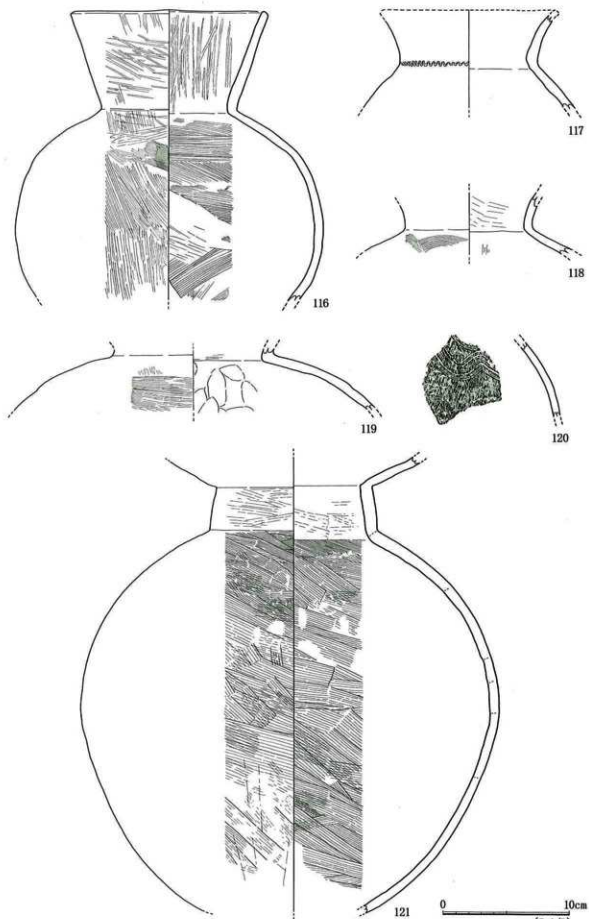


115

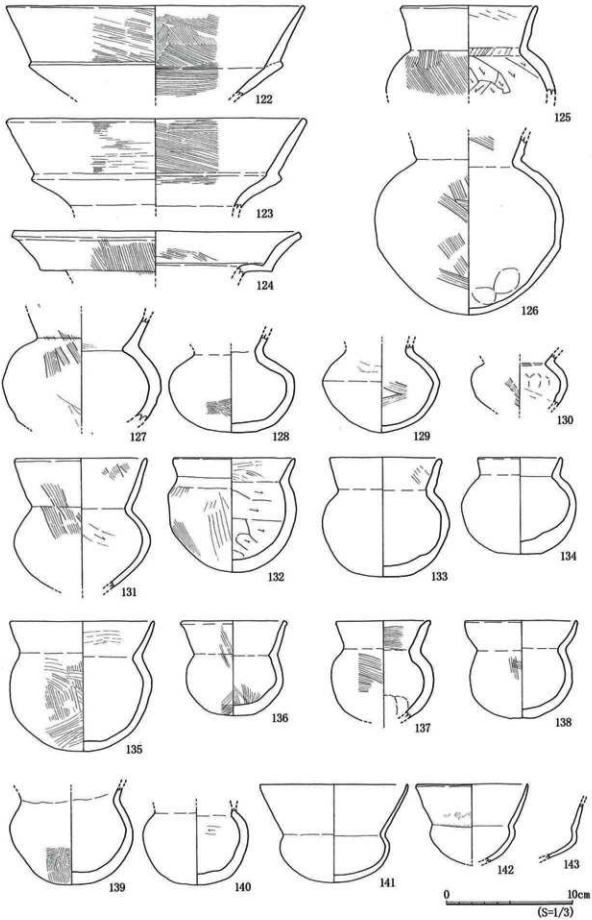
0 10cm

(S=1/3)

第57図 III-1包含層内出土遺物実測図6

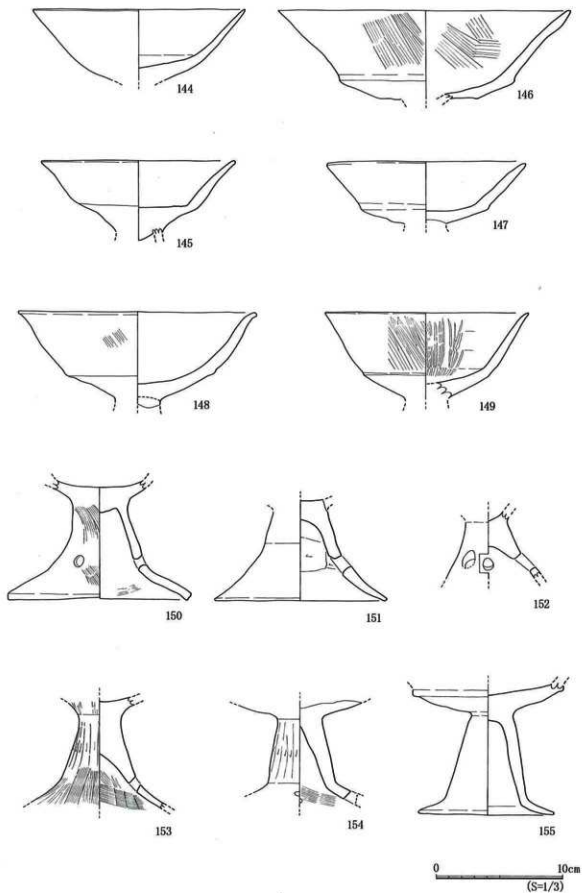


第58図 Ⅲ-1包含層内出土物実測図7

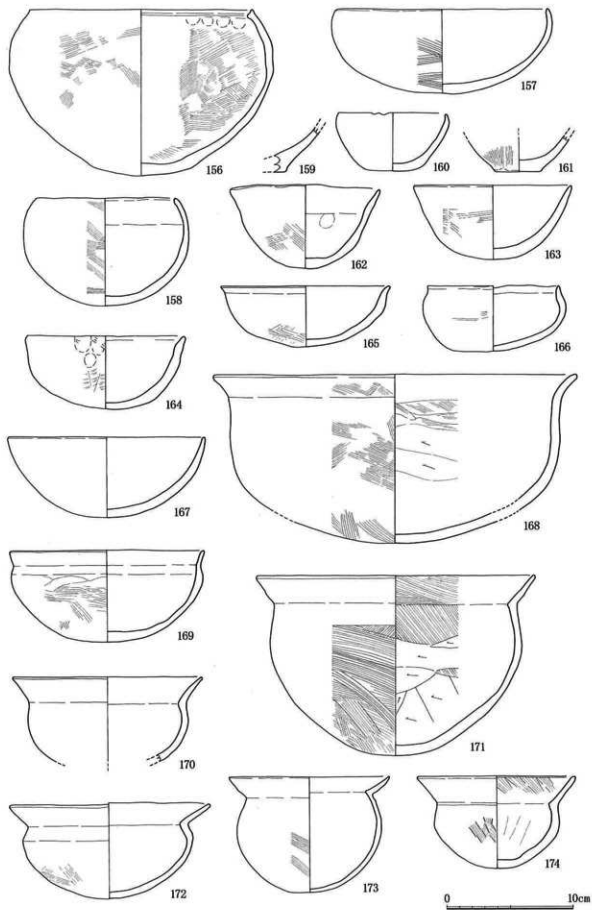


第59圖 Ⅲ-1包含層内出土遺物実測図8

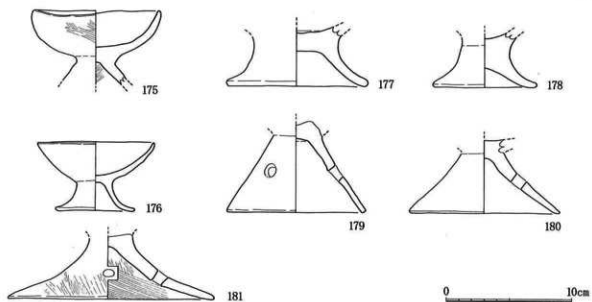
第1節 調査Ⅲ-1区(平成7年度調査)



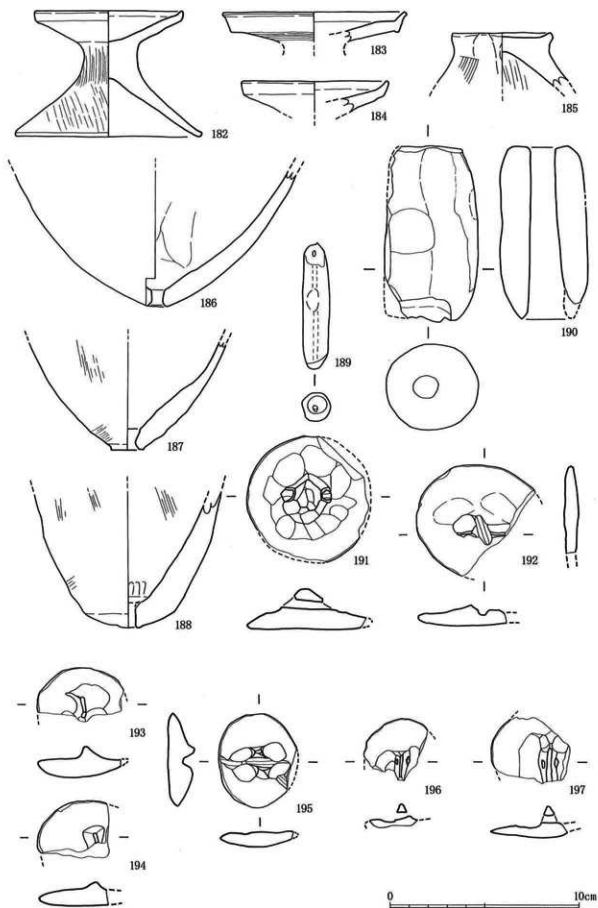
第60圖 Ⅲ-1包含層内出土遺物実測図9



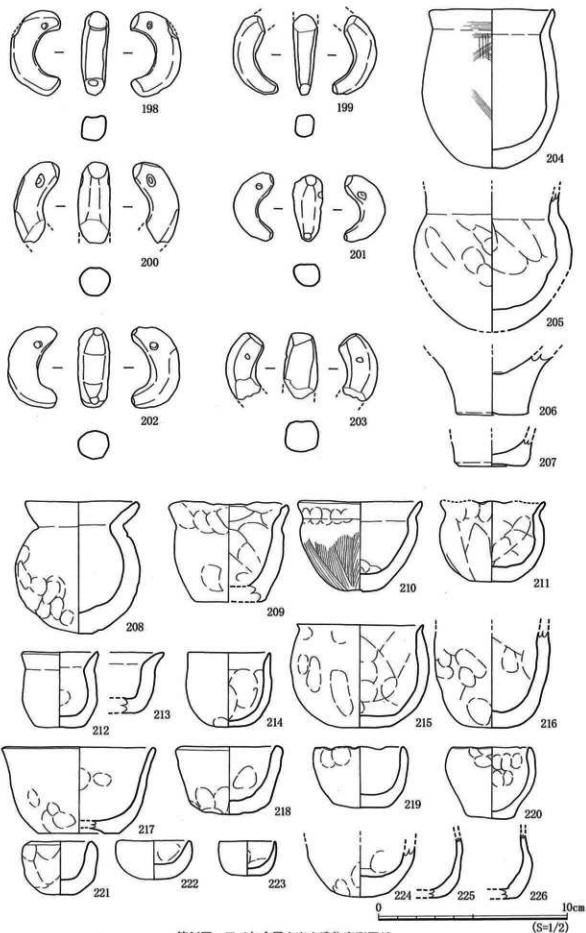
第61図 Ⅲ-1包含層内出土遺物実測図10



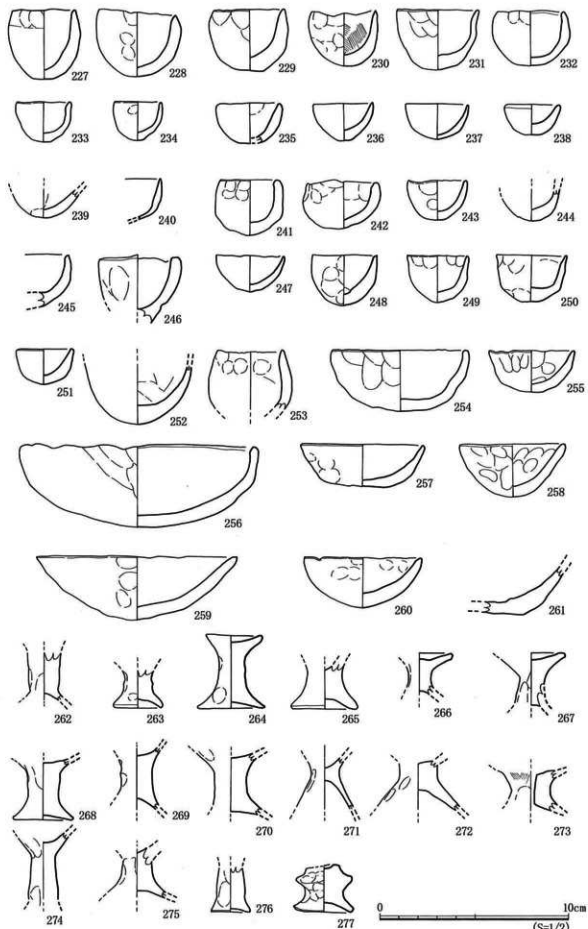
第62圖 Ⅲ-1包含層内出土遺物実測図11



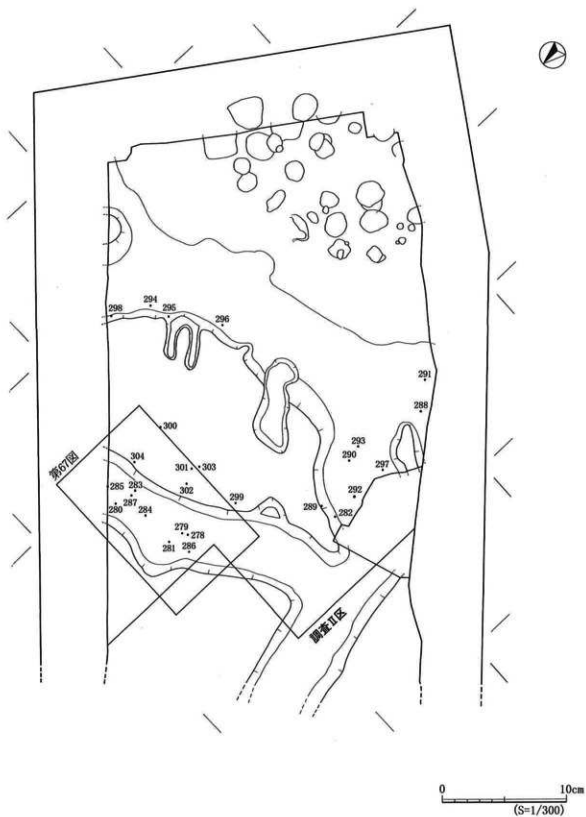
第63圖 III-1包含層內出土遺物實測圖12



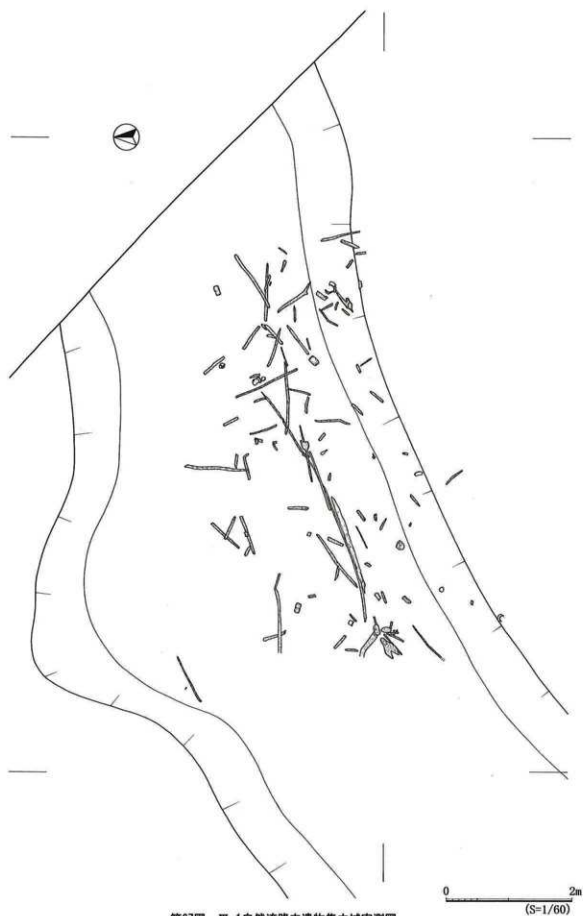
第64図 Ⅲ-1包含層内出土遺物実測図13



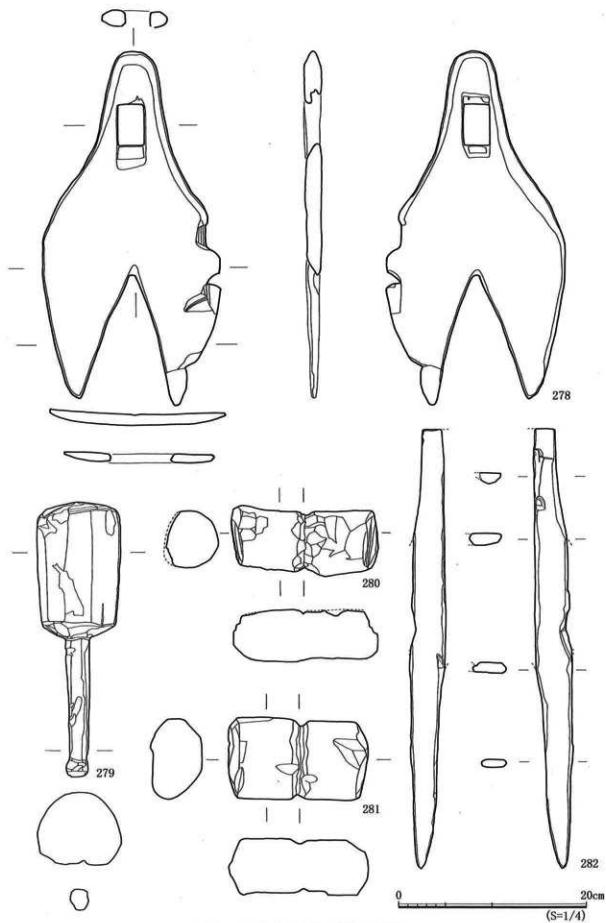
第65圖 Ⅲ-1包含層內出土遺物測圖14



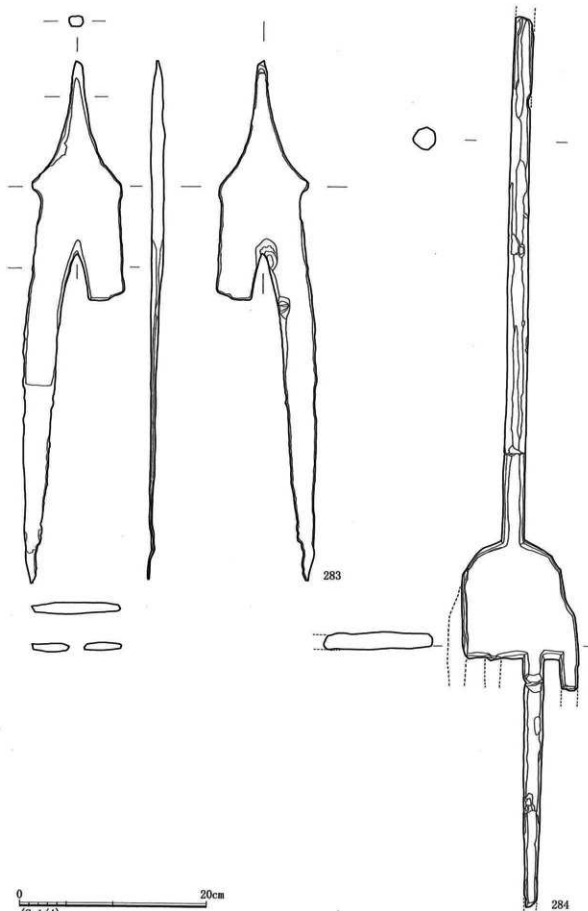
第66図 Ⅲ-1包含層内木製品平面分布図



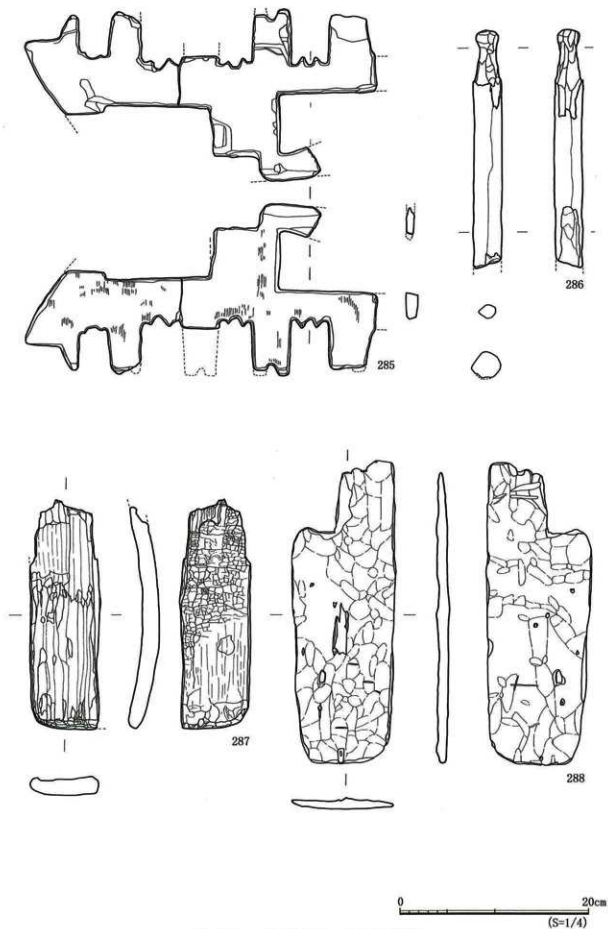
第67図 Ⅲ-1自然流路内遺物集中域実測図



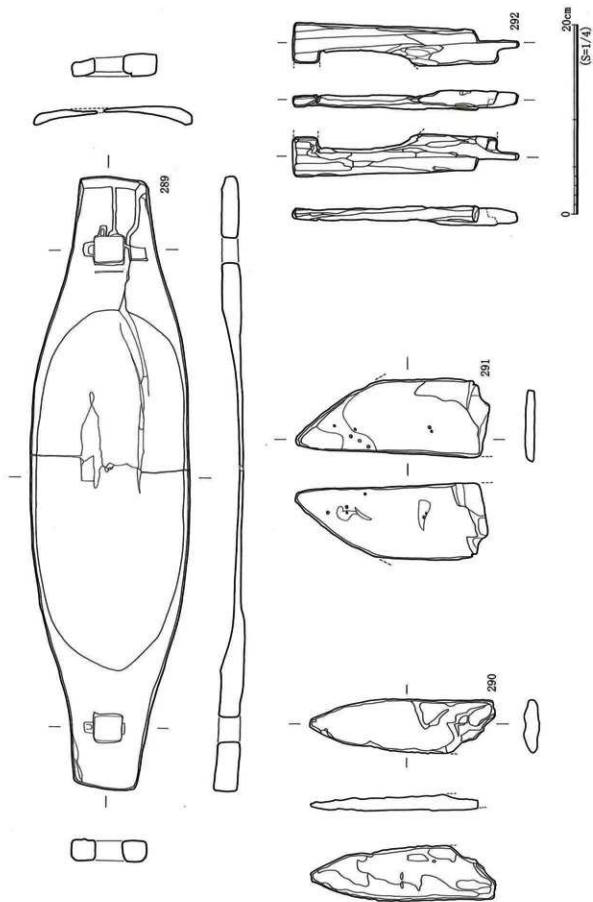
第68図 Ⅲ-1包含層内出土木製品実測図1



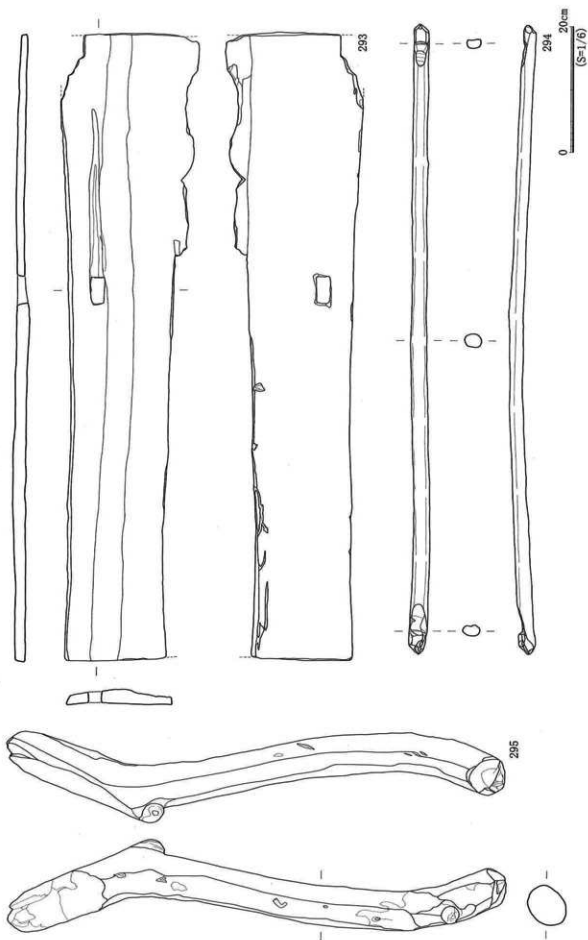
第69図 III-1包含層内出土木製品実測図2



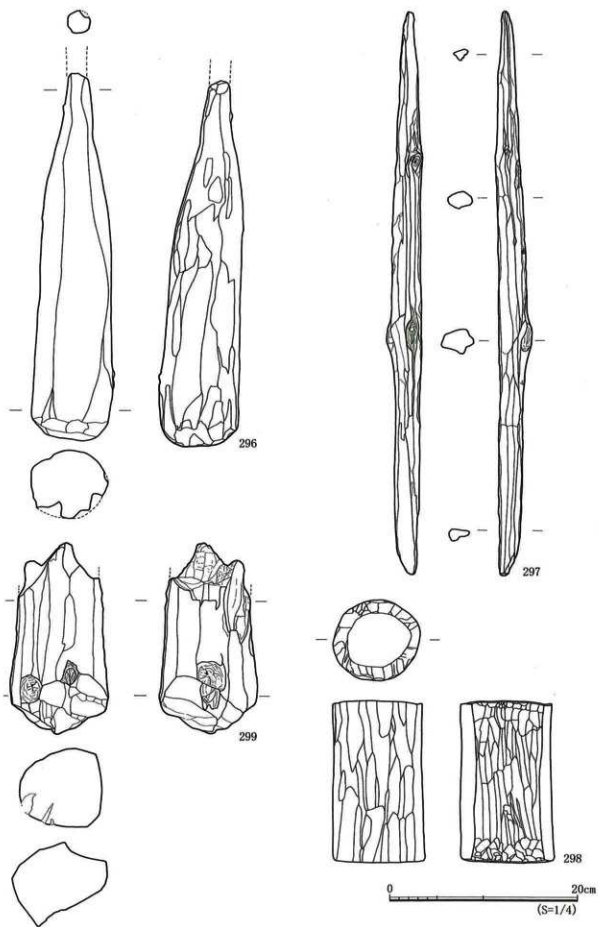
第70圖 Ⅲ-1包含層内出土木製品実測図3



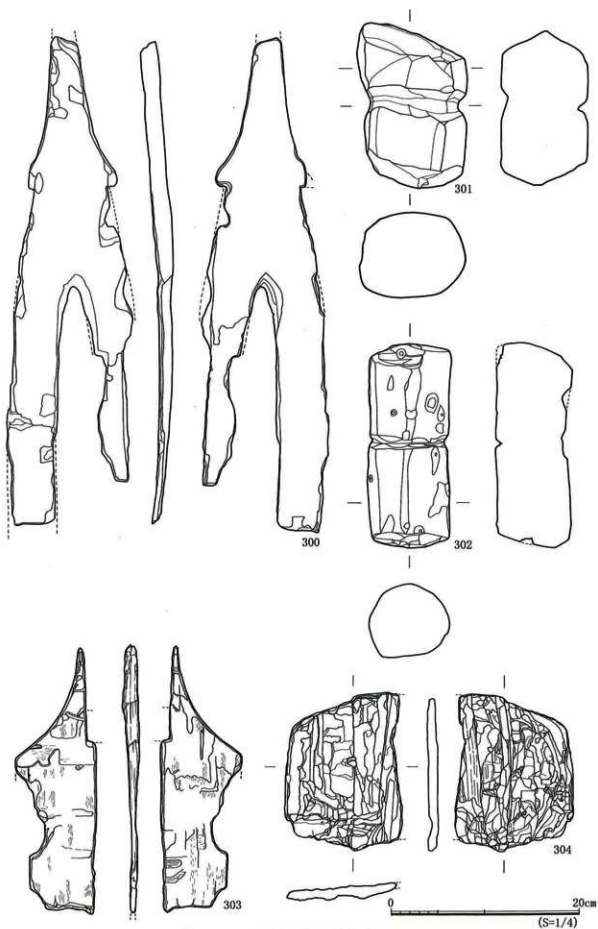
第71図 Ⅲ-1包舎層内出土木製品実測図4



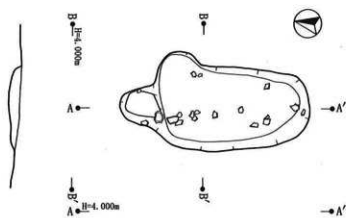
第72図 Ⅲ-1包倉庫内出土木製品実測図5



第73図 III-1包含層内出土木製品実測図6

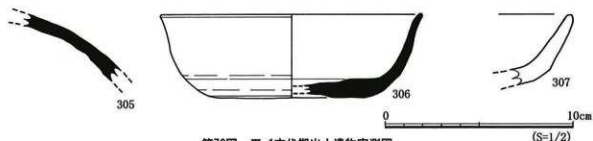


第74図 Ⅲ-1包含層内出土木製品実測図7



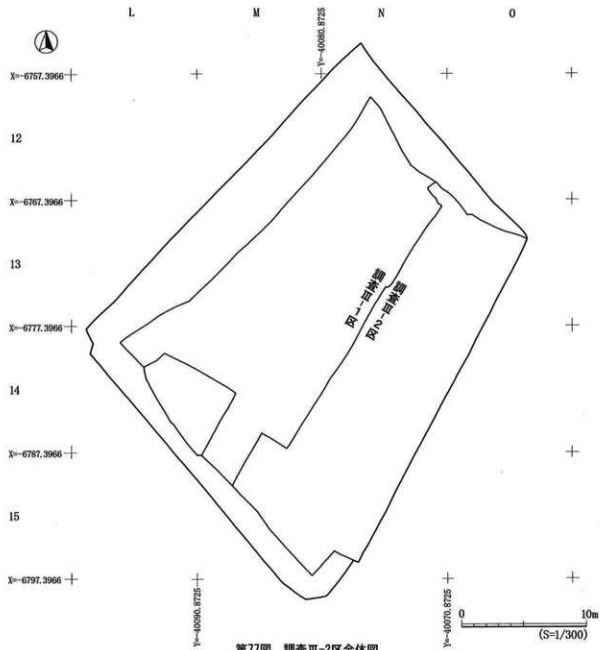
SK-30埋土注記
 暗灰色土 しまりがなく、粘性を有しない。
 褐色土をブロック状に含む。

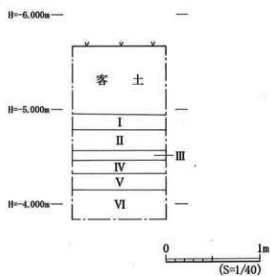
第75図 III-1SK-30実測図



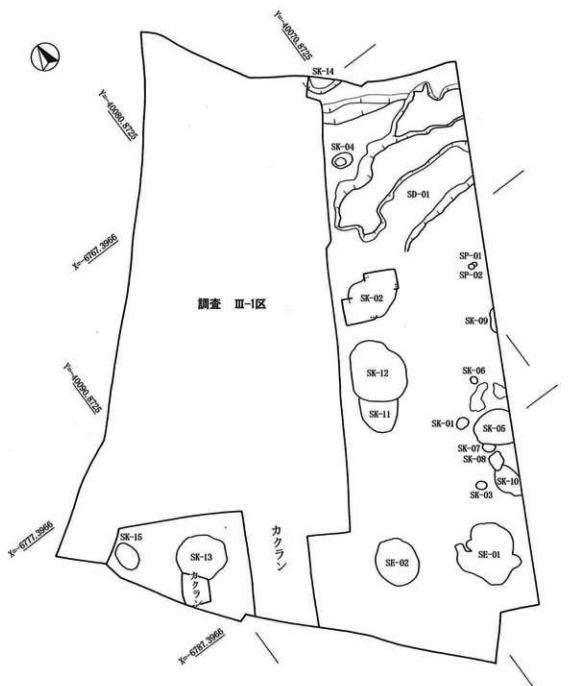
第76図 III-1古代期出土遺物実測図

第2節 調査Ⅲ-2区（平成11年度調査）

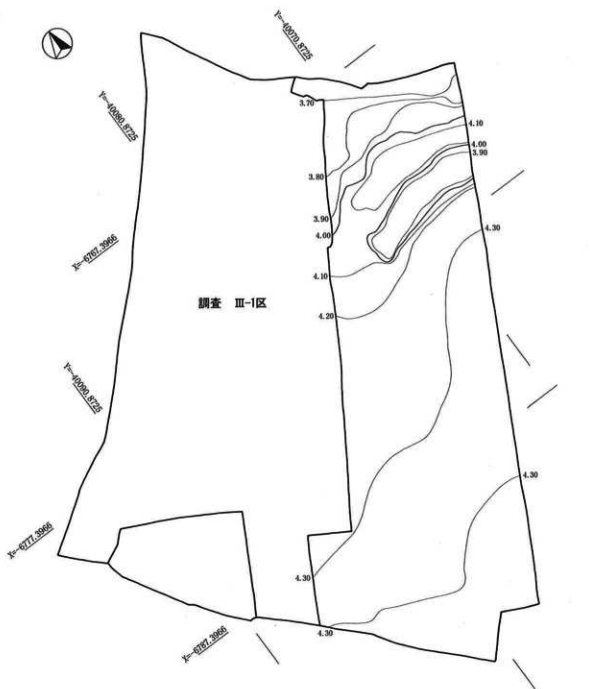




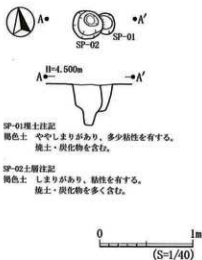
第78図 調査Ⅲ-2区基本土層図



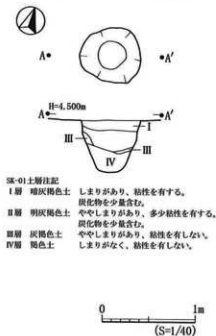
第79図 調査Ⅲ-2区遺構配置図



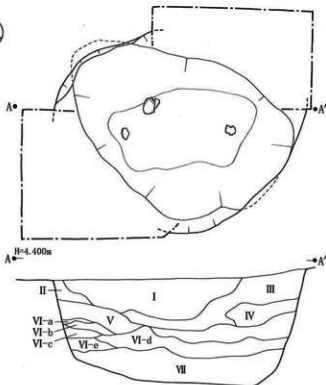
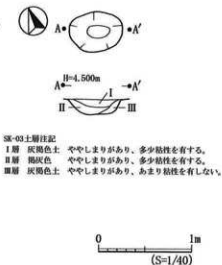
第80図 調査III-2区地形測量図



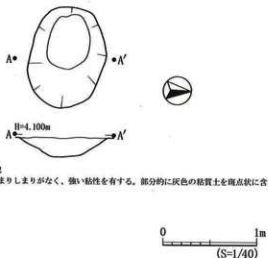
第81図 Ⅲ-2SP-01・02実測図

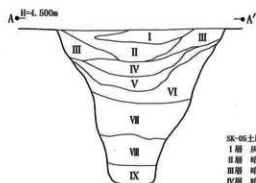
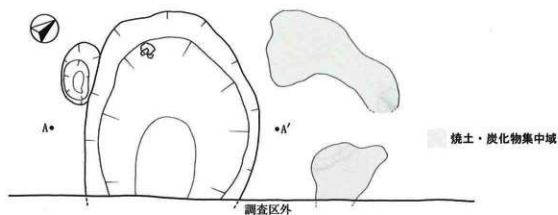


第82図 Ⅲ-2SK-01実測図



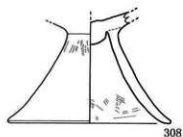
第83図 Ⅲ-2SK-02実測図



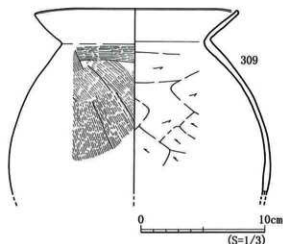


- SK-06土層注記
- I層 灰色土 あまりしまりがなく、強い粘性を有する。白色の粘質土を含む。
 - II層 暗灰色土 あまりしまりがなく、強い粘性を有する。
 - III層 暗灰色土 あまりしまりがなく、粘性を有する。
 - IV層 暗灰色土 あまりしまりがなく、強い粘性を有する。
 - V層 暗灰色土 しまりがなく、強い粘性を有する。
 - VI層 暗灰色土 しまりがなく、強い粘性を有する。V層よりやや暗い。
 - VII層 青灰色土 しまりがあり、粘性を有する。炭化物を少量含む。
 - VIII層 暗青灰色土 しまりがあり、強い粘性を有する。
 - IX層 灰色土 しまりがなく、多少粘性を有する。細かい砂粒を多く含む。

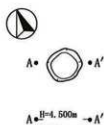
第86図 III-2SK-05・07実測図



第87図 III-2SK-05出土遺物実測図



第88図 III-2SK-07出土遺物実測図

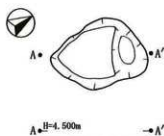


SK-06埋土注記

暗灰褐色土 ややしまりがあり、粘性を有する。
炭化物と雑土を多く含む。

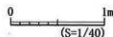


第89図 Ⅲ-2SK-06実測図

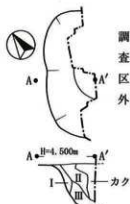


SK-08埋土注記

灰褐色土 しまりがあり、多少粘性を有する。

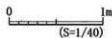


第90図 Ⅲ-2SK-08実測図

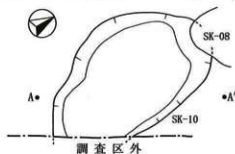


SK-09土層注記

I層 灰褐色土 あまりしまりがなく、粘性を有する。
II層 暗灰褐色土 しまりがなく、強い粘性を有する。
III層 暗灰褐色土 しまりがなく、強い粘性を有する。

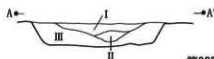


第91図 Ⅲ-2SK-09実測図

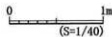


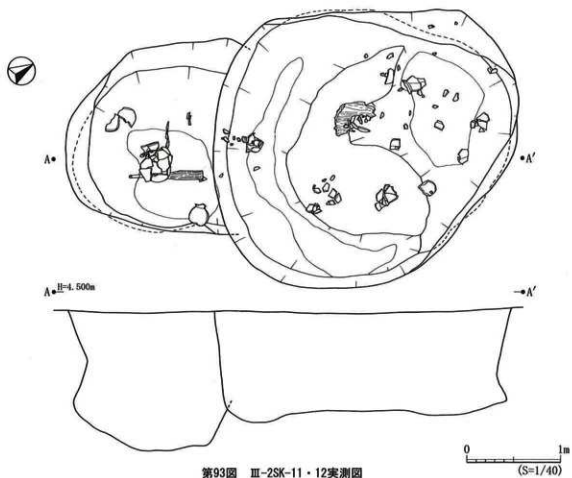
SK-10土層注記

I層 暗灰褐色土 ややしまりがあり、粘性を有する。
II層 灰褐色土 ややしまりがあり、多少粘性を有する。
III層 灰褐色土 ややしまりがあり、多少粘性を有する。

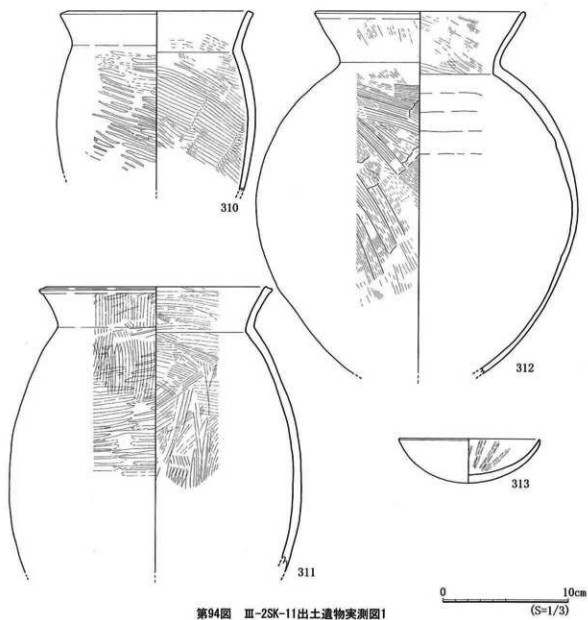


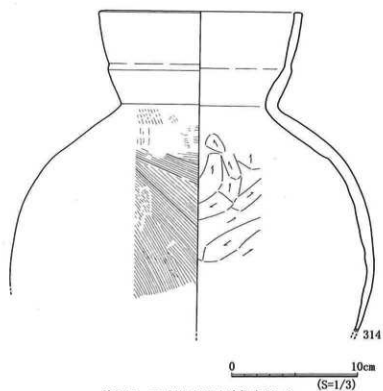
第92図 Ⅲ-2SK-10実測図



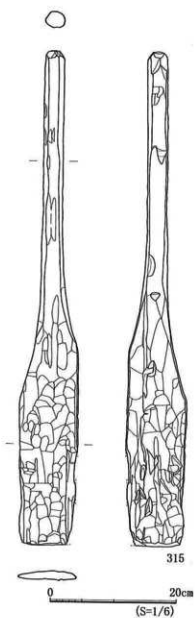


第93図 III-2SK-11・12実測図

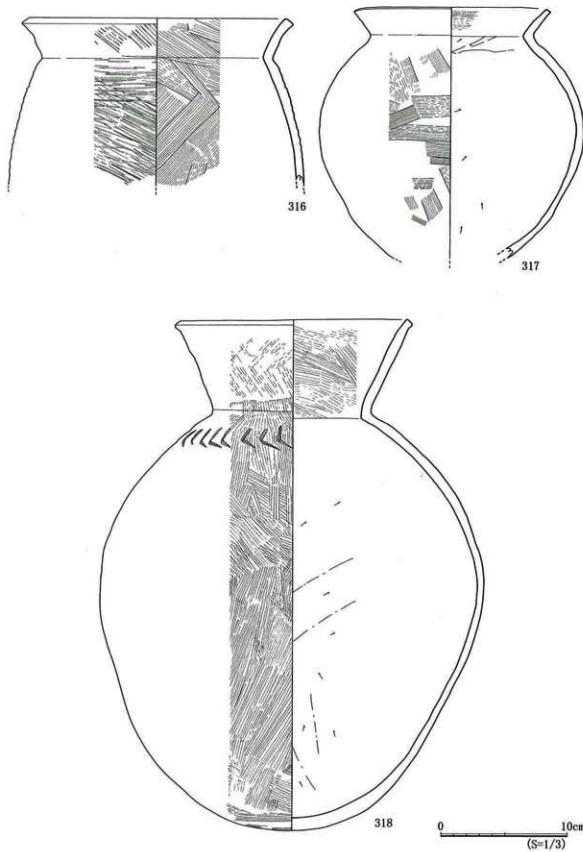




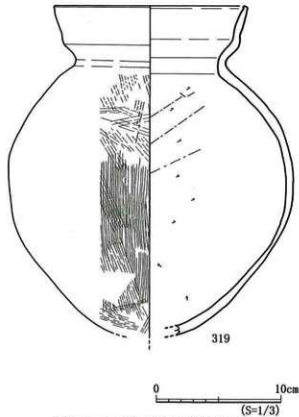
第95図 III-2SK-11出土遺物実測図2



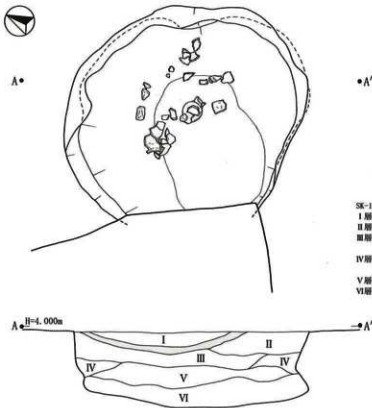
第96図 III-2SK-11出土木製品実測図



第97図 Ⅲ-2SK-12出土遺物実測図1



第98図 Ⅲ-2SK-12出土遺物実測図2



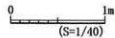
第99図 Ⅲ-2SK-13実測図

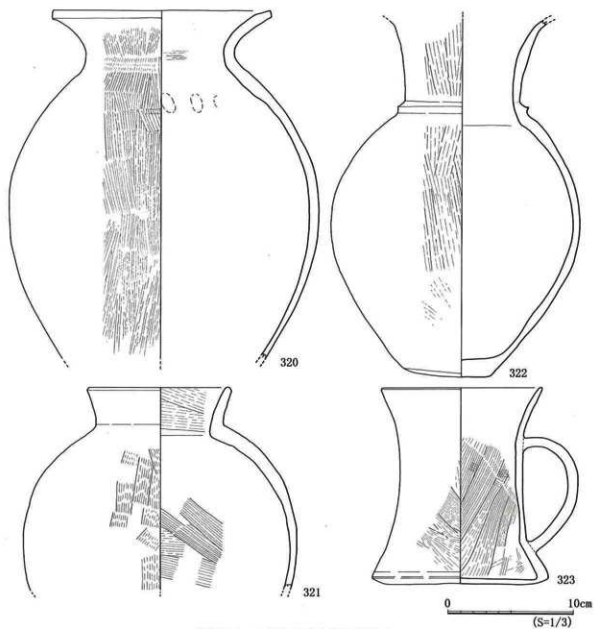
SK-13土層注記

- I層 灰色土
- II層 灰褐色土
- III層 灰褐色土
- IV層 褐色土
- V層 暗褐色土
- VI層 暗灰色土

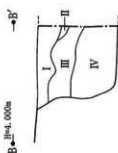
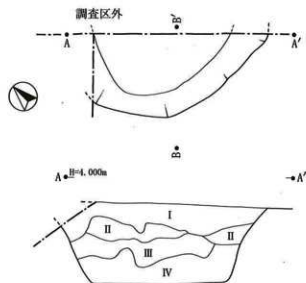
あまりしまりがなく、粘性を有する。
ややしまりがあり、多少粘性を有する。
ややしまりがあり、多少粘性を有する。
II層より粘性が強く、色調がやや暗い。
ややしまりがあり、多少粘性を有する。
部分的に暗灰色の粘質土を含む。
しまりがなく、粘性を有する。
しまりがなく、強い粘性を有する。
白色の粘質土をブロック状に含む。

■ 焼土・炭化物



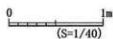


第100図 Ⅲ-2SK-13出土遺物実測図



SK-14土層注記
 I層 暗灰褐色土 ややしまりがあり、多少粘性を有する。
 II層 灰黄褐色土 ややしまりがあり、多少粘性を有する。
 III層 暗褐色土 しまりがあり、粘性を有する。
 IV層 暗褐色土 しまりがあり、強い粘性を有する。

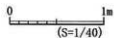
第101図 III-2SK-14実測図

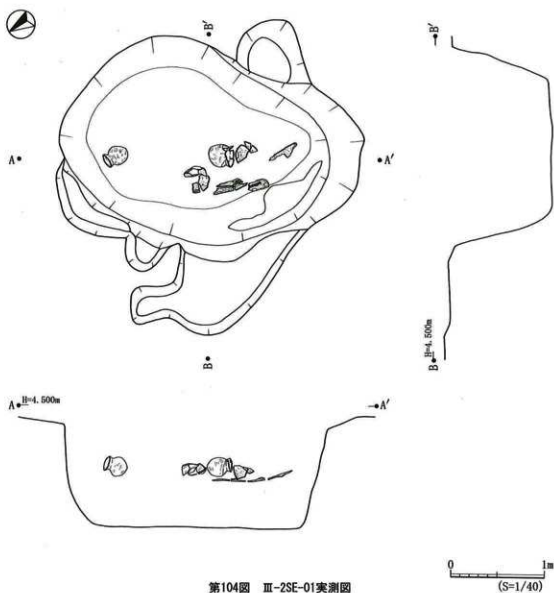


第102図 III-2SK-14出土遺物実測図

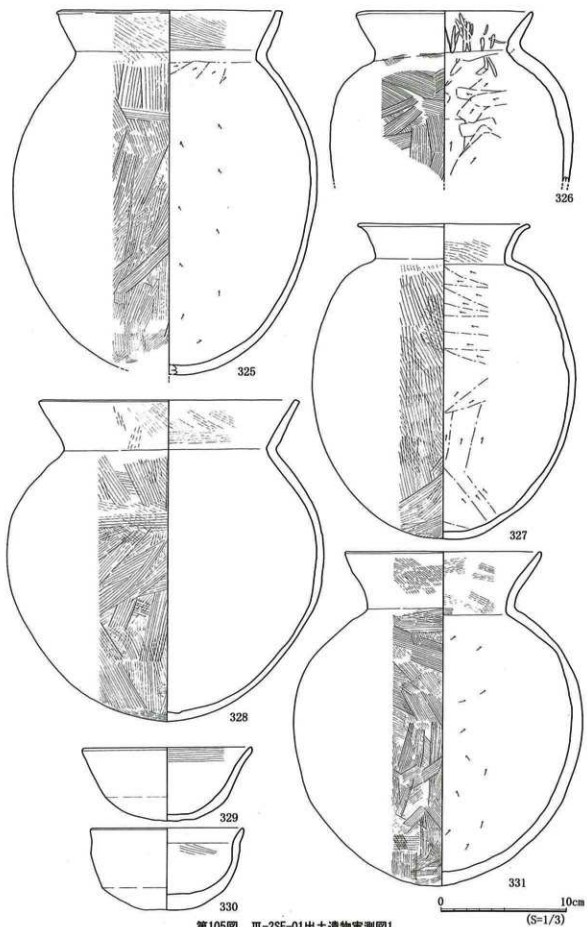
SK-15土層注記
 I層 灰褐色土 ややしまりがあり、多少粘性を有する。
 II層 暗灰褐色土 あまりしまりがなく、粘性を有する。
 III層 暗褐色土 あまりしまりがなく、粘性を有する。II層より色調がやや明るい。
 IV層 暗褐色土 しまりがなく、強い粘性を有する。

第103図 III-2SK-15実測図

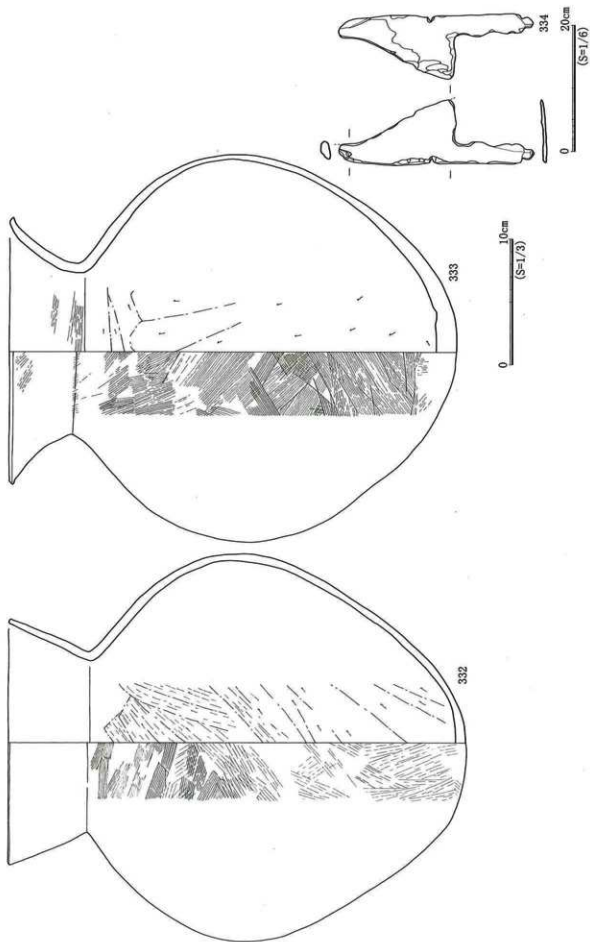




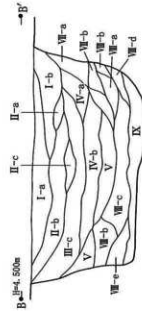
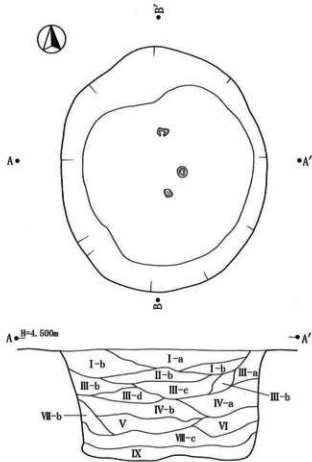
第104図 Ⅲ-2SE-01実測図



第105図 III-2SE-01出土遺物実測図1



第106図 Ⅲ-28E-01出土遺物実測図2

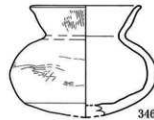
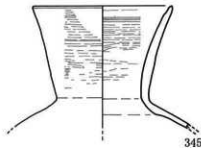


SE-02土層注記

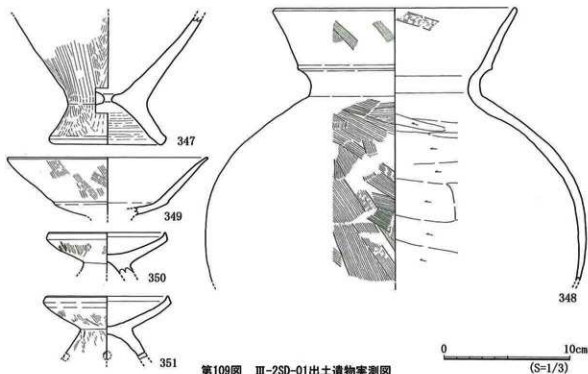
- I-a層 暗褐色土 ややしきりがあり、多少粘性を有する。
- I-b層 暗褐色土 ややしきりがあり、多少粘性を有する。
- II-a層 暗灰色土 あまりしきりがなく、粘性を有する。
- II-b層 暗灰色土 あまりしきりがなく、粘性を有する。II-a層よりやや暗い。
- II-c層 灰褐色土 あまりしきりがなく、粘性を有する。
- III-a層 暗褐色土 ややしきりがあり、粘性を有する。
- III-b層 灰褐色土 あまりしきりがなく、粘性を有する。III-a層より色調がやや明るい。
- III-c層 暗褐色土 ややしきりがあり、粘性を有する。
- III-d層 暗褐色土 あまりしきりがあり、粘性を有する。
- IV-a層 暗褐色土 あまりしきりがなく、粘性を有する。明褐色土をブロック状に含む。
- IV-b層 暗褐色土 あまりしきりがなく、粘性を有する。
- V層 暗灰色土 しきりがなく、粘性を有する。灰色の粘性土をブロック状に含む。

- VI層 暗褐色土 あまりしきりがなく、粘性を有する。
- VII-a層 灰褐色土 あまりしきりがなく、多少粘性を有する。
- VII-b層 灰褐色土 あまりしきりがなく、多少粘性を有する。VII-a層より色調がやや明るい。
- VIII-a層 灰色土 しきりがなく、粘性を有する。
- VIII-b層 灰色土 しきりがなく、強い粘性を有する。
- VIII-c層 暗褐色土 しきりがなく、強い粘性を有する。
- VIII-d層 灰色土 しきりがなく、強い粘性を有する。
- VIII-e層 灰色土 しきりがなく、強い粘性を有する。
- IX層 灰色土 しきりがなく、強い粘性を有する。

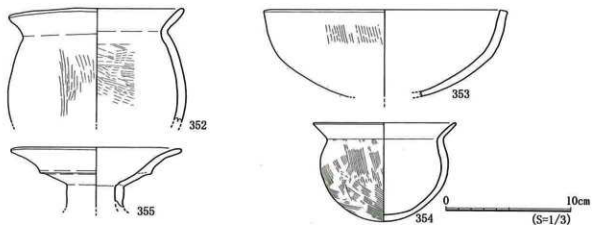
第107図 III-2SE-02実測図



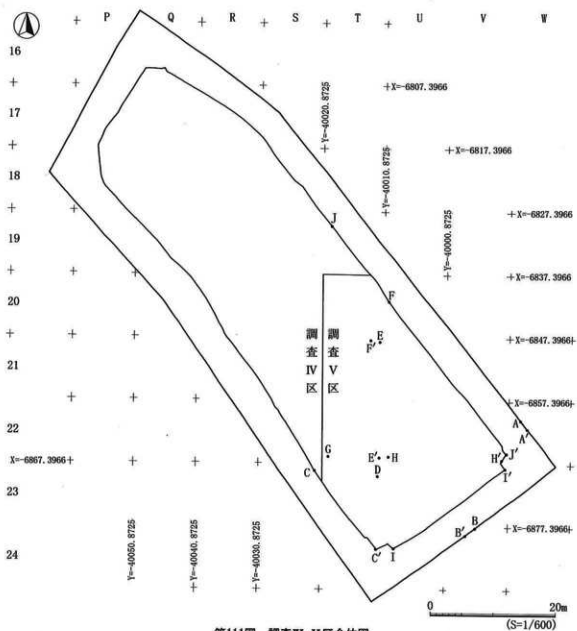
第108図 III-2SE-02出土遺物実測図



第109図 Ⅲ-2SD-01出土遺物実測図

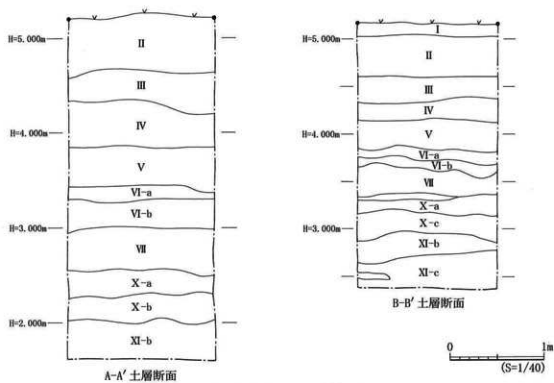


第110図 Ⅲ-2包含層内出土遺物実測図

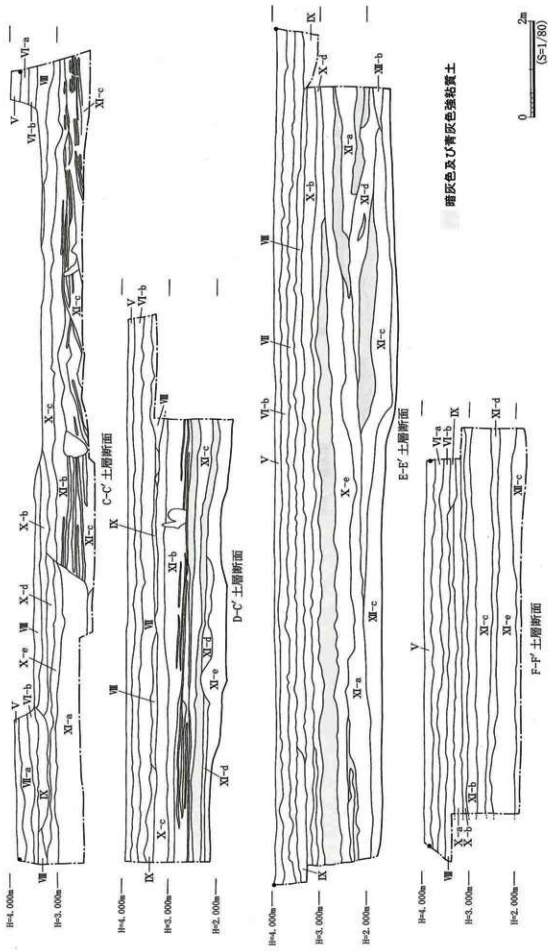


第111図 調査IV・V区全体図

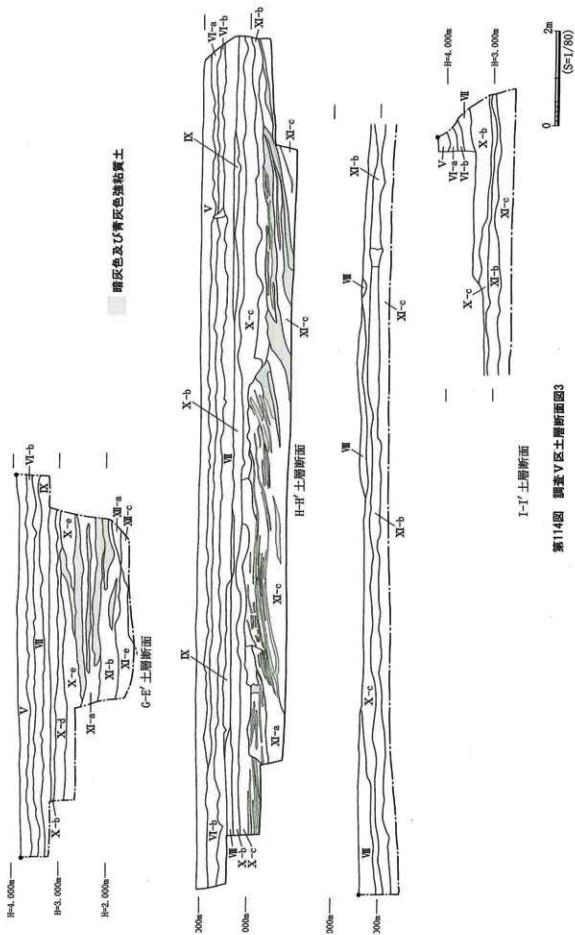
第3節 調査V区（平成8年度調査）

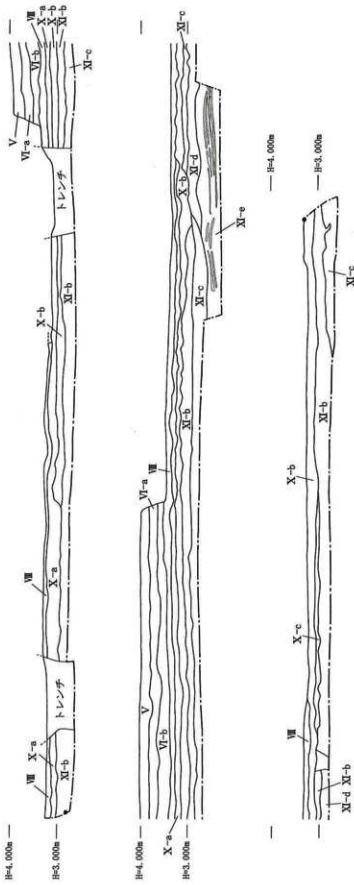


第112図 調査V区土層断面図1



第113図 調査V区土層断面図2

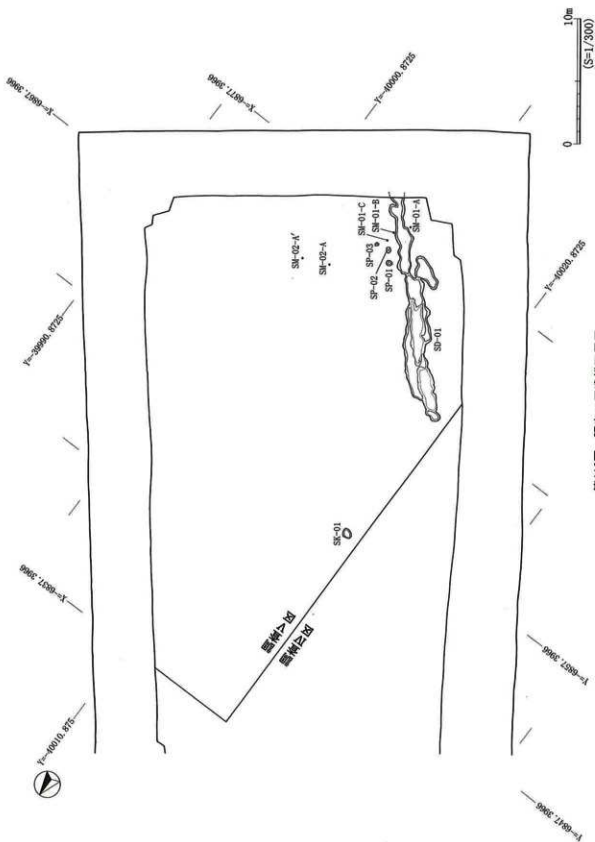




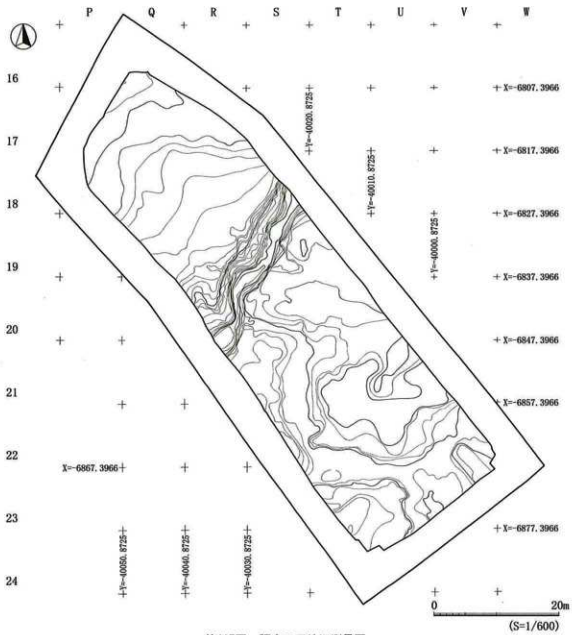
暗灰色及び青灰色強粘質土

J-J' 土層断面

第115図 調査V区土層断面図4

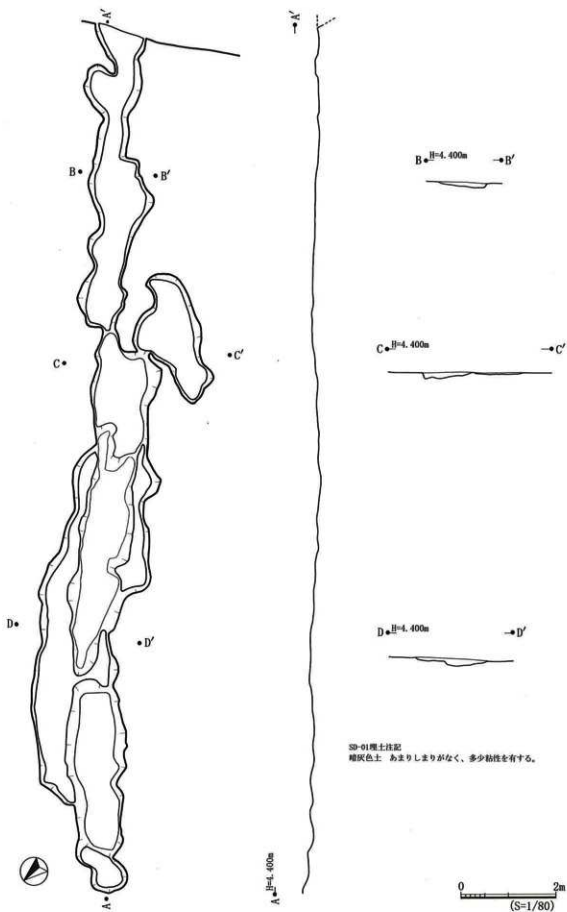


第116図 調査V区境界線位置図

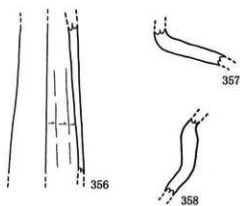


第117図 調査V区地形測量図

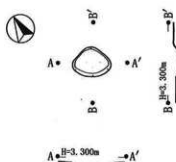
第3節 調査V区 (平成8年度調査)



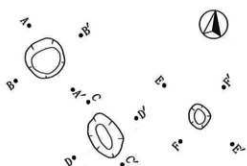
第118図 VSD-01実測図



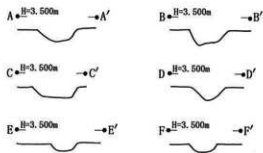
第119図 VSD-01出土遺物実測図 (S=1/2)



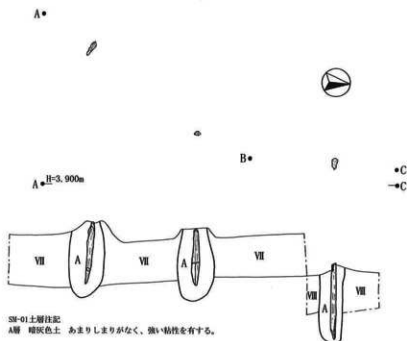
第120図 VSK-01実測図 (S=1/40)



第121図 VSP-01・02・03実測図



0 1m (S=1/40)

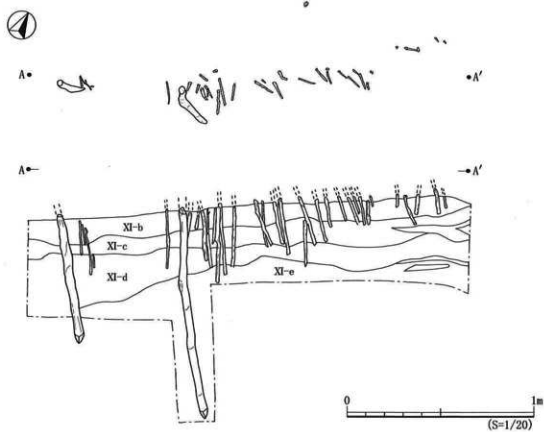


SM-01土層注記

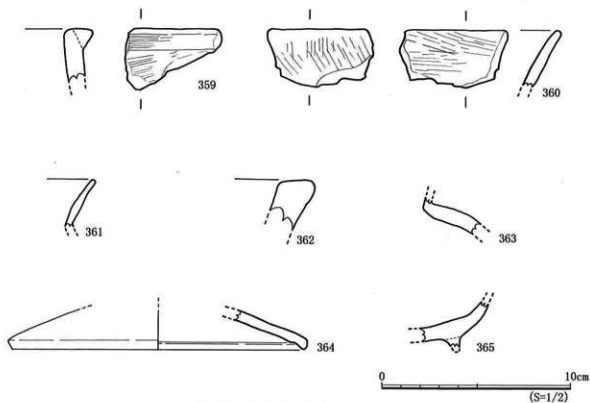
A層 暗灰色土 あまりしまりがなく、強い粘性を有する。

第122図 VSM-01実測図

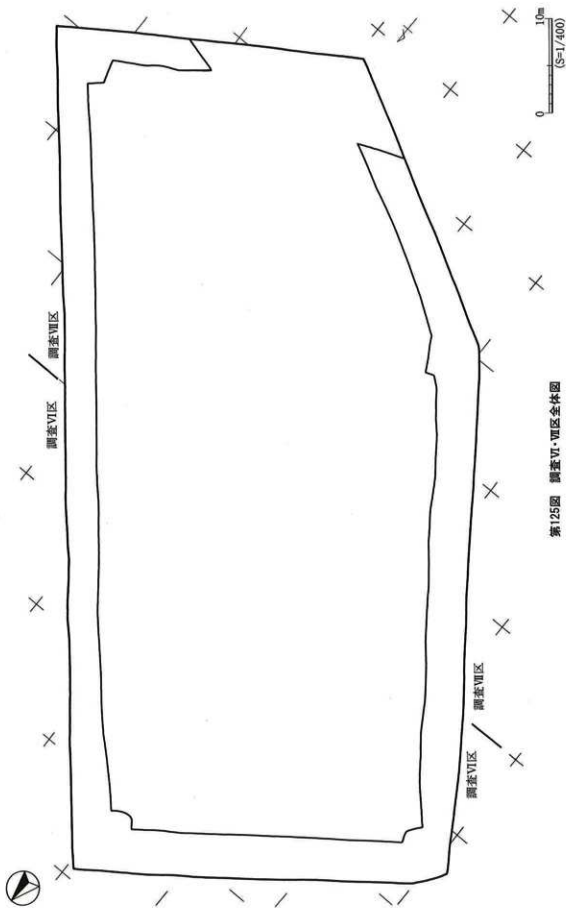
0 1m (S=1/20)



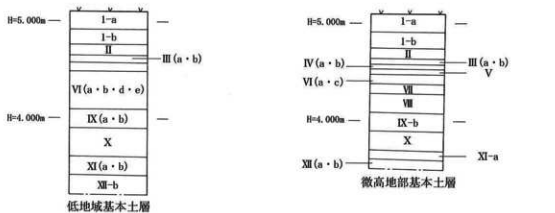
第123図 V SM-02実測図



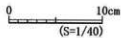
第124図 V包含層内出土遺物実測図

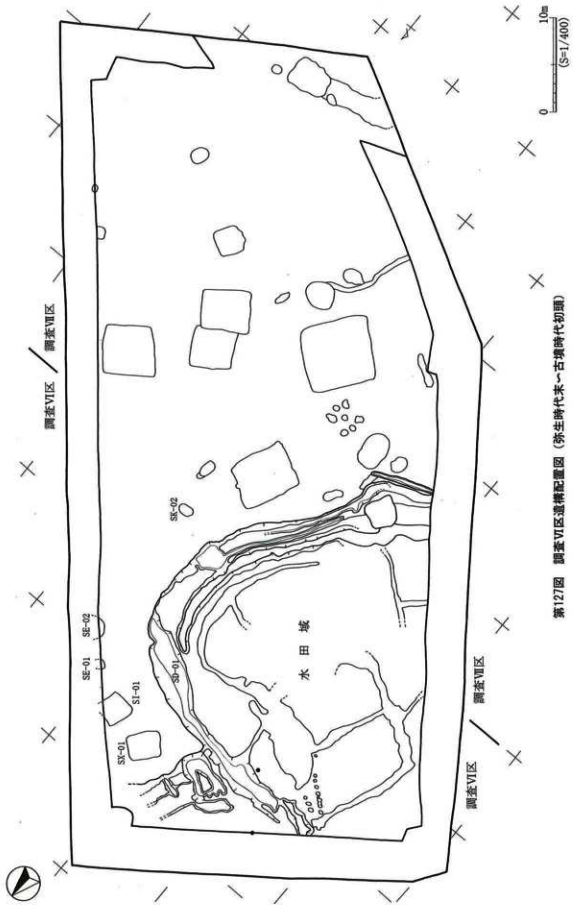


第125図 調査VI・VII区全体図

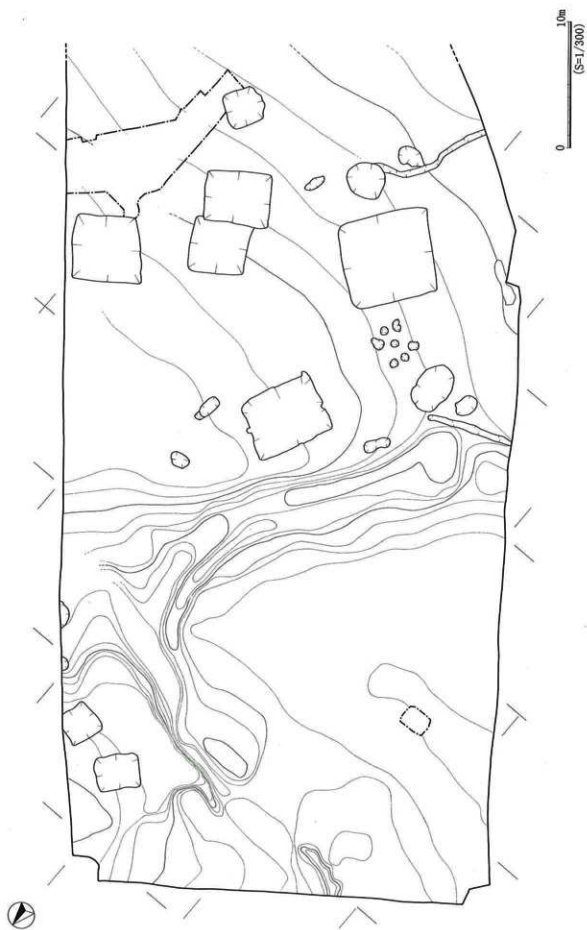


第126図 調査VI区基本土層図

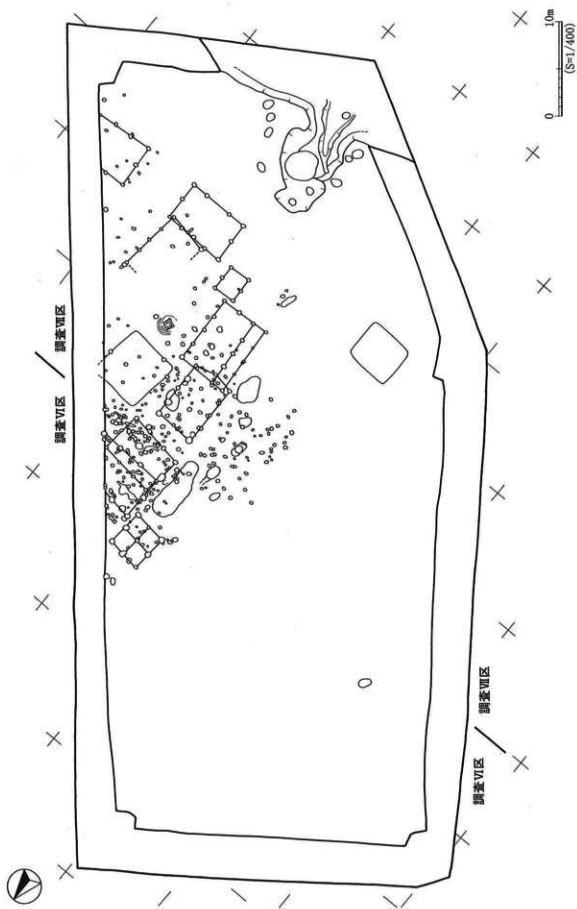




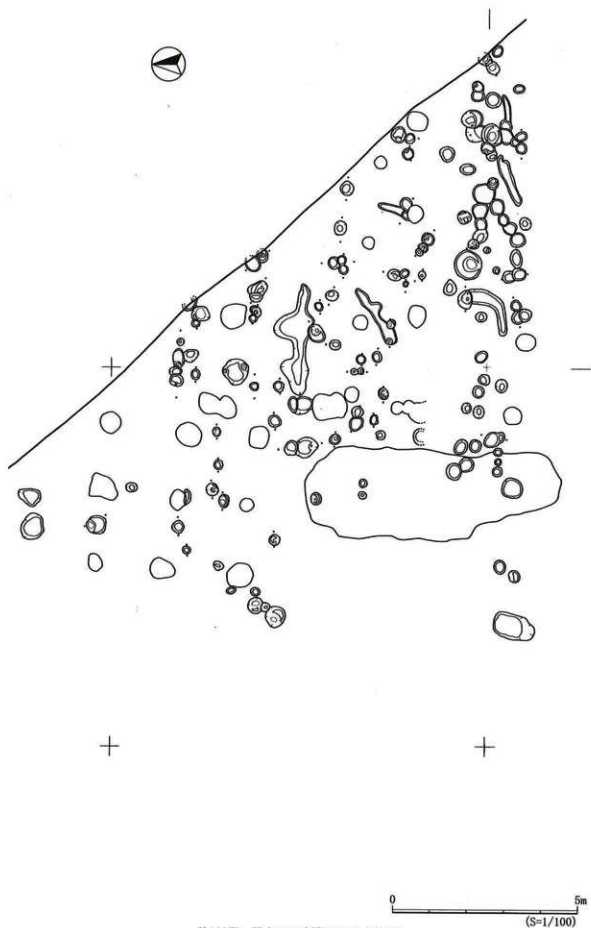
第127図 調査VI区遺構配置圖（弥生時代末～古墳時代初期）



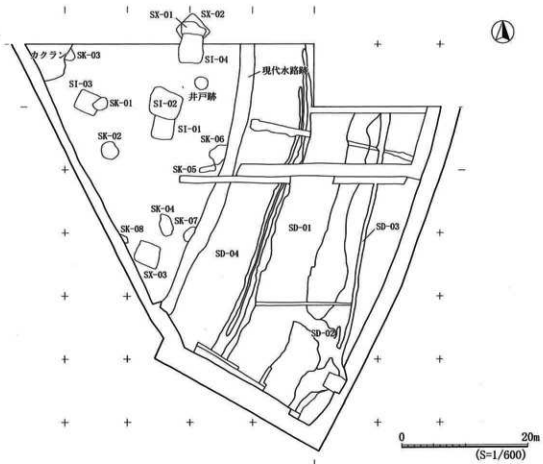
第128図 調査VI区地形測量図 (弥生時代末～古墳時代切頭)



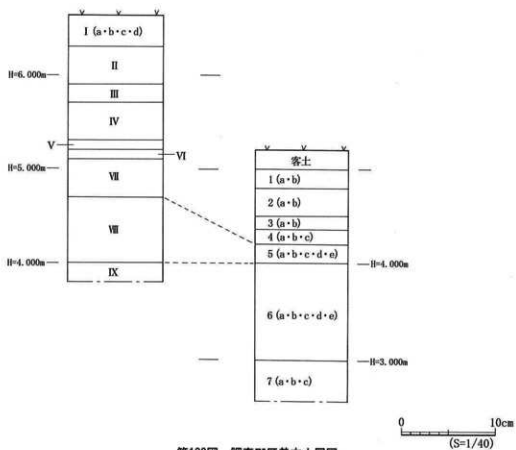
第129図 調査VI・VII区遺構配置図(古代)



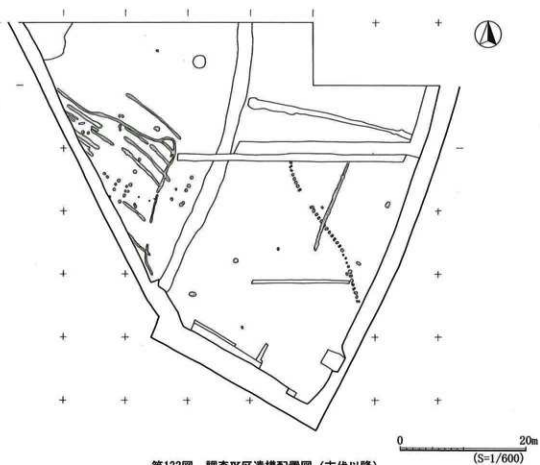
第130図 調査Ⅵ区遺構配置図（古代）



第131図 調査区遺構配置図（弥生時代末～古墳時代初頭）



第132図 調査IX区基本土層図



第133図 調査区遺構配置図（古代以降）

第Ⅳ章 自然科学分析

一般国道208号玉名バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財調査

第IV章 自然科学分析

第1節 自然科学分析の概要

柳町遺跡では、縄文時代晩期から古墳時代前期及び古代期の多くの遺構・遺物が確認されている。

柳町遺跡の弥生時代から古墳時代にかけての地形は、微高地と低地域が散在するような地形であり、微高地上で集落に伴う住居跡、井戸、土坑等が確認され、低地域では、自然流路や杭列等が確認されている。このことから、調査を進める中で、微高地上で集落が営まれ、低地域で水田耕作が実施されていたと想定され、これらの裏付けと、併せて当時の環境復元を目的として調査区内の土壌分析（プラントオパール分析・花粉分析）を実施した。

また、低湿地遺跡であることから、多くの木製品が確認されており、その保存処理の際に併せて樹種同定を実施した。各分析結果については以下の通りである。

第2節 土壌分析

柳町遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

I. 柳町遺跡におけるプラント・オパール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消費を検討することで水田跡（稲作跡）の検証や探査が可能である（藤原・杉山, 1984, 杉山, 2000）。

2. 試料

分析試料は、調査Ⅱ・Ⅲ-I区の土壌サンプル採取地点1と採取地点2から採取された計114点である。試料採取箇所の分析結果を模式柱状図に示す。なお、土層の層名は調査区ごとに設定されたものであり、調査区間の対応関係を示すものではない。

3. 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法（藤原, 1976）を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1gに対し直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（550℃・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による20μm以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： 10^{-5} g）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的に与えることができる（杉山，2000）。

4. 分析結果

水田跡（稲作跡）の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ムギ類（穎の表皮細胞）、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な6分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1～図5に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

5. 考察

(1) 稲作跡の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山，2000）。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

1) 調査Ⅱ・Ⅲ-I区：採取地点1（図1）

Ⅶ層（試料1）からⅩⅣ層（試料9）までの層準について分析を行った（砂層のⅩⅢ層を除く）。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、Ⅶ層（試料3：奈良時代末～平安時代初頭）からⅩⅠa層（試料8：古墳時代初頭）にかけては密度が5,000個/g以上と高い値であり、とくにⅩ層（試料4：古墳時代初頭）とⅩ層（試料7：古墳時代初頭）では10,000個/g以上とかなり高い値である。また、Ⅶ層（試料1）とⅩⅣ層（試料9：砂層直下）でも3,000個/g以上と比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

2) 調査Ⅱ・Ⅲ-I区：採取地点2（図1）

V層（試料1）からⅩⅣ層（試料15）までの層準について分析を行った（砂層のⅩⅢ層を除く）。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、V層（試料1）からⅩⅠa層（試料14：古墳時代初頭）にかけては密度が5,000個/g以上と高い値であり、とくにⅩ層（試料11：古墳時代初頭）では10,000個/g以上とかなり高い値である。また、ⅩⅣ層（試料15：砂層直下）でも3,000個/g以上と比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

3) 調査Ⅵ区：採取地点3（図2）

Ⅵa層（試料1）からⅩⅡb層（試料7）までの層準について分析を行った。その結果、Ⅵa層（試料1）からⅩⅠa層（試料6）までの各層からイネが検出された。このうち、Ⅵa層（試料1：奈良時代末～平安時代初頭）、Ⅵd層（試料3：奈良時代末～平安時代初頭）、Ⅹb層（試料4：奈良時代末～平安時代初頭）では密度が5,000個/g以上と高い値であり、Ⅵb層（試料2：奈良時代末～平安時代初頭）でも3,000個/g以上と比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

Ⅹ層（試料5）とⅩⅠa層（試料6）では、密度が1,000個/g未満と低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

4) 調査VI区：採取地点4 (図2)

VII層(試料1~3)からXIIb層(試料6)までの層準について分析を行った。その結果、VII層(試料1、3)からイネが検出されたが、密度は1,000個/g前後と低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

5) 調査VI区：採取地点5 (図3)

VIIb層(試料1)からXIIb層(試料10)までの層準について分析を行った。その結果、VIIb層(試料1)からXIb層(試料9)までの各層からイネが検出された。このうち、VIIb層(試料1：奈良時代末~平安時代初頭)およびVIe層(試料3)からX Ia層(試料7)にかけては密度が5,000個/g以上と高い値であり、VIId層(試料2：奈良時代末~平安時代初頭)でも3,000個/g以上と比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。XIb層(試料9)では密度が1,000個/g未満と低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

6) 調査VI区：採取地点6 (図3)

VII層(試料1)からXIIb層(試料8)までの層準について分析を行った。その結果、VII層(試料1)からXIb層(試料7)までの各層からイネが検出された。このうち、VIId層(試料2：奈良時代末~平安時代初頭)からX層(試料5)にかけては密度が5,000個/g以上と高い値であり、VIIb層(試料1：奈良時代末~平安時代初頭)とX Ia層(試料6)でも3,000個/g以上と比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。XIb層(試料7)では密度が1,000個/g未満と低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

7) 調査VI区：IXa層検出面 (図3)

IXa層(弥生時代末~古墳時代初頭)の遺構検出面から採取された試料a~fの9試料について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。密度は5,300~7,500個/g(平均6,600個/g)と高い値である。したがって、同検出面では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

8) 調査IX区(低地域)：採取地点7 (図4)

1a層(試料1)から7a層(試料17)までの層準について分析を行った。その結果、1a層(試料1)から5d層(試料10)までの各層からイネが検出された。このうち、1a層(試料1：現耕作土)、1b層(試料2)、4c層(試料9)、5d層(試料10：弥生時代末~古墳時代初頭)では密度が5,000個/g以上と高い値であり、とくに1a層(試料1：現耕作土)と1b層(試料2)では10,000個/g以上とかなり高い値である。また、2a層(試料4)から3b層(試料7)にかけても3,000個/g以上と比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

9) 調査IX区(低地域)：採取地点8 (図4)

1a層(試料1)から7c層(試料17)までの層準について分析を行った。その結果、1a層(試料1)から5a層(試料6)までの各層からイネが検出された。このうち、1a層(試料1：現耕作土)と1b層(試料2)では密度が5,000個/g以上と高い値であり、2a層(試料3)から3a層(試料5)にかけても3,000個/g以上と比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。5a層(試料6：弥生時代末~古墳時代初頭)では密度が1,500個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

10) 調査IX区(微高地域)：採取地点9 (図5)

1a層(試料1)からIX層(試料16)までの層準について分析を行った。その結果、1a層(試料1)からVIII層上部(試料13)までの各層準からイネが検出された。このうち、1a層(試料1：現耕作土)

～Ic層（試料3）、II層（試料5：中世以降）、IV層（試料7：中世以降）、V層（試料9：中世）の各層では密度が5,000個/g以上と高い値であり、とくにIb層（試料2：現耕作土）では10,000個/g以上とかなり高い値である。また、Id層（試料4）、VI層（試料10：古代）、VII層（試料11：弥生時代末～古墳時代初頭）でも3,000個/g以上と比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。VIII層上部（試料13）では密度が1,000個/g未満と低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

(2) イネ科栽培植物の検討

プラント・オパール分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）などがある。このうち、本遺跡の試料からはムギ類とヒエ属型が検出された。以下に各分類群ごとに栽培の可能性について考察する。

1) ムギ類

ムギ類（穎の表皮細胞）は、採取地点7の1a層（試料1）、1b層（試料2）、2a層（試料4）、採取地点8の1a層（試料1）、および採取地点9の1b層（試料2）から検出された。密度は1,000個/g前後と低い値であるが、穎（初穀）が栽培地に残される確率は低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。したがって、各層準の時期に調査地点もしくはその近辺でムギ類が栽培されていた可能性が考えられる。

2) ヒエ属型

ヒエ属型は、採取地点8の6b層（試料10、11）、および採取地点9のVII層（試料12）とVIII層（試料14）から検出された。ヒエ属型には栽培種のヒエの他にイヌビエなどの野生種が含まれるが、現時点では植物珪酸体の形態からこれらを識別することは困難である（杉山ほか、1988）。また、密度も1,000個/g前後と低い値であることから、これらの層準でヒエが栽培されていた可能性は低いと考えられる。

6. まとめ

(1) 調査Ⅱ・Ⅲ-I区（採取地点1、2）

最下位のXIV層（砂層直下）では、イネが比較的多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、XIa層（古墳時代初頭）からVII層（奈良時代末～平安時代初頭）にかけて、およびそれより上位のVIII層からV層にかけても、イネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。

本調査区周辺では、XIV層（古墳時代初頭より以前）の時期には稲作が開始されていたと考えられ、その後もV層に至るまでおおむね継続して稲作が行われていたと推定される。

(2) 調査Ⅵ区（採取地点3～6、IXa層検出面）

水田遺構が検出されたIXa層（弥生時代末～古墳時代初頭）では、すべての試料からイネが多量に検出され、同遺構で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また、それより上位のVIe層からVIa層（奈良時代末～平安時代初頭）にかけても、イネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。さらに、下位のIXb層からXIa層にかけても、イネが部分的に多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。

本調査区周辺では、XIa層（弥生時代末～古墳時代初頭より以前）の時期には、調査区の一部で稲作が開始されていたと考えられ、その後もVIa層（奈良時代末～平安時代初頭）に至るまでおおむね継続して稲作が行われていたと推定される。

(3) 調査区低地域 (採取地点7、8)

5d層 (弥生時代末～古墳時代初頭) では、イネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、その上位の4c層から1a層 (現耕作土) にかけても、イネがおおむね多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、2a層より上位層ではムギ類が栽培されていた可能性も認められた。

本調査区周辺では、5d層 (弥生時代末～古墳時代初頭) の時期には稲作が開始されていたと考えられ、その後も1a層 (現耕作土) に至るまでおおむね継続して稲作が行われていたと推定される。

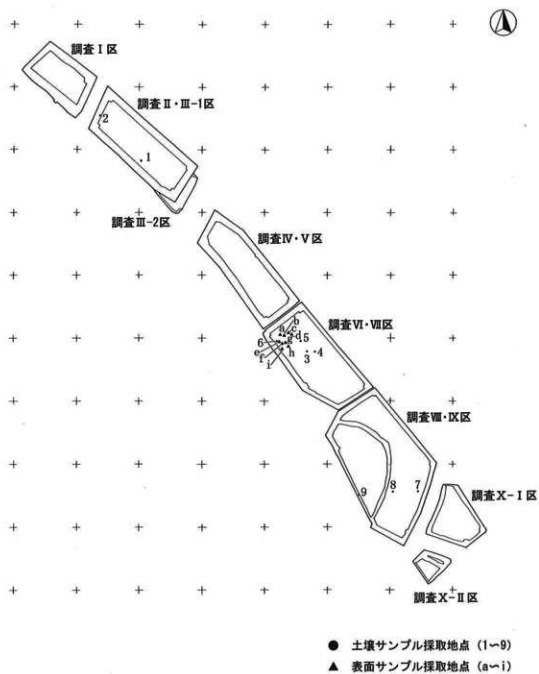
(4) 調査区微高地域 (採取地点9)

VII層 (弥生時代末～古墳時代初頭) では、イネが比較的少量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、VI層 (古代) から1a層 (現耕作土) にかけても、イネがおおむね多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、1b層ではムギ類が栽培されていた可能性も認められた。

本調査区周辺では、VII層 (弥生時代末～古墳時代初頭) の時期には稲作が開始されていたと考えられ、その後も1a層 (現耕作土) に至るまでおおむね継続して稲作が行われていたと推定される。

文献

- 杉山真二 (2000) 植物珪酸体 (プラント・オパール). 考古学と植物学. 同成社, p. 189-213.
- 杉山真二・松田隆二・藤原宏志 (1988) 機動細胞珪酸体の形態によるキビ族植物の同定とその応用—古代農耕追究のための基礎資料として—. 考古学と自然科学, 20, p. 81-92.
- 藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) —数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—. 考古学と自然科学, 9, p. 15-29.
- 藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5) —プラント・オパール分析による水田址の探査—. 考古学と自然科学, 17, p. 73-85.



土壤サンプル採取地点位置図

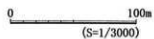


表1 柳町遺跡におけるプラント・オパール分析結果

分類群	土壌サンプル採取地点1								土壌サンプル採取地点2																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
イネ	30	48	53	100	62	61	106	69	45	53	31	61	31	54	54	46	68	61	38	116	62	75	54	38	
ムギ類(穎の表皮細胞)																									
ヒエ属型																									
ヨシ属	7	8	8	23	23	8	37	8	37	8	23	8	23	8	8	8	15	23	8	8	15	8	8	8	
ススキ属型	8	15	15	15	38	15	7	23	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	15	15	8	8	
タケ亜科	68	61	46	23	15	31	38	38	30	30	38	31	15	23	54	8	8	15	15	31	31	8	15	8	15

推定生産量 (単位: kg/㎡・cm) : 試料の乾比重を1.0と仮定して算出

分類群	土壌サンプル採取地点3								土壌サンプル採取地点4								土壌サンプル採取地点5							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
イネ	0.89	1.40	1.56	2.84	1.82	1.80	3.13	2.02	1.32	1.55	0.90	1.81	0.91	1.59	1.58	1.36	1.99	1.79	1.11	3.41	1.82	2.21	1.58	1.12
ヒエ属型																								
ヨシ属	0.43	0.48	1.47	1.45	0.48	2.36	0.48	0.48	0.48	0.48	1.47	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48	0.48
ススキ属型	0.09	0.19	0.19	0.19	0.47	0.19	0.09	0.28	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	
タケ亜科	0.33	0.29	0.22	0.11	0.07	0.15	0.18	0.14	0.14	0.18	0.15	0.07	0.11	0.26	0.04	0.04	0.07	0.07	0.15	0.15	0.15	0.15	0.04	0.07

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	土壌サンプル採取地点3								土壌サンプル採取地点4								土壌サンプル採取地点5							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
イネ	54	37	66	59	8	8	15	15	8	8	8	8	8	8	82	45	78	67	76	60	52	23	7	
ムギ類(穎の表皮細胞)																								
ヒエ属型																								
ヨシ属	11	7	7	7	23	45	7	7	15	8	7	23	7	15	8	8	15	8	15	30	22	8	8	
ススキ属型	7	7	7	7	8	8	15	15	23	8	7	7	7	15	8	8	15	8	15	8	7	8	8	
タケ亜科	43	59	39	66	38	23	7	22	23	8	23	22	30	7	38	23	22	8	8	37	8	37	22	

推定生産量 (単位: kg/㎡・cm) : 試料の乾比重を1.0と仮定して算出

分類群	土壌サンプル採取地点3								土壌サンプル採取地点4								土壌サンプル採取地点5							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
イネ	1.59	1.09	1.93	1.74	0.22	0.22	0.43	0.22	0.22	0.22	0.47	0.47	0.47	0.47	1.53	1.32	2.28	1.97	2.22	1.77	1.53	0.67	0.22	
ヒエ属型																								
ヨシ属	0.65	0.65	0.65	0.65	1.44	2.87	0.47	0.46	0.95	0.47	0.47	1.44	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	0.47	
ススキ属型	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.19	0.18	0.28	0.09	0.09	0.09	0.09	0.18	0.09	0.10	0.18	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	
タケ亜科	0.21	0.28	0.19	0.32	0.18	0.11	0.04	0.11	0.11	0.04	0.11	0.11	0.11	0.15	0.04	0.18	0.11	0.11	0.04	0.18	0.04	0.18	0.18	

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	土壌サンプル採取地点 6										VICINIA 樹検出園									
		1	2	3	4	5	6	7	8	a	b	c	d	e	f	g	h	i			
イネ	<i>Oryza sativa</i>	38	68	75	75	53	30	15	67	61	60	75	68	69	75	69	53				
▲ギ属(頭の表皮細胞)	<i>Hordeum-Triticum</i>																				
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type																				
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	23	8	15	15	37	15	7	8	7	7	8	8	15	15						
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	8	8				7	8	8	30	8	8	8	8	8						
タケ属科	Bambusoideae	23	8	8	15	23	8	37	7	15	8	7	15	8	15	8	8				

推定生産量 (単位: kg/nf・cm) : 試料の乾比重を1.0と仮定して算出

イネ	<i>Oryza sativa</i>	1.11	2.01	2.21	2.22	1.55	0.89	0.44	1.98	1.78	1.76	2.20	1.99	2.03	2.21	2.02	1.55
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type																
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	1.42	0.48	0.95	0.95	2.36	0.94	0.47	0.48	0.47	0.47	0.48	0.47	0.97	0.95		
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.09	0.09				0.09	0.09	0.09	0.37				0.09			
タケ属科	Bambusoideae	0.11	0.04	0.04	0.07	0.11	0.04	0.18	0.04	0.07	0.04	0.04	0.07	0.04	0.07	0.04	0.04

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	学名	土壌サンプル採取地点 7										土壌サンプル採取地点 7									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17			
イネ	<i>Oryza sativa</i>	121	112	22	37	45	30	38	23	53	52										
▲ギ属(頭の表皮細胞)	<i>Hordeum-Triticum</i>	7	15																		
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type																				
ヨシ属	<i>Phragmites</i>					8	8	8	8	7	8										
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	7	7	15			8	8	23												
タケ属科	Bambusoideae	7	15	60	15	38	23	30	15	8	7	23	22	30	68	60	68	38			

推定生産量 (単位: kg/nf・cm) : 試料の乾比重を1.0と仮定して算出

イネ	<i>Oryza sativa</i>	3.56	3.30	0.66	1.10	1.33	0.89	1.11	0.67	1.55	1.54							
ヒエ属型	<i>Echinochloa</i> type																	
ヨシ属	<i>Phragmites</i>					0.47	0.48	0.48	0.47	0.48					0.48	1.91	0.48	
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.09	0.09	0.19			0.09	0.09	0.28									
タケ属科	Bambusoideae	0.03	0.07	0.29	0.07	0.18	0.11	0.14	0.07	0.04	0.04	0.11	0.11	0.14	0.33	0.29	0.33	0.18

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	地点・試料																
	土壌サンプル採取地点 8																
学名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
イネ	60	52	45	37	45	15											
▲キリン(葉の表皮細胞)	7																
▲ヒメ風型												8	15				
▲シ風							8	8	8	8	8	15	8	22	8		
▲ススキ風型							22	22	15	8	8						
タケ亜科	30	112	75	134	15	22	60	23	30	15	8	45	8	53	22	23	38

検定生産量 (単位: kg/m²-cm) : 試料の仮比重を1.0と仮定して算出

分類群	地点・試料																
	土壌サンプル採取地点 9																
学名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
イネ	1.76	1.54	1.33	1.10	1.33	0.44											
▲ヒメ風型																	
▲シ風							0.47	0.47				0.63	1.26				
▲ススキ風型							0.28	0.19	0.09			0.95	0.47	1.42	0.48		
タケ亜科	0.14	0.54	0.36	0.65	0.07	0.11	0.29	0.11	0.14	0.07	0.04	0.22	0.04	0.25	0.11	0.11	0.18

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	地点・試料																
	土壌サンプル採取地点 9																
学名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
イネ	98	105	90	38	82	15	60	38	53	30	30	23	8				
▲キリン(葉の表皮細胞)	7																
▲ヒメ風型																	
▲シ風							8	8	8	7	8	8	7	8	8	8	7
▲ススキ風型							8	15	7	8	8	15	15	15	23	23	
タケ亜科	30	37	25	38	45	45	37	53	30	38	60	38	15	15	30		

検定生産量 (単位: kg/m²-cm) : 試料の仮比重を1.0と仮定して算出

分類群	地点・試料																
	土壌サンプル採取地点 9																
学名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
イネ	2.87	3.08	2.66	1.11	2.43	0.44	1.75	1.11	1.55	0.88	0.88	0.67	0.22				
▲ヒメ風型																	
▲シ風							0.48	0.48	0.47	0.47	0.48	0.47	0.47	0.48	0.48	0.47	0.47
▲ススキ風型							0.09	0.19	0.19	0.09	0.09	0.09	0.19	0.19	0.19	0.28	0.28
タケ亜科	0.14	0.18	0.11	0.18	0.22	0.22	0.18	0.25	0.14	0.18	0.25	0.18	0.07	0.07	0.07	0.14	

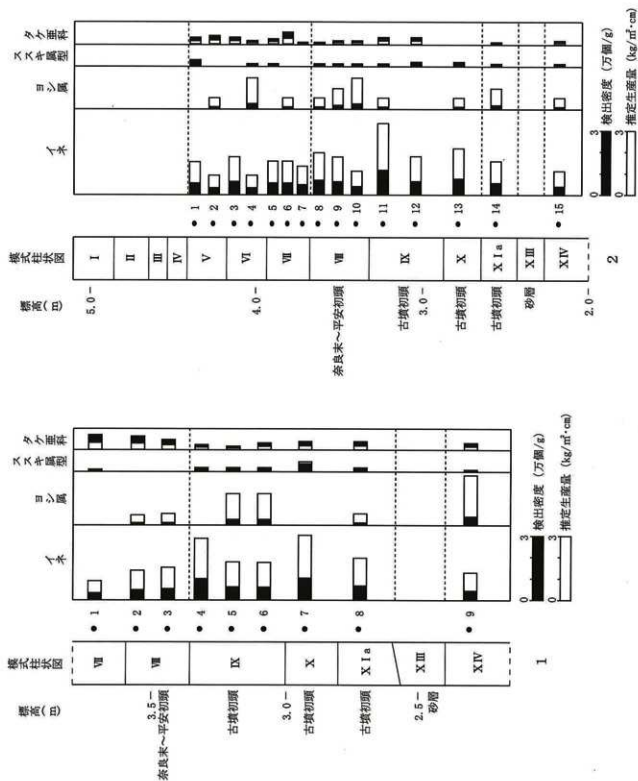


図1 柳町遺跡：調査Ⅱ・Ⅲ-I区におけるプラント・オパール分析結果

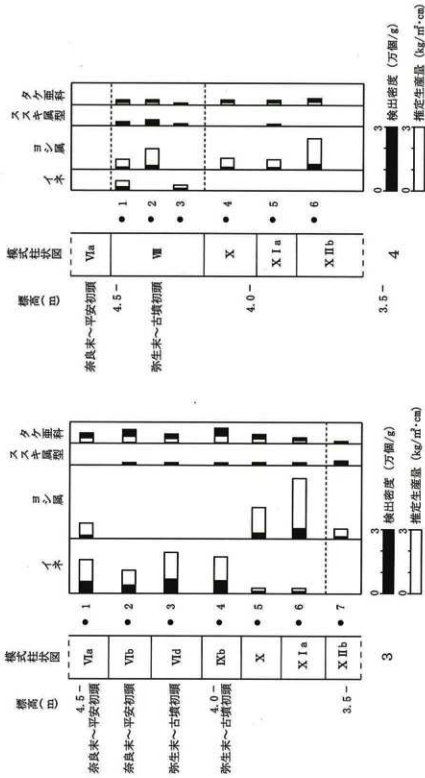


図2 柳町遺跡：調査VI区におけるプラント・オパール分析結果

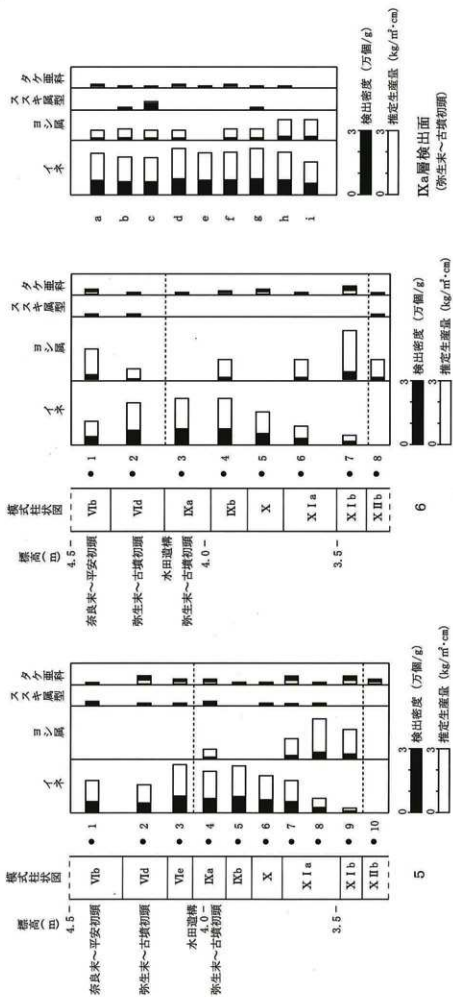


図3 柳町遺跡：調査VI区におけるプラント・オパール分析結果

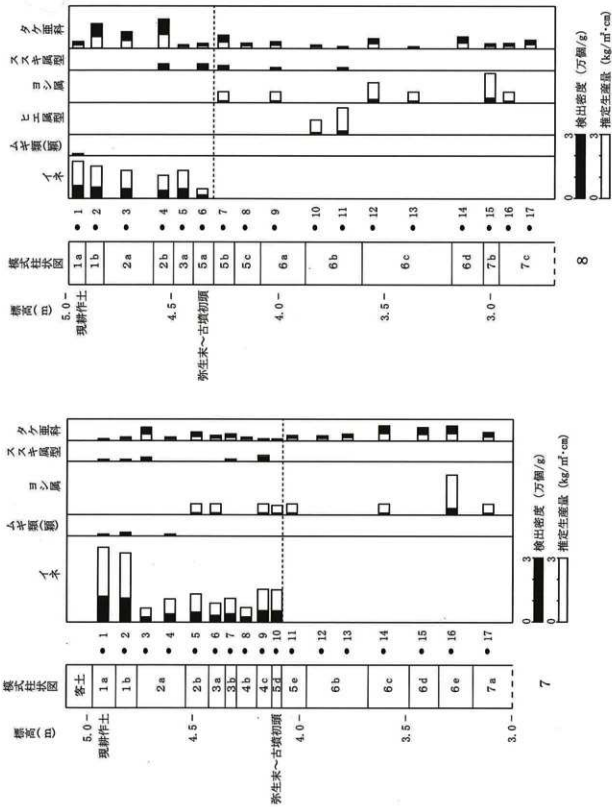


図4 柳町遺跡：調査Ⅸ区（低地域）におけるプラント・オパール分析結果

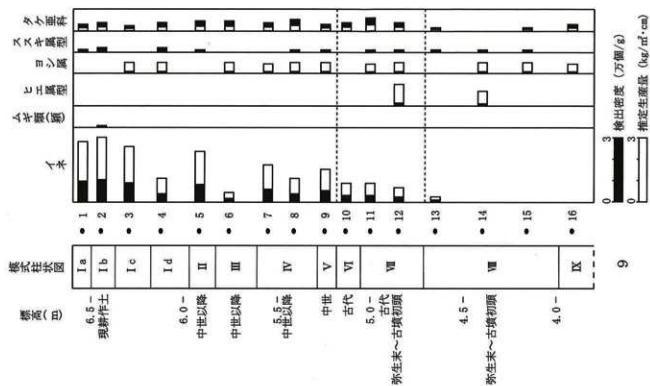
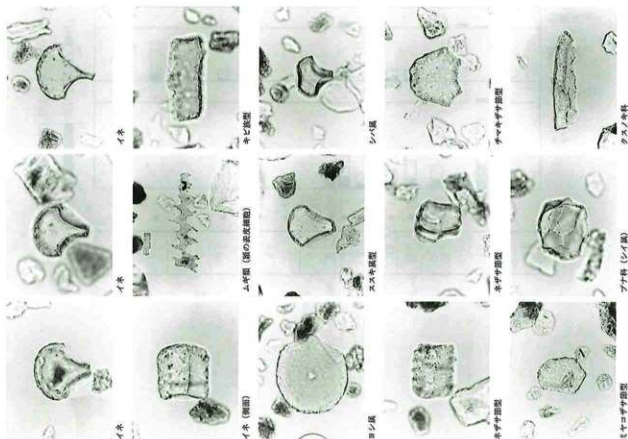


図5 柳町遺跡：調査IX区（微高地域）におけるプラント・オパール分析結果

柳町遺跡の植物花粉標本 (プラント・オパール)



II. 柳町遺跡における花粉分析

1. はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

2. 試料

試料は、調査Ⅱ・Ⅲ-I区の土壌サンプル採取地点2から採取された8点である。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。

3. 方法

花粉の分離抽出は、中村(1973)の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 試料から1cm³を秤量
- 2) 0.5%リン酸三ナトリウム(12水)溶液を加えて15分間湯煎
- 3) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- 4) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- 5) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す
- 6) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- 7) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成

8) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。花粉の同定は、島倉(1973)および中村(1980)をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示した。イネ属については、中村(1974, 1977)を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

4. 結果

(1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉29、樹木花粉と草本花粉を含むもの3、草本花粉26、シダ植物孢子3形態の計61である。分析結果を表1に示し、花粉数が100個以上計数された試料については花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。以下に出現した分類群を示す。

〔樹木花粉〕

モミ属、ツガ属、マツ属復維管束亜属、スギ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ヤマモモ属、クルミ属、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属-アサダ、クリ-シイ属-アデバシイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、アカメガシワ、サンショウ属、モチノキ属、トチノキ、ブドウ属、ツバキ属、グミ属、ミズキ属、モクセイ科、ツツジ科、ニワトコ属-ガマズミ属、マンサク科

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科-イラクサ科、バラ科、ウコギ科

〔草本花粉〕

ガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、アカザ科-ヒユ科、ナデシコ科、キンボウグ属、アブラナ科、ノブドウ、ヒシ属、セリ科、アサザ属、ナス科、オミナエシ科、ゴキヅル、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

〔シダ植物孢子〕

単条溝孢子、ミズワラビ、三条溝孢子

(2) 花粉の検出状況 (図1)

下位のXIV層では、樹木花粉の占める割合が草本花粉より高い。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属、クリ-シイ属-マテバシイ属が優勢で、マツ属複雑管束亜属などが伴われる。草本花粉では、イネ科(イネ属型を含む)が比較的多く、ヨモギ属、カヤツリグサ科、ガマ属-ミクリ属、ミズアオイ属などが伴われる。

X層(古墳時代初頭)からVII層(奈良時代末~平安時代初頭)にかけては、草本花粉の占める割合が樹木花粉よりやや高い。草本花粉では、イネ科(イネ属型を含む)が優勢で、カヤツリグサ科、ヨモギ属、ガマ属-ミクリ属、オモダカ属、ミズアオイ属などが伴われる。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属、クリ-シイ属-マテバシイ属が優勢で、マツ属複雑管束亜属などが伴われる。VII層からV層にかけても、おおむね同様の結果である。

5. 花粉分析から推定される植生と環境

下位のXIV層の堆積当時は、イネ科、カヤツリグサ科、ガマ属-ミクリ属、ミズアオイ属などの水生植物が生育する湿地的な環境であったと考えられ、調査地点もしくはその周辺では水田稲作が行われていたと推定される。また、遺跡周辺にはカシ類(コナラ属アカガシ亜属)やシイ類(クリ-シイ属-マテバシイ属)などの照葉樹林が分布していたと考えられ、部分的にマツ属なども見られたと推定される。

古墳時代初頭のX層から奈良時代末~平安時代初頭のVII層にかけては、継続的に水田稲作が行われていたと考えられ、周囲にはカヤツリグサ科、ミズアオイ属、オモダカ属、ガマ属-ミクリ属などの水生植物が生育していたと推定される。また、遺跡周辺にはカシ類やシイ類などの照葉樹林が分布していたと考えられ、部分的にマツ属なども見られたと推定される。VII層からV層にかけても、おおむね同様の状況であったと考えられる。

文献

金原正明(1993)花粉分析法による古環境復原. 新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p. 248-262.

島倉巳三郎(1973)日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.

中村純(1973)花粉分析. 古今書院, p. 82-110.

中村純(1974)イネ科花粉について、とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として. 第四紀研究, 13, p. 187-193.

中村純(1977)稲作とイネ花粉. 考古学と自然科学, 第10号, p. 21-30.

中村純(1980)日本産花粉の標徴. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.

表1 柳町遺跡における花粉分析結果

学名	分類群	土壌サンプル採取地点2							
		2	4	5	6	9	12	13	15
Arboreal pollen	樹木花粉								
<i>Abies</i>	モミ属	1	6	1	2	1	7	2	4
<i>Tsuga</i>	ツガ属	3	1	1	1	3	2	3	2
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属	5	8	9	6	8	10	10	11
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ	3	2	6	1	1	2	2	1
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	3	2		1	1		1	
<i>Myrica</i>	ヤマモモ属	1	1				1		
<i>Juglans</i>	クルミ属	1	1				1	1	1
<i>Alnus</i>	ハンノキ属				1		1		2
<i>Betula</i>	カバノキ属			3	3	1	3	3	
<i>Corylus</i>	ハシバミ属			1		1			
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ	1	2	1	1	3	1	1	4
<i>Castanea crenata-Castanopsis-Pasania</i>	クリ-シイ属-マデバシイ属	66	36	77	41	49	73	84	104
<i>Fagus</i>	ブナ属			1	1	4			
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	22	8	11	11	9	14	16	19
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	93	85	157	99	127	110	131	121
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ		1	1	1	1	1		5
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ			1	1	2	4		6
<i>Maliotus japonicus</i>	アケメダシワ								1
<i>Zanthoxylum</i>	サンショウ属				1				
<i>Ilex</i>	モチノキ属	1	1						
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ						1		
<i>Vitis</i>	ブドウ属	1	1						
<i>Camellia</i>	ツバキ属				1				
<i>Elaeagnus</i>	グミ属								1
<i>Cornus</i>	ミズキ属			1			1		
Oleaceae	モクセイ科								
Ericaceae	ツツジ科				1	1			
<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニフト科属-ガマズミ属	1							6
Hamameridaceae	マンサク科						3		
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉								
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	1		2	1	3	7	5	6
Rosaceae	バラ科				1				
Araliaceae	ウコギ科							1	
Nonarboreal pollen	草本花粉								
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属	4	5	5	2	2	2	8	7
<i>Alisma</i>	サジオモダカ属				1				
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属		3	2	5	2	6	4	
Gramineae	イネ科	97	157	127	145	127	140	131	41
<i>Oryza type</i>	イネ属型	27	48	24	34	77	57	38	2
Cyperaceae	カヤツリグサ科	23	22	29	24	13	24	27	7
<i>Ancilema keisak</i>	イボクサ				2				
<i>Monochoria</i>	ミズアオイ属	1	1	2	3	6	6	4	1
<i>Polygonum sect.</i>	タデ属				1				
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節		2	1		1	1	2	1
<i>Rumex</i>	ギンギン属					1	1	1	
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科			1	1			1	4
Caryophyllaceae	ナデシコ科	1					1		
<i>Ranunculus</i>	キンボウゲ属					1			
Cruciferae	アブラナ科	4	2	2			1	1	1
<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ					1			
<i>Trapa</i>	ヒシ属		1						
Umbelliferae	セリ科	2	3	2		2	2	3	1
<i>Nymphaoides</i>	アサザ属			1					
Solanaceae	ナス科					1		1	
Valerianaceae	オミナエシ科	1							
<i>Actinostemma lobatum</i>	ゴキツル						1		
Lactuoidae	タンポポ属科	1	1		3	2	2	1	
Asteroidae	キク属科	1		2	1		3		
<i>Xanthium</i>	オナモミ属				1	1			
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	12	10	10	5	4	11	10	26
Fern spore	シダ植物胞子								
Monolate type spore	単条溝胞子	16	6	8	8	6	9	7	11
<i>Celaopteris</i>	ミズワラビ			1					
Trilate type spore	三條溝胞子	11	6	8	4	4	5	7	3
Arboreal pollen	樹木花粉	197	153	275	174	212	235	254	288
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	1	0	2	2	3	7	6	6
Nonarboreal pollen	草本花粉	174	255	208	228	241	258	232	91
Total pollen	花粉総数	372	408	485	404	456	500	492	385
Unknown pollen	未同定花粉	3	2	5	2	3	2	2	2
Fern spore	シダ植物胞子	27	12	17	12	10	14	14	14
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

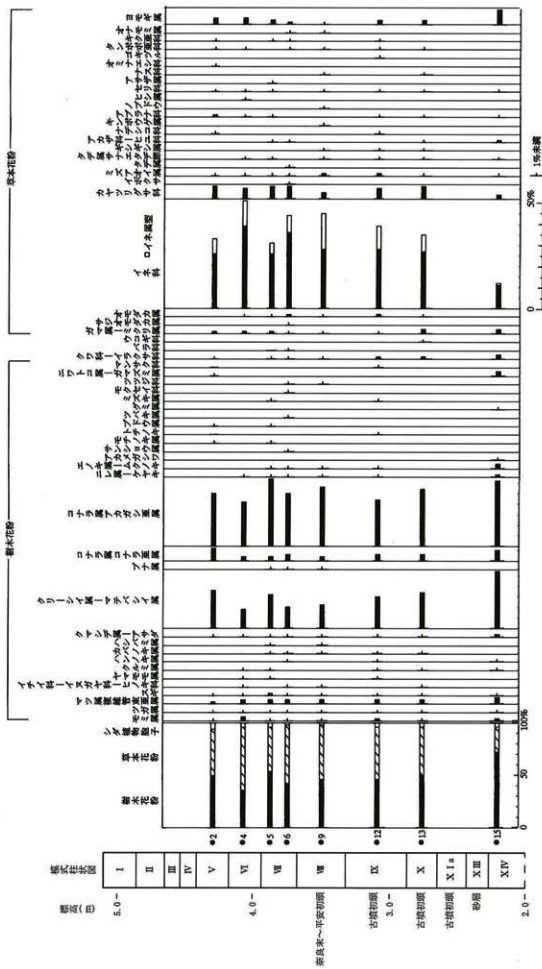


図1 柳町遺跡 土壌サンプル採取地点2における花粉分析結果

Ⅲ. 柳町遺跡における寄生虫卵分析

1. はじめに

人や動物などに寄生する寄生虫の卵殻は、花粉と同様の条件下で堆積物中に残存しており、人の居住域では寄生虫卵による汚染度が高くなる。寄生虫卵分析を用いて、トイレ遺構の確認や人糞施肥の有無の確認が可能であり、寄生虫卵の種類から、摂取された食物の種類や、そこに生息していた動物種を推定することも可能である。

2. 試料

試料は、調査Ⅲ区SK-12内から採取された堆積物である。

3. 分析法

寄生虫卵の分離抽出は、微化石分析法を基本にして、以下の手順で行った。

- 1) サンプルを採量
- 2) 脱イオン水を加えて攪拌
- 3) 篩別および沈澱法により大きな砂粒や木片等を除去
- 4) 25%フッ化水素酸を加えて30分静置（2～3度混和）
- 5) 遠心分離（1500rpm、2分間）による水洗の後にサンプルを2分割
- 6) 片方にアセトリシス処理を施す
- 7) 両方のサンプルを染色後、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 8) 検鏡・計数

4. 結果および考察

分析の結果、土坑内の堆積物では、寄生虫卵や明らかな食物残渣は検出されなかった（表1）。花粉もあまり検出されないことから、乾燥もしくは乾湿を繰り返す堆積環境下で、これらの有機物が分解されたことが想定されるが、寄生虫卵については当初から含まれていなかった可能性も考えられる。

文献

Peter J. Warnock and Karl J. Reinhard (1992) Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils. *Journal of Archaeological Science*, 19, p. 231-245.

金子清俊・谷口博一 (1987) 線形動物・扁形動物. 医動物学. 新版臨床検査講座, 8, 医歯薬出版, p. 9-55.

金原正明・金原正子 (1992) 花粉分析および寄生虫. 藤原京跡の便所遺構—藤原京7条1坊一. 奈良国立文化財研究所, p. 14-15.

金原正明 (1999) 寄生虫. 考古学と動物学. 考古学と自然科学, 2, 同成社, p. 151-158.

金原正明 (2004) 寄生虫卵分析. 環境考古学ハンドブック, 朝倉書店, p. 419-429.

表1 柳町遺跡における寄生虫卵分析結果

分類群		土 坑
学名	和名	
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)
	明らかな消化残渣	(-)
Arboreal pollen	樹木花粉	
<i>Castanea crenata</i> - <i>Castanopsis-Pasania</i>	クリ・シイ属・マテバシイ属	2
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	2
Nonarboreal pollen	草本花粉	
Gramineae	イネ科	2
Cyperaceae	カヤツリグサ科	2
Cruciferae	アブラナ科	1
Asteroidaeae	キク亜科	1
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	1
Fern spore	シダ植物胞子	
Monolate type spore	単条溝胞子	3
Trilate type spore	三条溝胞子	1
Arboreal pollen	樹木花粉	4
Nonarboreal pollen	草本花粉	7
Total pollen	花粉総数	11
	* (1cc中に算定)	61
Unknown pollen	未同定花粉	0
Fern spore	シダ植物胞子	4

第3節 木製品樹種同定

1. 柳町遺跡出土木製短甲の樹種

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

熊本県では、これまでに高橋南貝塚、国分僧寺跡などで出土した木製品などの樹種同定が行われ、その用材選択に関する資料が得られている（大迫，1978，1982）。玉名市では、玉名郡衙関連の倉院、庁院、講堂等において、出土した構築材と考えられる炭化材の樹種同定から用材選択に関する検討が行われている（バリノ・サーヴェイ株式会社，1994a，1994b，1994c）。その結果では、構築材にはマツ属複雑管束亜属やコナラ属コナラ亜属コナラ節等が使用されている。これらの木材は、花粉分析結果などから当時の遺跡周辺で入手可能であったと考えられている。

本報告では、柳町遺跡から出土した木製短甲の樹種を明らかにし、その用材選択に関する資料を得る。

1. 試料

試料は、木製短甲1点（挿図番号第27図37）である。

2. 方法

剃刀の刃を用いて、試料の木口（横断面）・柀目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を製作する。切片は、ガム・クロラール（抱水クロラール・アラビアゴム粉末・グリセリン・蒸留水の混合液）で封入し、プレバラートとする。プレバラートは、生物顕微鏡で透過光による木材組織の観察を行い、その特徴から種類を同定する。

3. 結果

木製短甲は、クスノキ科に同定された。解剖学的特徴などを以下に記す。

・クスノキ科 (Lauraceae sp.)

散孔材で管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または2～3個が放射方向に複合する。道管は単穿孔または階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～20細胞高。柔組織は周囲状および散在状。柔細胞には油細胞が認められる。

現在日本に生育するクスノキ科は、8属28種に分類される。このうち、クスノキとタブノキ属は、木材組織が特徴的であり、今回の試料からは除外できる。また、クロモジ属のうち、カナクギノキを除く8種は、低木や外来種のため除外できる。分布が限られるニッケイ、シバニッケイ、シナクスモドキ、アカハダクスノキ、オガサワラシ、ゲッケイジュ、アオモジも除外できる。残る樹種は、ヤブニッケイ、シロダモ、イヌガシ、カナクギノキ、ハマビワ、カゴノキ、バリバリノキであり、試料もこのいずれかと考えられる。これらの種類は、いずれも木材組織が類似しており、古材で見分けることは困難である。

4. 考察

木製短甲は、これまでも各地で出土している。その使用樹種については、奈良県平城宮跡下層から出土した4世紀後半～5世紀前半の木製短甲がヤナギ属？に同定されている（奈良国立文化財研究所，1993）。また当社未発表資料では、北部九州と中国地方でヤマグワを確認しているが、クスノキ科は確認していない。

木製短甲については、樹種同定を行った例が少ないために、現時点では用材選択の傾向や地域差などは不明である。今後さらに類例の蓄積を行い明らかにしていく必要がある。

〈引用文献〉

奈良国立文化財研究所 (1993) 木器集成図録 近畿原始編. 410p.

大迫靖雄 (1987) 高橋南貝塚出土木製品の樹種鑑定. 熊本県文化財調査報告第28集「高橋南貝塚本文」, p. 77-84, 熊本県教育委員会.

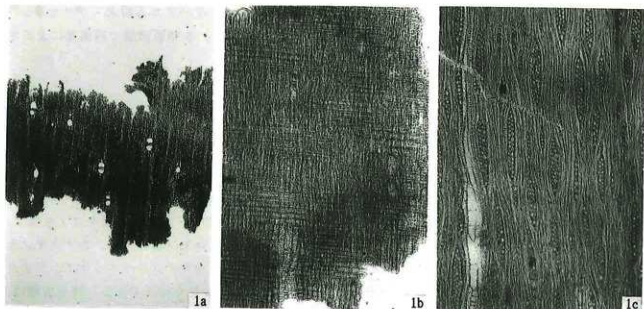
大迫靖雄 (1982) 国分僧寺出土木材. 熊本県文化財調査報告第56集「肥後国分僧寺 I 昭和56年度熊本都市計画事業水前寺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告」, p. 110-114, 熊本県教育委員会.

パリオ・サーヴェイ株式会社 (1994a) 講堂の建築材. 玉名市歴史資料集成第十二集「一市政四〇周年記念一 玉名郡衙」, p. 36-41, 玉名市・秘書企画課.

パリオ・サーヴェイ株式会社 (1994b) 炭化材の樹種. 玉名市歴史資料集成第十二集「一市政四〇周年記念一 玉名郡衙」, p. 336-338, 玉名市・秘書企画課.

パリオ・サーヴェイ株式会社 (1994c) 倉院の自然科学分析. 玉名市歴史資料集成第十二集「一市政四〇周年記念一 玉名郡衙」, p. 418-427, 玉名市・秘書企画課.

木材組織顕微鏡写真



クスノキ科 1a: 木口 1b: 経目 1c: 板目

200 μ m: a
200 μ m: b, c

2. 柳町遺跡から出土した木製品の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

1. 試料

試料は、出土した木製品2点(挿図番号第68図278, 第71図289)である。

2. 方法

剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柀目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール(抱水クロラール, アラビアゴム粉末, グリセリン, 蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

3. 結果

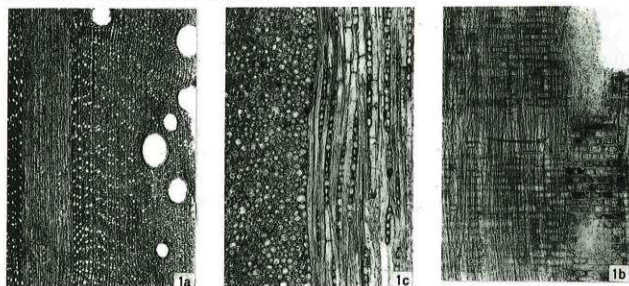
試料は2点ともアカガシ亜属であった。主な解剖学的特徴を以下に記す。

・ブナ科コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*)

試料は2点とも比較的保存状態が良好であった。放射孔材で、管壁厚は中庸〜厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1〜15細胞高のものと同放射組織とがある。柔組織は短接線状および散在状。柔細胞はしばしば結晶を含む。

アカガシ亜属(カシ類)は、いずれも常緑広葉樹で、アカガシ (*Quercus acuta* Thunberg)、イチイガシ (*Q. gilva* Blume)、アラカシ (*Q. glauca* Thunberg) など7種類がある。また、果実の構造からコナラ亜属に分類される常緑低木〜小高木のウバメガシ (*Q. phylliraeoides* Asa Gray) も、材構造上はカシ類と類似する。カシ類は、暖温帯常緑広葉樹林(いわゆる照葉樹林)の主要な構成種であり、主として西南日本に分布する。このうち最も高緯度地域にまで分布するのがアカガシで、宮城・新潟県が北限である。材は重硬・強韌で、器具・機械・建築・薪炭材などに用いられる。また種子は食用となる。

木材組織顕微鏡写真(挿図番号第68図278)



コナラ属アカガシ亜属 1a: 木口 1b: 柀目 1c: 板目

200 μ m: a
200 μ m: b, c

3. 玉名市柳町遺跡出土木製品の樹種調査結果

(株) 吉田生物研究所 汐見 真
京都造形芸術大学 岡田 文男

柳町遺跡出土の木製品40点の樹種の調査結果を報告する。

調査方法は、木製品の表面から安全カミソリで木口、柾目、板目の各切片を採取し、検鏡したものである。

・ブナ科アカガシ亜属 (*Cyclobalanopsis* sp.)

挿図番号：第17図30 第47図63 第48図67 第49図69・71 第50図73 第68図279・282
第69図283・284 第70図285 第71図290・291 第74図300・303・304
第96図315 第106図344

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちな大きさの導管が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に1～3細胞幅の独立帯状柔組織をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では、道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管と放射柔細胞との接触面には大型で櫛状の壁孔が存在する。板目では、多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の間となる型の広放射組織が見られる。

以上の検鏡結果から、上記木製品はブナ科アカガシ亜属と考えられる。

・ツバキ科ツバキ属 (*Camellia* sp.)

挿図番号：第50図74 第73図296 第74図301

散孔材である。木口ではきわめて小さい導管が、単独ないし2～3個接合して均等に分布する。放射組織は1～3細胞列で黒いすじとして見られる。木繊維の壁はきわめて厚い。柾目では導管は階段穿孔(バー数8～30)と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。導管と放射柔組織(とくに直立細胞)との接触面には大型のレンズ状の壁孔が階段状に並んでいる。放射柔細胞の直立細胞と軸方向細胞にはしゅう酸石灰の結晶を含んでダルマ状にふくれているものがある。板目では放射組織は1～4細胞列、1～40個高からなり、平伏細胞の多列部の上下または間に直立細胞の単列部がくる構造をしている。木繊維の壁には有縁壁孔が1列に多数並んでいるのが全体で見られる。

以上の検鏡結果から、上記木製品はツバキ科ツバキ属と考えられる。

・ツバキ科ヒサカキ属 (*Eurya* sp.)

挿図番号：第68図281 第74図302

散孔材である。木口ではきわめて小さい導管が単独ないし2～4個複合して平等に分布する。柾目では導管は階段穿孔と側壁に対列ないし階段壁孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏、方形、直立細胞からなり異性である。導管と放射柔細胞との接触面には対列状ないし階段状壁孔が存在する。板目では放射組織は1～4細胞列、1～40細胞高である。木繊維の壁に大型の有縁壁孔が1列に並んで多数存在しているのが見られる。

以上の検鏡結果から、上記木製品はツバキ科ヒサカキ属と考えられる。

・イイギリ科クスドイグ (*Xylosma congestum* Merr.)

挿図番号：第68図280

散孔材である。木口ではきわめて小さい導管が単独ないし放射方向に数個複合して分布している。

柎目では導管は単穿孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は直立と平伏細胞からなり異性である。板目では放射組織は1～2細胞列で、2列のものは直立細胞からなる長い単列翼部を持つ。

以上の検鏡結果から、上記木製品はイイギリ科クスドイグと考えられる。

・イヌガヤ科イヌガヤ (*Cephalotaxus harringtonia* K. Koch f. *drupacea* Kitamura)

挿図番号：第73図298・299

木口では仮導管を持ち、早材から晩材への移行は漸進的で、晩材の幅は非常に狭く、年輪界がやや不明瞭で均質な材である。樹脂細胞はほぼ平等に散在し数も多い。柎目では放射組織の分野壁孔はトウヒ型で1分野に1～2個ある。仮導管内部には螺旋肥厚が見られる。短冊形をした樹脂細胞が早材部、晩材部の別なく軸方向に連続(ストランド)をなして存在する。板目では、放射組織はほぼ単列で1～10細胞高であった。

以上の検鏡結果から、上記木製品はイヌガヤ科イヌガヤと考えられる。

・ブナ科コナラ亜属クスギ節 (*Lepidobalanus* sp.)

挿図番号：第47図64

環孔材である。木口では大導管が年輪界にそって1～数列並んで孔圈部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、厚壁で円形の小導管が単独に放射方向に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柎目では導管は単穿孔と対列壁孔を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。導管と放射柔細胞との接触面には櫛状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。

以上の検鏡結果から、上記木製品はブナ科コナラ属クスギ節と考えられる。

・ニレ科ムクノキ (*Aphananthe aspera* Planch.)

挿図番号：第72図294

散孔材である。木口では中庸の導管が単独ないし2～3個放射方向に複合して年輪界に散らばっている。軸方向柔細胞は導管の周囲を取り囲んだものやそれらがつながって白い帯の様に見えるもの(連合翼状～帯状柔組織)がある。柎目では導管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。導管と放射柔細胞との接触面には篩状の壁孔が存在する。板目では放射組織は1～5細胞列、2～25細胞高からなり板目面に平等に分布している。

以上の検鏡結果から、上記木製品はニレ科ムクノキと考えられる。

・クスノキ科タブノキ属 (*Cinnamomum* sp.)

挿図番号：第48図68 第49図70

散孔材である。木口では中庸の導管が単独または2ないし数個が放射方向あるいは斜方向に連続して年輪内に平等に分布する。軸方向柔細胞は導管の周囲を厚く鞘状に取り囲んでおり、その中に見え小さな導管と見間違える程の油細胞(樟脳油貯蔵細胞)がある。柎目では導管は単穿孔と側壁に交互壁孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。導管及び軸方向柔細胞と放射柔細胞との接触面には円形ないしレンズ状の壁孔が並んでいる。板目では放射組織は1～3細胞列、5～20細胞高からなる。放射組織の直立細胞や軸方向柔細胞が油細胞に変化したものが多く見られる。

以上の検鏡結果から、上記木製品はクスノキ科タブノキ属と考えられる。

・バラ科サクラ属 (*Prunus* sp.)

挿図番号：第70図287

散孔材である。木口ではやや小さい導管の大きさはほぼ一定で、平等に分布しているが単独あるいは放射方向ないし斜方向に連なっている。柾目では導管は単穿孔と側壁に交互壁孔及び螺旋肥厚を有する。導管内には着色物質が見られる。放射組織は同性ないし異性で中央部の平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなる。板目では放射組織は1～4細胞列、2～10細胞高からなる。

以上の検鏡結果から、上記木製品はバラ科サクラ属と考えられる。

・マメ科ネムノキ属 (*Albizia* sp.)

挿図番号：第71図292

環孔材である。木口では大導管が3～5列並んで孔圍部を形成している。孔圍外では移行するに従って大きさを減じ、年輪最外部では軸方向柔細胞と区別がつかない。軸方向柔細胞は孔圍外で顕著に周囲柔組織を形成している。放射組織は2～3列のものが走向している。柾目では導管は単穿孔と交互壁孔を有する。導管内には着色物質がある。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。板目では放射組織は1～3細胞列、5～25細胞高の少し角ばったものが多くある。

以上の検鏡結果から、上記木製品はマメ科ネムノキ属と考えられる。

・ムクロジ科ムクロジ (*Sapindus mukorossi* Gaertn.)

挿図番号：第70図288 第72図293・295

環孔材である。木口ではやや大きい導管が数列で孔圍部を形成している。孔圍外では小導管が団塊状に集合している。軸方向柔細胞は幅の広い帯状をなして接線方向に連続している(帯状柔組織)。柾目では大導管は単穿孔と多数の壁孔を有する。小導管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。板目では放射組織は1～3細胞列、2～30細胞高のものがある。

以上の検鏡結果から、上記木製品はムクロジ科ムクロジと考えられる。

・アワビキ科アワビキ属 (*Meliosma* sp.)

挿図番号：第47図65 第48図66 第50図72 第70図286 第73図297

散孔材である。木口では中庸な導管が、単独ないし柔細胞を間に挟んで2～4個放射方向に複合して分布している。幅の広い放射組織が幾筋もある。柾目では導管は階段穿孔(パー数少数)を持つ。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。板目では放射組織は1～4細胞列、2～100細胞高以上からなる。

以上の検鏡結果から、上記木製品はアワビキ科アワビキ属と考えられる。

参考文献

- | | |
|------------------------------|---------------------|
| 島地 謙・伊藤隆夫 「日本の遺跡出土木製品総覧」 | 雄山閣出版 (1988) |
| 島地 謙・伊藤隆夫 「図説木材組織」 | 地球社 (1982) |
| 島地 謙・須藤彰司・原田 浩 「木材の組織」 | 森北出版株式会社 (1982) |
| 伊藤隆夫 「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I～IV」 | 京都大学木質科学研究所 (1995～) |
| 北村二郎・村田 源 「原色日本植物図鑑木本編 I・II」 | 保育社 (1979) |

使用顕微鏡

N i k o n MICROFLEEX UFX-DX Type 115

第Ⅴ章 出土遺物観察表

一般国道208号玉名バイパス改築事業に伴う埋蔵文化財調査

調査第一区出土土器観察表

No.	調査地点	調査層	出土品名	土器形状	器種	形状	高さ	口径	底径	最大径	重量	図寸	写真	説明	土質	産地	時期	備考
1	調査1	第-1	赤-2	—	縄文土器	口縁<底縁	3.2	—	—	口縁約一辺 3.2	2.4	—	ナナコ	口縁が平縁、片口縁	赤土	縄文	1000	縄文(口縁部) (10007)
2	調査2	第-1	赤-2	—	弥生土器	口縁部	0.2	—	—	—	—	—	ナナコ	口縁部	赤土	弥生	1000	縄文(口縁部) (10007)
3	調査3	第-1	赤-2	—	縄文土器	口縁部	0.6	—	—	—	—	—	ナナコ、ナナコナ	口縁部	赤土	縄文	1000	縄文(口縁部) (10007)
4	調査4	第-1	赤-2	—	縄文土器 (口縁部)	口縁部	2.8	0.3	—	3.2	—	—	ナナコ	口縁部、口縁部、口縁部	赤土	縄文	1000	縄文(口縁部) (10007)
5	調査5	第-1	赤-2	—	縄文土器 (口縁部)	口縁部	0.2	—	—	口縁部一辺 0.2	—	—	ナナコ、口縁部	口縁部	赤土	縄文	1000	縄文(口縁部) (10007)
6	調査6	第-1	赤-2	51-1-4	弥生土器	口縁部	0.6	0.05	—	—	—	ナナコ	口縁部	赤土	弥生	1000	縄文(口縁部) (10007)	
7	調査7	第-1	赤-1	赤-1	弥生土器	口縁部	0.6	—	—	—	—	—	口縁部ナナコ	口縁部	赤土	弥生	1000	縄文(口縁部) (10007)
8	調査8	第-1	赤-17	赤-1	弥生土器	口縁部	0.0	—	—	—	—	ナナコ	口縁部	赤土	弥生	1000	縄文(口縁部) (10007)	
9	調査9	第-1	赤-12	赤-1	弥生土器	口縁部	0.0	—	—	—	—	口縁部ナナコ	口縁部	赤土	弥生	1000	縄文(口縁部) (10007)	
10	調査10	第-1	赤-12	赤-1	弥生土器	口縁部	0.6	—	—	—	—	ナナコ	口縁部	赤土	弥生	1000	縄文(口縁部) (10007)	
11	調査11	第-1	赤-9	51-1-4	弥生土器	口縁部	0.2	—	—	—	—	—	口縁部ナナコ	口縁部	赤土	弥生	1000	縄文(口縁部) (10007)
12	調査12	第-1	赤-12	赤-1	弥生土器	口縁部	0.6	—	—	—	—	—	口縁部ナナコ	口縁部	赤土	弥生	1000	縄文(口縁部) (10007)
13	調査13	第-1	赤-12	赤-1	弥生土器	口縁部	0.6	—	—	—	—	ナナコ	口縁部	赤土	弥生	1000	縄文(口縁部) (10007)	

No.	発掘層番号	遺物番号	遺物名	形状	長さ	幅	厚さ	重量	材質	用途	出所	出土状況	保存状況	調査		備考	撮影	
														年代	場所			
27	31105	27	1	18-45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					02.0	12.0	04.0	19.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					02.0	12.0	04.0	19.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
28	31105	28	1	18-45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					02.0	12.0	04.0	19.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
29	31105	29	1	18-45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					02.0	12.0	04.0	19.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30	31105	30	1	18-45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					02.0	12.0	04.0	19.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
31	31105	31	1	18-45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					02.0	12.0	04.0	19.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
32	31105	32	1	18-45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					02.0	12.0	04.0	19.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
33	31105	33	1	18-45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					02.0	12.0	04.0	19.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
34	31105	34	1	18-45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					02.0	12.0	04.0	19.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
35	31105	35	1	18-45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					02.0	12.0	04.0	19.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
36	31105	36	1	18-45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					02.0	12.0	04.0	19.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
37	31105	37	1	18-45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					02.0	12.0	04.0	19.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
38	31105	38	1	18-45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					02.0	12.0	04.0	19.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
39	31105	39	1	18-45	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
					02.0	12.0	04.0	19.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

No.	調査年度	調査区画	調査位置	出土層	出土品名	数量	形状	素材	長さ	幅	厚さ	重量	備考	写真	測定		備考		
															長さ	幅			
76	2010	第1	5-11	底層	黒	1	口縁	白磁	12.6	12.6	—	—	口縁部へ付着した土質の付着	黒	12.6	12.6	口縁部へ付着した土質の付着		
78	2010	第1	5-12	底文層	黒	1	底文層	白磁	21.1	21.1	—	—	口縁部へ付着した土質の付着	黒	21.1	21.1	口縁部へ付着した土質の付着		
81	2010	第1	5-10	X10-底層	底文層	1	底文層	白磁	14.0	14.0	0.4	0.4	—	—	—	—	—	—	
																			—
82	2010	第1	5-11	底層	黒	1	口縁	白磁	18.3	18.3	0.2	0.2	—	—	—	—	—	口縁部へ付着した土質の付着	
83	2010	第1	5-10	底層	黒	1	口縁	白磁	13.6	13.6	—	—	—	—	—	—	—	口縁部へ付着した土質の付着	
84	2010	100	5-10	底層	黒	1	口縁	白磁	12.2	12.2	0.1	0.1	—	—	—	—	—	口縁部へ付着した土質の付着	
85	2010	101	5-12	底文層	小変質	1	底文層	白磁	12.3	12.3	0.4	0.4	—	—	—	—	—	—	口縁部へ付着した土質の付着
86	2010	102	5-12	底文層	小変質	1	底文層	白磁	12.2	12.2	0.6	0.6	—	—	—	—	—	—	口縁部へ付着した土質の付着
87	2010	103	5-11	底文層	小変質	1	底文層	白磁	13.0	13.0	0.8	0.8	—	—	—	—	—	—	口縁部へ付着した土質の付着
88	2010	104	5-10	底文層	小変質	1	底文層	白磁	11.4	11.4	0.7	0.7	—	—	—	—	—	—	口縁部へ付着した土質の付着
89	2010	105	5-11	底層	小変質	1	底層	白磁	12.8	12.8	0.1	0.1	—	—	—	—	—	—	口縁部へ付着した土質の付着
90	2010	106	5-12	底文層	小変質	1	底文層	白磁	11.4	11.4	0.7	0.7	—	—	—	—	—	—	口縁部へ付着した土質の付着

No.	発掘層番号	遺物番号	遺物名	形状	長さ	幅	厚さ	重量	材質	用途	出土地	位置		出土状況	備考
												東	北		
104	20000	120	銅製小刀	短刀	0.80	—	—	—	銅製	短刀	—	—	—	銅製	銅製
105	20000	121	銅製小刀	短刀	0.60	—	—	—	銅製	短刀	—	—	—	銅製	銅製
106	20000	122	銅製小刀	短刀	0.80	—	—	—	銅製	短刀	—	—	—	銅製	銅製
107	20000	123	銅製小刀	短刀	0.80	—	—	—	銅製	短刀	—	—	—	銅製	銅製
108	20000	124	銅製小刀	短刀	0.80	—	—	—	銅製	短刀	—	—	—	銅製	銅製
109	20000	125	銅製小刀	短刀	0.80	—	—	—	銅製	短刀	—	—	—	銅製	銅製
110	20000	126	銅製小刀	短刀	0.80	—	—	—	銅製	短刀	—	—	—	銅製	銅製
111	20000	127	銅製小刀	短刀	0.80	—	—	—	銅製	短刀	—	—	—	銅製	銅製
112	20000	128	銅製小刀	短刀	0.80	—	—	—	銅製	短刀	—	—	—	銅製	銅製
113	20000	129	銅製小刀	短刀	0.80	—	—	—	銅製	短刀	—	—	—	銅製	銅製
114	20000	130	銅製小刀	短刀	0.80	—	—	—	銅製	短刀	—	—	—	銅製	銅製
115	20000	131	銅製小刀	短刀	0.80	—	—	—	銅製	短刀	—	—	—	銅製	銅製
116	20000	132	銅製小刀	短刀	0.80	—	—	—	銅製	短刀	—	—	—	銅製	銅製

No.	調査年度	調査番号	調査地区	出土位置	調査層	調査日	調査時間	発見状況	数量	長さ	幅	厚さ	重量	材質	用途	備考	調査者		備考	
																	氏名	職名		
136	昭和32	172	第-1	5-11	-5	8	10時~10時20	7.6	64.6	12.4	13.2	1.8	-	ナツル	中央部	10.0cm程度の細長多角柱状の土器 10.0cm程度の細長多角柱状の土器	氏名	職名	調査者	備考
137	昭和32	173	第-1	5-10	-5	8	10時	9.9	53.8	19.3	11.6	-	-	10.0cm程度の細長多角柱状の土器 10.0cm程度の細長多角柱状の土器	中央部	10.0cm程度の細長多角柱状の土器 10.0cm程度の細長多角柱状の土器	氏名	職名	調査者	備考
138	昭和32	174	第-1	5-10	5-11	8	10時15分~10時25分	7.3	52.6	9.8	18.9	-	-	10.0cm程度の細長多角柱状の土器 10.0cm程度の細長多角柱状の土器	中央部	10.0cm程度の細長多角柱状の土器 10.0cm程度の細長多角柱状の土器	氏名	職名	調査者	備考
139	昭和32	175	第-1	5-10	5-10	8	10時25分~10時30分	8.1	49.6	9.1	-	-	-	10.0cm程度の細長多角柱状の土器 10.0cm程度の細長多角柱状の土器	中央部	10.0cm程度の細長多角柱状の土器 10.0cm程度の細長多角柱状の土器	氏名	職名	調査者	備考
140	昭和32	176	第-1	5-11	5-10	8	10時30分~10時35分	8.3	53.8	-	-	-	-	10.0cm程度の細長多角柱状の土器 10.0cm程度の細長多角柱状の土器	中央部	10.0cm程度の細長多角柱状の土器 10.0cm程度の細長多角柱状の土器	氏名	職名	調査者	備考
141	昭和32	177	第-1	-5	-5	8	10時	9.7	-	-	-	11.3	-	ナツル	中央部	10.0cm程度の細長多角柱状の土器 10.0cm程度の細長多角柱状の土器	氏名	職名	調査者	備考
142	昭和32	178	第-1	5-11	5-10	8	10時30分~10時35分	9.3	-	-	-	8.2	-	ナツル	中央部	10.0cm程度の細長多角柱状の土器 10.0cm程度の細長多角柱状の土器	氏名	職名	調査者	備考
143	昭和32	179	第-1	5-12	5-12	8	10時	10.0	-	-	-	11.2	-	ナツル	中央部	10.0cm程度の細長多角柱状の土器 10.0cm程度の細長多角柱状の土器	氏名	職名	調査者	備考
144	昭和32	180	第-1	5-10	5-11	8	10時30分~10時35分	8.0	-	-	-	12.0	-	ナツル	中央部	10.0cm程度の細長多角柱状の土器 10.0cm程度の細長多角柱状の土器	氏名	職名	調査者	備考
145	昭和32	181	第-1	5-11	5-10	8	10時	9.8	-	-	-	10.0	-	ナツル	中央部	10.0cm程度の細長多角柱状の土器 10.0cm程度の細長多角柱状の土器	氏名	職名	調査者	備考
146	昭和32	182	第-1	5-12	5-10	8	10時25分	8.8	63.8	-	-	13.9	-	ナツル	中央部	10.0cm程度の細長多角柱状の土器 10.0cm程度の細長多角柱状の土器	氏名	職名	調査者	備考
147	昭和32	183	第-1	5-12	5-10	8	10時25分	9.2	68.0	-	-	-	-	ナツル	中央部	10.0cm程度の細長多角柱状の土器 10.0cm程度の細長多角柱状の土器	氏名	職名	調査者	備考
148	昭和32	184	第-1	5-11	5-10	8	10時	9.2	67.0	-	-	-	-	ナツル	中央部	10.0cm程度の細長多角柱状の土器 10.0cm程度の細長多角柱状の土器	氏名	職名	調査者	備考

No.	種別番号	種別名称	種別単位	種別単位	種別単位	種別単位	種別単位	種別単位	種別単位	種別単位	種別単位	種別単位	種別単位		備考	
													種別単位	種別単位		
169	200008	169	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別
170	200008	170	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別
171	200008	171	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別
172	200008	172	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別
173	200008	173	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別
174	200008	174	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別
175	200008	175	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別
176	200008	176	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別
177	200008	177	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別
178	200008	178	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別
179	200008	179	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別
180	200008	180	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別
181	200008	181	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別	種別

No.	発掘地区	発掘番号	発掘時期	出土品名	種類	形状	長さ	幅	厚	重量	材質	年代	位置		出土状況	備考	
													層	面			
200	石巻市	200	第-1	1-12	一握	短冊形	0.13	-	-	-	銅	1000	1000	1000	1000	銅板(1000×1000)	銅板(1000×1000)
209	石巻市	209	第-1	1-11	数個	短冊形	0.6	-	-	-	銅	1000	1000	1000	1000	銅板(1000×1000)	銅板(1000×1000)
210	石巻市	210	第-1	1-11	数ヶ所	短冊形	3.2	-	-	-	銅	1000	1000	1000	1000	銅板(1000×1000)	銅板(1000×1000)
211	石巻市	211	第-1	8-11	X(8)	短冊形	3.8	3.4	-	3.9	銅	1000	1000	1000	1000	銅板(1000×1000)	銅板(1000×1000)
212	石巻市	212	第-1	8-11	X(8)	短冊形	3.3	3.2	-	-	銅	1000	1000	1000	1000	銅板(1000×1000)	銅板(1000×1000)
213	石巻市	213	第-1	8-11	X(8)	短冊形	3.2	3.8	-	-	銅	1000	1000	1000	1000	銅板(1000×1000)	銅板(1000×1000)
214	石巻市	214	第-1	8-11	X(8)	短冊形	2.9	3.3	-	-	銅	1000	1000	1000	1000	銅板(1000×1000)	銅板(1000×1000)
215	石巻市	215	第-1	8-11	X(8)	短冊形	3.1	3.4	-	-	銅	1000	1000	1000	1000	銅板(1000×1000)	銅板(1000×1000)
216	石巻市	216	第-1	8-11	X(8)	短冊形	2.8	3.4	-	4.2	銅	1000	1000	1000	1000	銅板(1000×1000)	銅板(1000×1000)
217	石巻市	217	第-1	8-11	X(8)	短冊形	3.1	3.9	-	-	銅	1000	1000	1000	1000	銅板(1000×1000)	銅板(1000×1000)
218	石巻市	218	第-1	8-11	X(1-8)	短冊形	2.9	3.3	-	-	銅	1000	1000	1000	1000	銅板(1000×1000)	銅板(1000×1000)
219	石巻市	219	第-1	8-11	一握	短冊形	0.13	0.3	-	-	銅	1000	1000	1000	1000	銅板(1000×1000)	銅板(1000×1000)
220	石巻市	220	第-1	8-11	一握	短冊形	0.13	0.3	-	-	銅	1000	1000	1000	1000	銅板(1000×1000)	銅板(1000×1000)

No.	調査地点	調査区画	出土品名	出土品目	数量	重量	長さ	幅	厚	色	形状	土質	測定		備考	
													寸法	重量		
204	204E02	第-1	8-12	一匹	3.5	0.0	—	—	—	—	—	黒色粘土	—	—	黒色粘土(100%土)	黒色粘土(100%)
205	204E03	第-1	8-11	赤土層	1.9	5.1	—	—	—	—	—	黒色粘土	—	—	赤土層(100%)	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)
206	204E04	第-1	8-11	X層	0.22	—	—	—	—	—	—	黒色粘土	—	—	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)
207	204E05	第-1	8-11	一匹	0.0	0.0	—	—	—	—	—	黒色粘土	—	—	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)
208	204E06	第-1	8-09	X1, 7, 8 土層	3.2	7.5	—	—	—	—	—	—	—	—	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)
209	204E07	第-1	8-11	X層	3.0	5.5	—	—	—	—	—	—	—	—	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)
210	204E08	第-1	8-11	X層	4.1	12.7	—	—	—	—	—	—	—	—	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)
211	204E09	第-1	8-12	X層	2.2	6.4	—	—	—	—	—	—	—	—	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)
212	204E10	第-1	5-19	X 1-1層	3.7	5.7	—	—	—	—	—	—	—	—	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)
213	204E11	第-1	8-12	灰層	3.3	10.8	—	—	—	—	—	—	—	—	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)
214	204E12	第-1	8-11	赤土層	2.8	6.2	—	—	—	—	—	—	—	—	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)
215	204E13	第-1	8-11	赤土層	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)
216	204E14	第-1	7-11	一匹	0.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)	赤土層(100%) 黒色粘土(100%)

No.	発掘層号	遺物番号	出土品名	出土品形状	遺物	素材	重量	口径	高さ	最大径	長さ	厚さ	用途	出土状況	出土位置	出土層	出土時期	備考	
																			出土位置
200	200E01	200	銅製	銅製	0.20	-	-	-	-	-	-	-	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製
200	200E01	207	銅製	銅製	0.20	-	-	-	-	-	-	-	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製
200	200E01	200	銅製	銅製	0.20	-	-	-	-	-	-	-	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製
200	200E01	200	銅製	銅製	0.20	-	-	-	-	-	-	-	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製
200	200E01	200	銅製	銅製	0.20	-	-	-	-	-	-	-	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製
200	200E01	207	銅製	銅製	0.20	-	-	-	-	-	-	-	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製

調査区一丁目出土遺物観察表

No.	発掘層号	遺物番号	出土品名	出土品形状	遺物	素材	重量	口径	高さ	最大径	長さ	厚さ	用途	出土状況	出土位置	出土層	出土時期	備考	
																			出土位置
200	200E01	200	銅製	銅製	0.20	-	-	-	-	-	-	-	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製
200	200E01	209	銅製	銅製	0.20	-	-	-	-	-	-	-	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製
200	200E01	200	銅製	銅製	0.20	-	-	-	-	-	-	-	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製
200	200E01	200	銅製	銅製	0.20	-	-	-	-	-	-	-	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製
200	200E01	200	銅製	銅製	0.20	-	-	-	-	-	-	-	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製
200	200E01	200	銅製	銅製	0.20	-	-	-	-	-	-	-	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製
200	200E01	200	銅製	銅製	0.20	-	-	-	-	-	-	-	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製	銅製

No.	機軸番号	機軸番号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号		機軸記号	機軸記号	機軸記号		
													機軸記号	機軸記号					
219	20405	210	20-11	機	187228	13.3	—	—	—	—	—	—	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	
221	20405	214	20-11	機	187228	13.3	13.4	26.5	—	—	—	—	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号
222	20405	218	20-12	機	187228	13.3	13.6	—	—	—	—	—	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号
223	20405	217	20-12	機	187228	13.6	13.9	21.9	—	—	—	—	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号
224	20405	219	20-12	機	187228	13.3	13.5	26.5	—	—	—	—	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号
225	20405	219	20-12	機	187228	13.6	13.8	22.7	—	—	—	—	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号
226	20405	220	20-13	機	187228	13.6	13.8	24.7	—	—	—	—	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号
227	20405	221	20-13	機	187228	13.6	—	13.9	—	—	—	—	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号
228	20405	222	20-13	機	187228	13.3	—	13.4	3.1	—	—	—	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号
229	20405	223	20-13	機	187228	13.6	13.8	—	14.9	—	—	—	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号
230	20405	224	20-14	機	187228	3.9	3.9	—	—	—	—	—	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号
231	20405	225	20-14	機	187228	13.6	13.3	24.4	—	—	—	—	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号
232	20405	226	20-14	機	187228	13.6	14.2	13.8	—	—	—	—	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号	機軸記号

No.	種別番号	種別名称	原簿記	原簿記	原簿記	原簿記	原簿記	原簿記	原簿記	原簿記	原簿記	原簿記	原簿記	原簿記		備考
														原簿記	原簿記	
296	2011005	341	20-2	20-40	-	2011005	341	20-2	20-40	-	2011005	341	20-2	20-40	-	原簿記(原簿記) 原簿記(原簿記)
297	2011005	342	20-2	20-23	2011005	342	20-2	20-23	2011005	342	20-2	20-23	2011005	342	20-2	原簿記(原簿記) 原簿記(原簿記)
298	2011005	343	20-2	20-22	2011005	343	20-2	20-22	2011005	343	20-2	20-22	2011005	343	20-2	原簿記(原簿記) 原簿記(原簿記)
299	2011005	344	20-2	20-23	2011005	344	20-2	20-23	2011005	344	20-2	20-23	2011005	344	20-2	原簿記(原簿記) 原簿記(原簿記)
300	2011005	345	20-2	20-22	2011005	345	20-2	20-22	2011005	345	20-2	20-22	2011005	345	20-2	原簿記(原簿記) 原簿記(原簿記)

種別番号(土)種別名称

No.	種別番号	種別名称	原簿記	原簿記	原簿記	原簿記	原簿記	原簿記	原簿記	原簿記	原簿記	原簿記	原簿記	原簿記	原簿記	備考
302	2011005	347	V	20-40	-	2011005	347	V	20-40	-	2011005	347	V	20-40	-	原簿記(原簿記) 原簿記(原簿記)
303	2011005	348	V	20-40	-	2011005	348	V	20-40	-	2011005	348	V	20-40	-	原簿記(原簿記) 原簿記(原簿記)
304	2011005	349	V	10-20	-	2011005	349	V	10-20	-	2011005	349	V	10-20	-	原簿記(原簿記) 原簿記(原簿記)
305	2011005	350	V	10-23	-	2011005	350	V	10-23	-	2011005	350	V	10-23	-	原簿記(原簿記) 原簿記(原簿記)

No.	調査年度	調査地区	調査地	調査地	調査地	調査地	調査地	調査地	調査地	調査地	調査地	調査地	調査地		調査地	調査地	調査地	
													調査地	調査地				
298	昭和30年	101	V	5-22	1-1	0.20	0.20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
299	昭和30年	102	V	7-22	1-1	0.20	0.20	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
300	昭和30年	103	V	5-23	1-1	0.30	0.30	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
301	昭和30年	104	V	10-20	1-1	0.15	0.15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
302	昭和30年	105	V	1-1	1-1	0.25	0.25	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

出土石製品観察表

No.	挿図番号	遺物番号	調査区	出土地点	出土層位	器種	直径	厚さ	重量	石材	色調	備考
1	第52図	76	Ⅲ-1	K-12	IX層	有孔円板	2.6	0.3	0.3g	緑色片岩	青灰色 (5BG5/1)	

出土青銅器観察表

No.	挿図番号	遺物番号	調査区	出土地点	出土層位	器種	直径	厚さ	重量	色調	備考
1	第52図	75	Ⅲ-1	K-12	IX層	青銅鏡(破鏡)	(7.5)	2.8	37g	暗オリーブ灰色 (2.5GY4/1)	後漢鏡?

出土木製品観察表

No.	挿図番号	遺物番号	調査区	出土地点	出土層位	器種	法量(cm)		木取り	樹種	備考	
							全長	幅・径 厚さ				
1	第17図	30	III-1	III-1SK-04	-	軸柄	(36.0)	(11.2)	2.4	楕目	ブナ科アカガシ亜属	
2	第27図	37	III-1	III-1SK-12	-	短甲	(39.3)	(12.8)	1.9	楕目	クスノキ科	
3	第47図	63	III-1	SM-01	-	杭	(76.5)	6.0	-	芯持丸材	ブナ科アカガシ亜属	
4	第47図	64	III-1	SM-01	-	杭	(76.3)	6.0	-	芯持丸材	ブナ科コナラ亜属クスギ節	
5	第47図	65	III-1	SM-01	-	杭	(93.5)	4.5	-	芯持丸材	アワブキ科アワブキ属	
6	第48図	66	III-1	SM-01	-	杭	(91.0)	4.0	-	芯持丸材	アワブキ科アワブキ属	
7	第48図	67	III-1	SM-01	-	杭	(67.2)	4.0	-	芯持丸材	ブナ科アカガシ亜属	
8	第48図	68	III-1	SM-01	-	杭	(76.0)	4.8	-	芯持丸材	クスノキ科タブノキ属	
9	第49図	69	III-1	SM-01	-	杭	(102.5)	5.1	-	芯持丸材	ブナ科アカガシ亜属	
10	第49図	70	III-1	SM-01	-	杭	(80.0)	5.2	-	芯持丸材	クスノキ科タブノキ属	
11	第49図	71	III-1	SM-01	-	杭	(110.6)	6.5	-	芯持丸材	ブナ科アカガシ亜属	
12	第50図	72	III-1	SM-01	-	杭	(112.8)	6.0	-	芯持丸材	アワブキ科アワブキ属	
13	第50図	73	III-1	SM-01	-	杭	(98.0)	5.1	-	芯持丸材	ブナ科アカガシ亜属	

No.	種園番号	遺物番号	調査区	出土地点	出土層位	器種	法量(cm)			水取り	樹種	備考	
							全長	幅・径	厚さ				
14	第50区	74	III-1	SM-01	—	杭	—	4.0	(124.5)	—	ツバキ科ツバキ属		
15	第68区	278	III-1	K-09	X I 層	直柄二又鍬		36.8	18.7	1.4	楯目	コナラ属アカガシ亜属	
16	第68区	279	III-1	K-09	X I 層	横鍬		29.2	9.2	—	芯持丸材	ブナ科アカガシ亜属	
17	第68区	280	III-1	K-09	X I 層	編織		15.6	6.0	—	芯持丸材	イイギリ科クストイダ	
18	第68区	281	III-1	K-09	X I 層	編織		14.8	8.4	—	芯持丸材	ツバキ科ヒサカキ属	
19	第68区	282	III-1	J-10	X I 層	曲柄多又鍬		47.3	(3.8)	1.4	楯目	ブナ科アカガシ亜属	
20	第69区	283	III-1	K-09	X I 層	曲柄二又鍬(ナスピ形)		55.6	9.2	1.4	楯目	ブナ科アカガシ亜属	
21	第69区	284	III-1	K-09	X I 層	一本多又鍬		(93.0)	(12.0)	2.3	楯目	ブナ科アカガシ亜属	
22	第70区	285	III-1	K-09	X I 層	えぶり柄		(37.2)	—	1.2	楯目	ブナ科アカガシ亜属	
23	第70区	286	III-1	K-09	X I 層	えぶり柄		(25.4)	3.1	—	芯持丸材	アワブキ科アワブキ属	
24	第70区	287	III-1	K-09	X I 層	板状木製品		(24.3)	(7.4)	2.0	楯目	バナ科ヤナラ属	裏面全体的に炭化
25	第70区	288	III-1	J-11	X I 層	板状木製品		(32.5)	(11.1)	1.1	楯目	ムクロジ科ムクロジ	
26	第71区	289	III-1	J-10	X I 層	脚付盤		65.2	17.2	2.4	楯目	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	

No	押収番号	遺物番号	調査区	出土地点	出土層位	器種	量重 (cm)			木取り	樹種	備考
							全長	幅・径	厚さ			
27	第71図	290	III-1	J-11	X I層	不明木製品	(20.0)	5.8	1.8	柃目	ブナ科アカガシ亜属	
28	第71図	291	III-1	J-12	X I層	不明木製品	(20.6)	(8.1)	1.0	柃目	ブナ科アカガシ亜属	
29	第71図	292	III-1	J-11	X I層	不明木製品	(24.2)	(4.5)	1.9	柃目	マメ科ネムノキ属	
30	第72図	293	III-1	J-11	X I層	建築材(扉材)	100.0	(22.5)	2.6	柃目	ムクロジ科ムクロジ	
31	第72図	294	III-1	L-10	X I層	天祥棒	100.8	2.8	—	芯持丸材	ニレ科ムクノキ	
32	第72図	295	III-1	L-11	X I層	部材	(83.0)	6.6	—	芯持丸材	ムクロジ科ムクロジ	先端部炭化
33	第73図	296	III-1	L-11	X I層	堅弁	(39.0)	8.4	—	芯持丸材	ツハキ科ツハキ属	
34	第73図	297	III-1	J-11	X I層	不明木製品	60.8	3.9	2.7	柃目	アワブキ科アワブキ属	
35	第73図	298	III-1	L-10	X I層	削物未製品	16.5	11.0	—	芯持丸材	イヌガヤ科イヌガヤ	
36	第73図	299	III-1	K-10	X層	柱材	(20.5)	11.0	—	芯持丸材	イヌガヤ科イヌガヤ	尖損部炭化
37	第74図	300	III-1	K-10	X層	曲柄二又鎌(ナスビ形)	(51.2)	(12.8)	2.0	柃目	ブナ科アカガシ亜属	
38	第74図	301	III-1	K-10	X層	編織	16.4	11.2	—	芯持丸材	ツハキ科ツハキ属	
39	第74図	302	III-1	K-10	X層	編織	21.2	8.4	—	芯持丸材	ツハキ科ヒサカキ属	

No.	採回番号	遺物番号	調査区	出土地点	出土層位	器種	法量(cm)			木取り	樹種	備考
							全長	幅・径	厚さ			
40	第74図	303	Ⅲ-1	K-10	X層	直柄平鉢	(29.0)	(8.5)	1.8	柱目	ブナ科アカガシ亜属	
41	第74図	304	Ⅲ-1	K-09	X層	不明木製品	(17.0)	(12.8)	1.6	柱目	ブナ科アカガシ亜属	
42	第96図	315	Ⅲ-2	Ⅲ-2SK-11	-	椀	77.4	9.3	1.2	柱目	ブナ科アカガシ亜属	
43	第106図	344	Ⅲ-2	Ⅲ-2SE-01	-	直柄平鉢	(31.2)	(9.6)	(1.2)	柱目	ブナ科アカガシ亜属	